

始



319-380



初級戰術講授錄

陸軍大學校兵學教官陸軍步兵少佐	陸軍大學校兵學教官陸軍步兵少佐	陸軍大學校兵學教官陸軍步兵少佐	陸軍大學校兵學教官陸軍步兵少佐	陸軍大學校兵學教官陸軍步兵少佐	陸軍大學校兵學教官陸軍步兵少佐
井上繁	佐藤子之助	多門二郎	渡邊金造	吉岡顯作	河合操
講述	校正	校閱			序

陸軍大學校將校集會所

第貳卷 正
 31
 內交

初級戰術講授錄 第二卷

研究項目

遭遇戰ノ研究	一
想定	一
第一問題(支隊長ノ決心)	四
答解上ノ著眼	四
原案	八
第二問題(支隊位置ノ要圖)	一二
答解上ノ著眼	一二
第三問題(前衛司令官ノ決心)	二一
答解上ノ著眼	二一
原案	二七

二

第四問題(前衛掩護配備)……………二八
 答解ニ對スル總評……………二八
 答解上ノ著眼……………三二
 原案……………三七
 第五問題(遭遇戰指導ノ方針)……………四一
 答解上ノ著眼……………四一
 原案……………四二
 第六問題(支隊命令)……………四四
 原案……………四四
 第七問題(右縱隊ノ配備)……………四五
 原案……………四五
 第八問題(支隊命令)……………四六
 原案……………四六
 第九問題(支隊長ノ決心)……………五〇

答解上ノ著眼……………五一
 原案……………五二
 第十問題(支隊命令)……………五三
 答解ニ對スル總評……………五三
 各別命令及二段命令ノ原則的說明……………五七
 答解上ノ著眼……………五八
 原案……………六二
 第十一問題(支隊位置要圖)……………六七
 答解ノ總評及著眼……………六七
 原案……………七一
 遭遇戰ニ關スル原則的說明……………七四
 退却指揮ノ研究……………一四一
 想定……………一四一
 第一問題(支隊長ノ決心)……………一四五

四

答解上ノ著眼……………一四五
 原案……………一四六
 第二問題(支隊長ノ決心)……………一四八
 答解上ノ著眼……………一四八
 原案……………一四九
 第三問題(退却部署)……………一四九
 答解ニ對スル總評……………一四九
 答解上ノ著眼……………一五三
 原案……………一七〇
 晝間退却ニ關スル原則的說明……………一七〇
 夜間退却ニ關スル原則的說明……………一九〇
 退却行ニ於ケル後衛ニ關スル原則的說明……………一九八
 攻勢防禦ノ研究……………二〇五
 想定……………二〇五

攻勢防禦ノ爲ノ決心……………二〇七
 第一問題(支隊長ノ決心)……………二〇七
 答解ニ對スル總評……………二〇七
 答解上ノ著眼……………二一三
 原案……………二一八
 防禦陣地決定前ノ處置及動作……………二一九
 第二問題(陣地占領掩護隊ノ配備)……………二二三
 原案……………二二三
 攻勢防禦ノ爲ノ地形判斷……………二三四
 第三問題(防禦ノ爲地形判斷)……………二三四
 答解ニ對スル總評……………二三五
 答解上ノ著眼……………二三一
 原案……………二三九
 防禦配備及陣地ノ設備……………二三九

第四問題(防禦配備)……………二四〇

答解ニ對スル總評及答解上ノ著眼……………二四〇

攻勢防禦ニ關スル原則的説明……………二六四

戰術的側面陣地ニ關スル原則的説明……………三二五

前進陣地ニ關スル原則的説明……………三三五

初級戰術講授錄

第二卷研究項目終

初級戰術講授錄

第二卷

遭遇戰ノ研究

想定

所要地圖

二十萬分一

新庄、仙臺、山形近傍ノ内東根、谷地、山口、天童、山寺、漆山



- 一 敵ヲ擊攘スヘキ任務ヲ有スル南軍主力(二師團ヲ主幹トス)ハ磐井陸羽街道上仙臺北方向約二十里(方)向ヨリ南下スル優勢ノ敵ニ對シ仙臺市西方高地及同市東方平地ニ設備セラレタル陣地約一週日前ヨリ土人ヲ使役シ豫メ設備セルモノヲ占領シ福島方向ヨリ北進スル増加兵團ノ來著ヲ俟ツ
- 二 最上川河谷ニ策動シ軍主力ノ左側背ヲ安全ナラシムヘキ任務ヲ以テ米澤方向ヨリ北進セル南軍A支隊ハ二月十一日

夕戰列部隊ノ先頭ヲ以テ片谷地(山形南方約三吉)附近ニ達シ宿營セリ

此日午後八時迄ニ支隊長ノ知り得タル情報ヲ綜合スレハ概ネ左ノ如シ

(1) 軍主力前面ノ敵ハ少ナクモ四師團ヲ主幹トセルモノニシテ本十一日夕其先頭部隊ヲ以テ古川附近鳴瀬川河谷ニ達シアルモノノ如シ

(2) 軍増加兵團ノ仙臺附近ニ到著スヘキハ二月十七日夕頃ノ豫定ナリ

(3) 兵力不明ナル諸兵種連合ノ敵ノ一縱隊ハ酒田方向ヨリ最上川河谷ヲ東進シ本十一日午前十時本合海(新庄西南約一里半ニシテ同地附近最上川ニハ永久橋アリ)ヲ通

過シ東南方ニ前進セリ

(4) 別ニ約一師團ノ敵ハ横手方向ヨリ南進シ本日夕其先頭横堀(新庄北方約九里)附近ニ達シ停止セルモノノ如シ

A 支隊ノ編組

長 少將某

歩兵第一旅團(第一第二聯隊)

騎兵第一中隊

野砲兵第一大隊(聯隊段列一小隊ヲ附ス)

工兵第一中隊

衛生隊半部

輜重

野戰病院一個

步兵彈藥一縱列
砲兵彈藥一縱列
糧食一縱列

(注意)

- 一 平地ニ於ケルニ萬分一地圖上ノ片點線路ハ概ネ野砲ノ通過ヲ許ス
- 二 田ハ諸兵種ノ行動ニ妨ナシ

第一問題 (宿題)

二月十一日午後八時ニ於ケルA支隊長ノ決心(處置ヲ要セス)

第一問題答解上ノ著眼

(一) 軍主力行動ノ考察

南軍主力ハ仙臺附近ニ在ル設備陣地ヲ占領シテ鳴瀬川河谷ニ在ル約倍數ノ敵

ヲ拒止シ增加兵團ノ來著ヲ待テ攻勢ニ轉スルナラン而シテ鳴瀬川河谷ニ在ル敵ハ距離ノ關係上明十二日夕ニハ岩切七北田附近冠川ノ線ニ進出シ爾後攻撃ノ諸準備ニ著手シ諸準備ノ完成ト共ニ軍主力ニ對シ攻撃ヲ開始スルナラン然ルニ軍増加兵團ノ仙臺附近ニ到著スルハ十七日夕頃ナルヲ以テ軍ハ十八日以後ニアラサレハ元來ノ攻勢作戰ヲ企畫シ能ハサルヘシ換言スレハ軍主力ハ本來戰略的及戰術的ニ攻勢作戰ヲ要望スルモ目下ノ情況ニ於テ十七日夕迄即チ約六日間ハ戰況特別ノ好機ヲ與ヘサル限リハ戰術的守勢ヲ採ルノ已ムナキモノアリ

(二)

A支隊前面ニ於ケル敵情判斷

(イ) 酒田方向ヨリ前進スル敵兵

酒田方向ヨリ最上川河谷ヲ前進セシ敵ハ本日午前十時本合海ヲ通過セシヲ以テ引續テ行進シタランニハ距離ノ關係上本夕尾花澤附近ニ達シ得ヘシ(此敵若東進セハ向町附近ニ達シ得ヘキモ我支隊ニ對シ其軍主力ノ側面ヲ開放セサラント欲セハ南進スル公算多シ)而シテ其兵力不明企圖亦判斷シ難キモ

敵軍主力ノ行動ニ策應シテ其側背ヲ安全ナラシメ且横堀附近ニ在ル敵ノ動作ヲ掩護スル爲ニハ明十二日最上川河谷ヲ南下シテ我A支隊ヲシテ動作ノ自由ヲ得セシメサルコトニ努力スルハ必シモ至當ナラストセス

(ロ) 横堀附近ニ在ル敵兵

横堀附近ニ在ル敵ハ約一師團ニシテ目下新庄方面及古川方面ノ何レニモ進出シ得ル地點ニ位置セリ而シテ其何レノ方面ニ行動スヘキヤハ目下之ヲ判断スルノ資料ヲ有セス

(三) A支隊任務ノ解

A支隊ノ任務ハ最上川河谷ニ在リテ軍主力ノ側背ヲ安全ナラシムルニ在リ故ニ本來ノ任務ノ性質ハ戰略的持久ナリ然レトモ戰略的持久ノ任務ヲ達スルノ手段ハ必シモ戰術的持久戰ナルヲ要セス否寧ロ成シ得ル限り攻勢ニ依リテ任務ヲ解決スルヲ最良トス

A支隊ニシテ現在地若ハ其附近ニ於テ明十二日以後守勢ニ立タンカ支隊前面ノ敵ハ行動ノ自由ヲ得テ我支隊ニ對スル爲ニモ將又軍主力方面ニ行動スルニ

モ極メテ容易ナルヘク且支隊ノ位置ニシテ神町(天童北方約五吉)以南ナランカ最上川河谷ヨリ我軍主力ノ側背ニ通スル良道ヲ開放スルモノニシテ軍主力ノ側背ヲ安全ナラシムルヲ得サルノミナラス横堀附近ニ在ル敵師團ヲモ支隊方面ニ牽制シ軍主力ノ負擔ヲ輕減センコトハ全ク不可能ナリ故ニA支隊ノ任務ハ本來持久的ナリト雖當初ハ之ヲ攻勢的ニ解決スルニ努力スルヲ要ス況ヤ酒田方面ヨリ來リタル敵ハ兵力不明ニシテ其横堀附近ノ敵ト分離シアルニ乘シ各個ニ之ヲ擊破スルノ望ナキニアラサルニ於テオヤ

A支隊ニシテ攻勢的ニ前進スルモノトスレハ明十二日直前ノ敵ト遭遇戰ヲ交ユルコトヲ覺悟セサルヘカラス是當面ノ敵モ亦我ニ向ヒ前進シ來ルコトアルヘキハ前述ノ如ケレハナリ

(四) 地形一般ノ觀察

地形ヲ觀察スルノ要ハ支隊主力ノ行動地區及進路竝行進目標ヲ決定センカ爲ナリ

山形北方最上川河谷ハ連山内ノ狹谷ニシテ其中間ニハ最上川アリテ東西二區

ニ分タル東部地區ニハ羽州街道アリテ地域モ亦廣ク西部地區ハ山形―長崎―
寒河江―谷地―大石田道ノ存スルアルモ概シテ道路ノ景況不良且地域狹小ニ
シテ作戰行動自由ナラス從テ彼我共ニ主力ノ行動ハ東部地區ニ於テスルモノ
ト謂フヘシ而シテ其進路ハ羽州街道ナルヘキハ地圖ヲ一見スレハ別ニ説明ノ
要ナカルヘシ

A支隊明日ノ行進目標ハ楯岡附近ニ選定スルヲ可トス何トナレハ敵ト遭遇戰
ヲ惹起シテモ是非此地附近迄ヲ支隊ノ領有トナスニアラサレハ軍主力ノ側面
ニ通スル關山―作並―仙臺道ヲ開放スルノ不利アリ又敵ニシテ萬一守勢ヲ採
ルコトアリトスルモ銀山越ニ通スル道路ヲ開放セサル爲ニハ楯岡附近ハ之ヲ
保有シアルヘシ即チ楯岡附近ハ彼我目下ノ情況ニ於ケル一ノ要點ニシテ支隊
現在地ヨリ約七里ナルヲ以テ行進行程ノ關係モ亦適當ナレハナリ
以上研究セル諸件ヲ順序宜ク説述スレハ則チ答解ヲ得ヘシ

第一問題原案

十一日午後八時ニ於ケルA支隊長ノ決心

支隊ハ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ明十二日羽州街道ヲ楯岡ニ向ヒ前進セントス

理由

一 軍ハ仙臺附近ノ設備陣地ニ據リ鳴瀬川河谷ヨリ前進スル優勢ナル敵ヲ拒止
シ増加兵團ノ來着ヲ待テ攻勢ニ轉スルナラン而シテ軍ノ攻勢移轉ハ二月十八
日以後ナルヘシ支隊ノ任務ハ軍ノ側背ヲ安全ナラシムルニ在ルカ故ニ軍主力
ニシテ仙臺附近ニ位置スル間ハ少ナクモ神町―作並―仙臺道以南ノ地域ヲ領
有シアルヲ要ス(軍ノ行動ニ基ク任務ノ要求)

最上川河谷ノ敵ハ本合海通過後恐ラクハ東南方ニ前進セシナラン何トナレハ
我支隊ノ最上川河谷ニ存在スルニ拘ラス之ニ顧慮スルコトナク他方面ニ行動
スルハ敵本軍ノ爲側背ノ危險ヲ感スヘケレハナリ果シテ然ラハ該敵ハ距離ノ
關係上本夕尾花澤附近ニ到着シ得ヘシ而シテ此敵ハ明十二日敵軍主力ノ南進

ニ策應シ我ニ向ヒ前進シ來ルモノトシ我亦之ニ對シテ前進セハ距離ノ關係上亂川(天童北方約一里)ノ線附近ニ於テ衝突スヘク支隊ハ神町以南ノ地區ヲ領有セサルヘカラサルカ故ニ是非此敵ヲ擊破スルヲ要ス(支隊當面ノ敵狀判斷ト攻勢ノ必要)

又支隊當面ノ敵ニシテ萬一明日前進セストスルモ敵本軍ノ側背ヲ安全ナラシムル爲銀山越道ハ之ヲ開放セサルヘク從テ楯岡若ハ其附近ヲ占領スルナラン此際ニモ亦支隊ハ此敵ヲ擊破スルヲ要ス是敵本軍ノ側背ニ危險ヲ與ヘ其作戰進捗ニ惡影響ヲ與フルト同時ニ楯岡附近ノ敵ヲ牽制シ以テ我本軍ノ負擔ヲ輕減スル爲緊要ナレハナリ(敵後續兵團牽制ノ爲支隊攻勢ノ必要)
故ニ支隊ハ明日十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ前進スルヲ要ス(支隊ハ攻勢前進ヲ要スル理由)

二 支隊今後ノ作戰地域ハ最上川ニヨリテ東西兩部ニ縦斷セラレ東部地區ハ地域比較的廣ク良道ノ存スルアリテ支隊主力ノ行動地域ニ適ス西部地區ハ地域狹小且道路ノ景況不良ニシテ支隊ノ主行動區域ニハ適セサルモ山形―谷地―

大石田道アリテ全ク之ヲ不問ニ附スルヲ得ス(主作戰地區ヲ決定スル理由)
羽州街道ハ作戰地域内唯一ノ主道路ニシテ支隊主力ノ進路トナスニ適ス又支隊ハ當面ノ敵ノ攻守勢何レニ出ツルニ拘ラス之ヲ攻撃シテ少クモ楯岡附近ヲ占領スルヲ要ス而シテ此距離ハ一日行程ヲ超エス故ニ明日十二日ノ行進目標ハ楯岡附近ニ選定セララルルヲ要ス(進路及行進目標選定ノ理由)(主作戰地域、行進路及目標選定ノ理由)

狀況

一 A支隊長ハ十一日午後九時翌十二日前進ノ爲所要ノ命令ヲ下達ス

二 A支隊ハ十一日夜ノ命令ニ基キ十二日早朝運動ヲ起シ前面ノ敵兵南下ノ模様アルコトヲ知リツツ正午主力縱隊ノ歩兵先頭ヲ以テ久野本(天童町北端)□104.44道路集合點附近ニ達

第二問題 (席上)

十二日正午ニ於ケルA支隊位置ノ要圖

第二問題答解上ノ著眼

(一) 騎兵中隊ノ使用

支隊ノ作戰地域ハ軍主力方面トハ高連山地ヲ以テ離隔シアルカ故ニ到底軍騎兵ノ恩惠ニ浴スルノ見込ナク支隊ハ自己ノ有スル騎兵中隊ヲ以テ各種ノ搜索ニ從事スルヲ要ス

支隊前面ニハ二個ノ敵兵團アリ最上川河谷ヲ南進セル敵ハ本合海通過時刻ヨリ略其位置ヲ推定スルヲ得ルモ諸兵種連合ト云フノミニシテ兵種兵力ハ不明ナレハ之ニ關シ爾後戰術的ノ詳密ナル搜索ヲ要ス而シテ支隊主力ノ作戰地域ノ幅員敵トノ距離等ヲ案スルニ此戰術的搜索ハ警戒隊ノ擔任スヘキ責任範圍

ニ屬ス故ニ騎兵中隊ノ主力ハ之ヲ警戒隊ニ屬スルヲ適當トス前進ニ伴ヒ密ニ歩兵ト協同動作ヲナスノ必要アルニ於テ殊ニ然リ横堀附近ノ敵ハ兵力ハ明瞭ナルモ其爾後ノ行動ハ大ニ注目スルヲ要ス之ヲ搜索スルモノハ即チ不羈獨立ノ戰術的斥候ナラサルヘカラス即チ此目的ノ爲ニハ支隊長直轄ノ將校斥候ヲ使用スルヲ可トス

我作戰地域ハ最上川ニヨリ二地區ニ分割セラレアル關係上一中隊長ヲシテ兩地區ニ於ケル搜索勤務ヲ統一セシムルハ困難ナルヲ以テ最上川左岸地區ノ搜索ハ支隊長直轄ノ將校斥候ヲ用フルヲ要ス但シ中隊カ大石田以北ニ進出シ得タル時ハ此斥候ハ中隊長ノ指揮下ニ復セシムルヲ可トスルモ此事タルヤ全ク將來ノ事ニ屬ス

以上ノ如クナルヲ以テ騎兵中隊ハ左ノ如ク使用スヘシ

中隊主力(一分隊ト左記斥候及傳騎欠) 前衛騎兵

一分隊 右縦隊附屬

將校以下十騎 横堀方面搜索ノ將校斥候

同 七騎
四 騎

最上川左岸將校斥候
支隊長傳騎

(二) 縦隊區分

支隊ハ本日遭遇戰ヲ交ユルコトヲ豫期スト雖部隊ノ小ナルト主力ノ進路以外ニハ良道ナキト又縦隊進路兩側ノ地形ハ著シク戰鬪展開ニ妨害ヲ與ヘサルヲ以テ此點ヨリ見レハ支隊ハ一縦隊ヲ以テ前進スルヲ適當トスルカ如シ然レトモ支隊ノ作戰地ノ地形ヲ熟考スルニ山地ヨリ最上川ニ向ヒ緩傾斜ヲ以テ降下シ本道以東山地ニ近キ地區ニ一立脚地ヲ占ムルトキハ其遭遇點ノ何地ナルニ拘ラス局部的ニハ戰術上有利ナル形勢ヲ占メ得ヘシ之ヲ以テ支隊長ハ道路ノ不良ヲ忍ヒ本道東側ニ一部隊ヲ前進セシムルニ努ムルナラン
此部隊派遣ノ目的前述ノ如クナルヲ以テ其兵力ノ大小ニ拘ラス之ハ縦隊ト稱スヘキモノナリ故ニ支隊ハ本日ハ二縦隊トナリテ前進セルモノト判定スルヲ適當トス

右縦隊 歩兵第二聯隊第一大隊、同機關銃隊一小隊、騎兵一分隊

羽州街道東側地區ヲ楯岡ニ通スル里道

左縦隊

支隊ノ主力

羽州街道

(三)

支隊主力ノ軍隊區分

前衛ノ兵力及編組ハ本日ニ於ケル支隊ノ目的及地形一般ノ觀察ニ基キ比較的強大ナルモノヲ要スルハ何人モ異議ナカルヘシ從テ要務令第百十ノ主旨ニ基キ左ノ如ク定ム

歩兵一聯隊(一大隊欠)、騎兵ノ主力、砲工兵各一中隊

本前衛ニ砲兵ヲ附スルヤ否ヤニ關シテハ尙研究ヲ要スルモノアルヘシ予ハ全砲兵ヲ左縦隊本隊ノ先頭ニ近ク位置セシムルモ其一中隊ヲ前衛ニ附スルモ實際ノ使用上ニ於ケル時間ノ遲速ノ如キハ實ハ微々タルモノト思考ス故ニ實用上ニ於ケル異議ハ別ニ之ナキモ前衛カ要務令第百〇九第二項ノ任務ヲ達センカ爲ニハ砲兵ヲ要スルヲ以テ主旨トシテ之ヲ附スルヲ適當ト認ム

機關銃及工兵ノ配屬ニ關シテハ別ニ解釋ヲ要セサルヘシ
本隊ノ行軍序列ノ決定上砲兵大隊ノ主力ヲ歩兵ノ中間ニ行進セシムヘキヤ歩

兵ノ後尾ニ行進セシムヘキヤニ關シテハ前述ノ主旨並ニ戰鬪加入ノ迅速ヲ要望スルトニ由リ予ハ之ヲ中間ニ行進セシムルヲ適當ト認ム
 本隊歩兵ノ行軍序列モ亦支隊長ノ戰鬪指導ノ方針ニ基キ多少ノ差異アルヘシ其詳細ハ後日之ヲ説明セン

以上ノ如クナルヲ以テ左縦隊ノ軍隊區分ハ次ノ如クナルヲ適當トス

左縦隊

前衛

司令官 歩兵大佐某

歩兵第一聯隊(第三大隊欠)

騎兵中隊(一分隊欠) 軍隊區分ニハ斥候等ノ欠員ハ記ササルヲ常トス

野砲兵第一中隊

工兵第一中隊

本隊(同行軍序列)

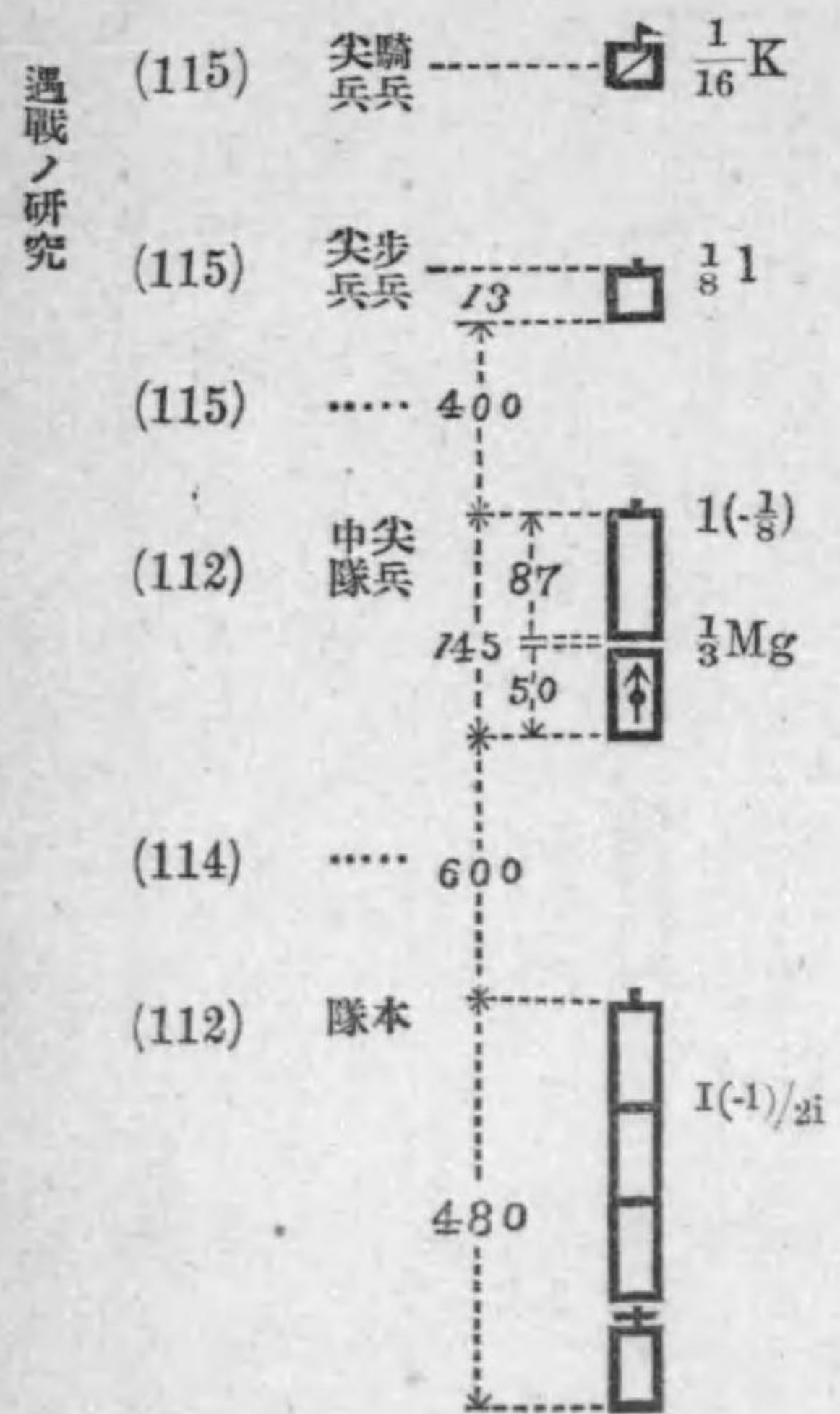
歩兵第一旅團司令部(傳騎四)

歩兵第一聯隊第三大隊
 野砲兵第一大隊(第一中隊欠)
 歩兵第二聯隊(第一大隊及機關銃一小隊欠)
 野砲兵聯隊段列一小隊
 衛生隊半部
 行軍序列ニハ記入セサルヲ常トス

(四)

各縦隊ノ行軍長徑

右縦隊 (一、六五〇米)



備考 一 部隊間ノ距離及傳騎ノ記入ハ之ヲ省略セリ

二 括弧内ノ數字ハ

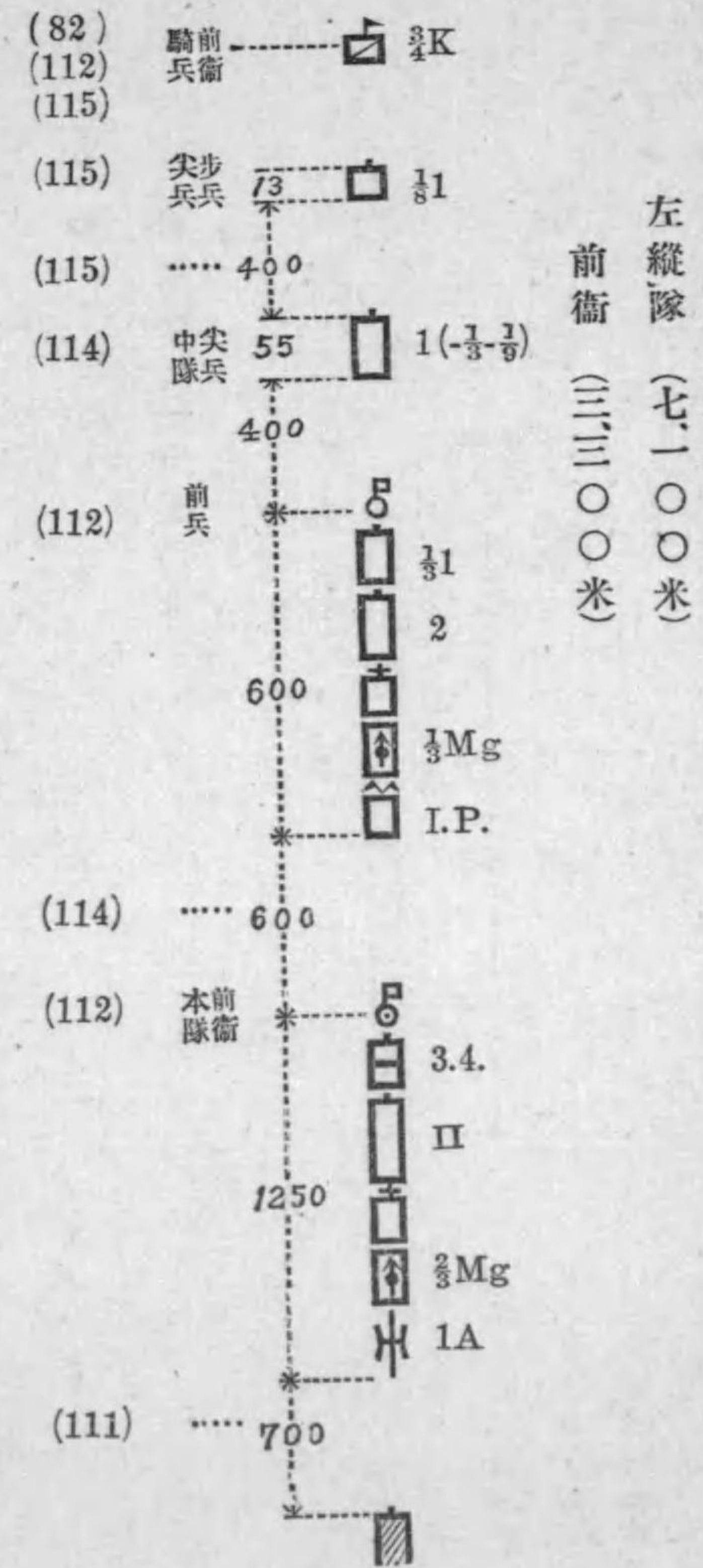
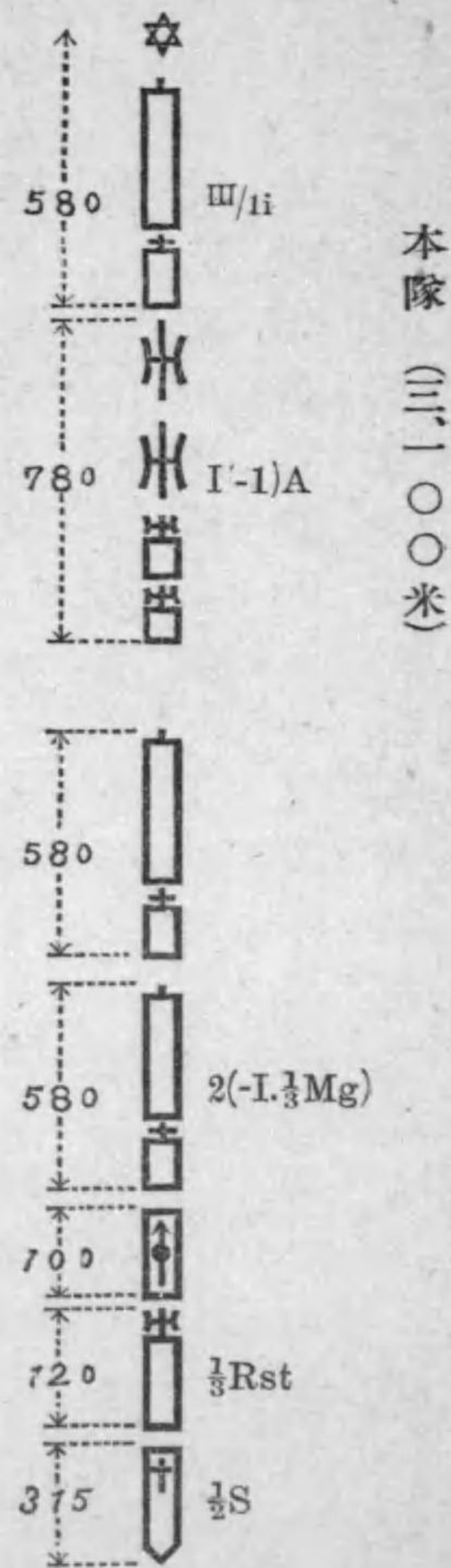
要務令ノ参照スヘキ條項ヲ示ス

左縦隊前衛司令官ハ正午前兵ノ先頭ニ在リテ行進中前衛騎兵ヨリ左ノ要旨ノ筆記報告ヲ受領ス此報告ニハ右縦隊長ニハ別

狀況

(五) 各部隊指揮官及軍隊ノ位置
要圖ノ如シ

附記 左縦隊前衛ハ尖兵中隊ヲ設クルコトナク前兵ヨリ直ニ尖兵(圖ノ



備考

- 一 各部隊間ノ距離及傳騎ノ記入ハ之ヲ省略セリ
- 二 括弧内ノ數字ハ要務令ノ参照スヘキ條項ヲ示ス
- 三 前衛騎兵ノ兵力ハ概略實員ニ相當スルモノヲ記入セリ

ニ通報セル旨附記シアリ

一 尾花澤方向ヨリ羽州街道ヲ南進スル敵ハ歩兵約六千野砲十二門ヲ有スルモノニシテ其先頭午前十時三十分楯岡北端ニ進入セリ

二 羽州街道ト最上川トノ中間地區ニ敵ノ一縱隊前進中ナルコト確實ナルモ其兵種兵力ハ未タ之ヲ知ルヲ得ス是ヨリ先キ支隊長及各指揮官ハ平時調査及諸偵察ノ結果ヲ綜合シ左件ヲ知ル

一 最上川ニハ徒涉場ナキモノノ如シ其他ノ諸小流ハ概ネ諸兵種ノ通過ヲ許ス

二 地隙、堤防及斷崖ハ一米内外ニテ徒歩兵ノ運動ヲ妨ケス

三 森林ハ部隊ノ運動、展望及射撃ヲ妨害セス但シ伏臥ノ姿

勢ヲ探ルトキハ多少ノ掩護ヲ與フ

四 村落ハ通常十米ノ高サヲ有ス
尙最上川左岸ニ派遣シタル斥候ヨリハ未タ何等ノ報告ニ接セス

此頃北方若木山方向ニ方リ緩徐ナル銃聲ヲ聞ク

第三問題 (席上)

正午ニ於ケル左縱隊前衛司令官ノ決心(決心ノミ)

第三問題答解上ノ著眼

(一) 敵情判断

本敵情判断ノ目的ハ次ノ三項ニ在リ

(1) 敵ノ兵力及兵種

(2) 敵ノ進路

(3) 豫想スル遭遇點

- (1) 敵ノ兵力ハ羽州街道ヲ前進スルモノハ支隊ト略同等ナリ而シテ同街道西側地區ニモ一縱隊行進シアリテ其兵力ハ不明ナルモ敵カ展開ノ迅速ヲ願慮シ縱隊ヲ區分シテ前進セルモノトセハ之又相等ニ有力ナルモノト考ヘサルヘカラス從テ敵ノ總兵力ハ支隊ニ比シ優勢ナルハ疑ヲ容レス
- (2) 敵主力ノ進路ノ羽州街道ナルハ明ナリ而シテ同街道西側ノ縱隊ハ道路ノ關係ヲ考フレハ名取―河嶋―長瀨―蟹澤―野田道ヲ行進中ナルヤヲ思ハシム又敵ハ楯岡以南ニ於ケル楯岡―東根―中嶋道ニ一部隊ヲ派遣スルヤモ知レス換言スレハ午前十時三十分迄ハ敵ハ二縱隊ニテ行進シアリシモ其以後ニ於テハ或ハ三縱隊トナリテ前進スルヤモ測ラレスト覺悟スルヲ要ス
- (3) 距離ノ關係ニ由リ判斷スルニ敵ノ先頭ハ正午頃東根原方面ノ橋梁此方面ニ一部ヲ派遣シタリトセハ六田南端即チ大林新田北端蟹澤ノ南端附近ニ到著シアアルヘシ故ニ彼我ノ遭遇點ハ本街道方面ニ於テハ神町若木南端附近ナ

ルヘク敵ノ左右兩縱隊モ之ニ連繫シタル線上ニ於テ衝突スルモノト考ヘサルヘカラス

以上ノ外前衛司令官ノ念トスル處ハ神町方向ノ小銃聲之ナリ想フニ此銃聲ハ我騎兵中隊カ若木山附近ヲ占領シ敵騎ヲ拒止シアルニアラサルカ

(二) 支隊長ノ意圖判斷

敵ハ支隊ヨリモ優勢ニテ且多クノ縱隊ヲ區分シテ行進シアルモノト判斷セラ

ル果シテ然ラハ支隊長ハ此際依然遭遇戰ヲ交ユルヤ將タ又地形ヲ利用シテ有利ノ戰鬪換言スレハ攻勢防禦ヲ企圖スヘキヤニ關シ前衛司令官ハ支隊長ノ意圖ヲ判斷セサルヘカラス是獨斷專行カ高級指揮官ノ意圖ニ合スルヤ否ヤハ此判斷ノ適否ニ存スルヲ以テナリ換言スレハ此判斷ハ獨斷專行ノ基礎ヲナスモノナリ

予ヲ以テ之ヲ觀ルニ敵ハ支隊ヨリ優勢ナリト雖幾何優勢ナルヤ詳言スレハ支隊長ヲシテ遭遇戰ヲ斷念セシムヘキ程優勢ナルヤ否ヤハ不明ナリ而モ任務ハ少ナクモ東根若ハ其附近ヲ占領セサルヘカラサルニ支隊長カ從來ノ決心ヲ翻

シ今遽ニ守勢ニ立ツヘシトモ思ハレヌ否支隊長ハ昨夜決心ヲナス時已ニ如斯
場合アルヘキコトハ熟慮ヲ經タルナルヘシ意志堅確ナル支隊長ハ宜シク初一
念ヲ貫徹スヘキナリ

(三) 支隊諸隊ノ位置ト展開ノ難易

支隊諸隊ノ位置ハ已ニ研究シタルカ如シ即チ主力縱隊ニ就テ之ヲ見ルニ前衛
歩兵ノ先順ハ久野本北端ニ本隊ノ後尾ハ漆山南方千手堂附近ニ在リ之ヲ沿道
ノ地形ト道路ノ方向トニ照合シテ考フルニ支隊ニシテ單ニ羽州街道西側ノ地
區ノミニ展開スルナランニハ展開ノ爲ニハ地形ハ大ナル支障ナキモ展開時間
ハ大ナルヘク若同街道兩側地區ニ展開セント欲セハ舞鶴山及其東南方ニ連ナ
ル高地アリテ展開ハ容易ナリト云ヒ難シ詳言スレハ支隊カ最迅速ナル展開
法ヲ採用センニハ現在ノ地形ハ支隊ノ爲ニ不利ナルモノト云ハサルヘカラ
ス

(四) 地形一般ノ觀察

前衛司令官ノ此地形觀察ヲ爲ス目的如何曰ク

(1) 本隊ノ展開ヲ容易ナラシムル爲ノ位置ノ選定

(2) 支隊ノ戰鬪ヲ有利ナラシムル據點ノ有無

此着眼ヲ以テ久野本、神町附近間ノ地形ヲ觀ルニ前衛司令官ノ目ニ映スルモノ
ハ恐ラクハ次ノ四線ナルヘシ

(イ) 久野本北端ノ線

(ロ) 押切川ノ線

(ハ) 亂川ノ線

(ニ) 若木山ノ線

(イ) 前衛ハ頗ル堅固ナル據點ヲ有シ守勢的ニハ良好ナルモ本隊ノ展開ニハ頗
ル不便ナリ

(ロ) 押切川ノ線ハ比較的敵ト離隔シアル爲前衛ハ安全ニシテ其行動モ亦齊整
タリ得ルモ本隊ノ展開ヲ容易ナラシムルニ缺クル處アリ

(ハ) 亂川ノ線ハ本隊ノ展開ヲ容易ナラシメ又道滿、亂川ノ村落ハ多少戰鬪ノ支
撐點トナシ得ルモ遭遇點ニ近接シアリテ動モスレハ戰鬪ヲ惹起シ前衛ハ苦

境ニ陥ルコトナシトセス

(ニ) 若木山ハ此附近ニ於ケル一ノ要點ニシテ前衛之ヲ占領セハ有利ナルニ相違ナキモ如何ニセン遭遇點ヨリモ敵方ニ近ク之ヲ占領シ得ルノ見込少ナシ若強テ之ヲ占領セント欲スレハ前衛ハ獨立攻撃ヲ企圖セサルヘカラス全般ノ狀況ニ照シ以上四線ノ可否ヲ案スルニ(イ)及(ロ)ハ前衛ノ動作ニハ安全且便利ナルモ本隊ノ動作ニハ不便ナリ元來前衛ハ本隊ノ動作ヲ有利ナラシムルコトヲ第一位トナシ自己ノ安否ハ之ヲ第二位ニ置クヘキモノナリ故ニ此線ハ適當ナラス(ハ)ハ戰鬪惹起ノ虞アリト雖本隊ノ動作ヲ容易ナラシムルニハ是非共此線迄進出スルノ必要アリ(ニ)ハ優勢ナル敵ニ對シ前衛獨力攻撃ノ危險ヲ冒ス害アリテ寧ろ過望ト認メサルヲ得ス之ヲ步兵操典第二部第四十四「戰鬪ノ支撐タルヘキ要地ハ縱令戰鬪ヲ惹起シ又正面過廣トナルノ虞アリト雖之ヲ占領スルニ躊躇スヘカラス」ノ原則ニ照シテ考フレハ本狀況ニ於テ前衛ハ亂川ノ線附近迄進出スルノ適當ナルコトヲ知り得ヘシ

(附言)

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)四線ノ利害ヲ述フレハ以上ノ如クナルモ其何レヲ採ルカハ前衛司令官ノ性格ニ關スルコト少ナカラス以テ遭遇戰ニ於ケル前衛司令官ノ人選ノ必要ト高級指揮官カ前方ニ位置シ速ニ之ニ動作ノ憑據ヲ與フルノ緊要ナルヲ知り得ヘシ(步二ノ四三)以上四線ノ何レヲ採用スルヤハ遭遇戰ノ指導ニ偉大ナル關係ヲ及スコトヲ考察スルヲ要ス
此件ニ關シテハ後ニ述フル所アラントス

第三問題 原案

十二日正午ニ於ケル左縱隊前衛司令官ノ決心

前衛ハ亂川(村)附近ヲ占領シ本隊ノ展開ヲ掩護セントス

狀況

前衛司令官ハ正午ノ決心ヲ支隊長ニ報告シ諸隊ハ急行亂川(村)

ニ向ヒ前進中ナリ此時支隊長追及シ來リ前衛司令官ハ同官ヨリ決心ニ對スル承認及爾後ノ行動ノ爲憑據トナルヘキ所要ノ指示ヲ受ク(步二ノ四三)
午後零時三十分前衛歩兵ノ先頭亂川(村)南部十字路附近ニ達スルヤ若木山附近ハ我騎兵中隊ラシキモノ之ヲ占領シアルヲ見ル

第四問題 (宿題)

左縱隊前衛掩護配備要圖

第四問題答解ニ對スル總評

考案ニ就テ

一 騎兵ヲシテ成ルヘク長ク若木山ヲ占領シアラシムルノ考案ハ主旨ニ於テハ

可ナルモ此際速ニ歩兵ノ一部ヲシテ急行ニト交代セシムルノ着意ヲ缺キシハ適當ナラス萬一此歩兵ハ後ニ敵ニ擊退セラルコトアリテモ若最初之ヲ占領シ得タランニハ支隊ノ戰鬪ニ有利ナルハ明ナリ目下我騎兵之ヲ占領シアルヲ以テ敵ニ先シテ之ヲ占領シ得ルノ公算ナキニアラス

騎兵中隊ノ主力ハ地形ノ關係上之ヲ我左側警戒ニ使用スルヲ適當トス而シテ其何レノ側方ニ在ルニ拘ラス敵ノ爲餘義ナキニ至ラサル限リハ前方ニ地歩ヲ領有シアルノ注意ヲ缺クハ不可ナリ宜シク中嶋新田又ハ羽入附近ヲ占領シアルヘシ

二 前衛ヲ以テ亂川(村)及川除ヲ占領セルモノアリ之ヲ支隊全般ヨリ觀ルトキハ展開基線ハ道滿ヨリ亂川(村)ヲ經テ川除ニ亘ル約四吉ノ正面ニ擴張スルコトトナル如斯ハ歩兵僅ニ六大隊ヲ有スル支隊トシテハ正面過廣ニ失シ到ル處薄弱トナリ到底優勢ノ敵ニ對シ決戰ヲ有利ニ指導シ得ヘキモノニアラス

三 前衛ノ陣地線ハ豫想スル敵ノ展開狀態ノ關係上此位置ニ於テ戰鬪惹起ヲ顧慮スルカ故ニ直ニ火線ヲ成シ得ヘキ如ク占位スルヲ要ス然ルニ全ク地形ヲ無

視シテ底キ河原ノ中又ハ河岸ニ位置ヲ占メタルハ適當ナラス本道東側ニ在リテハ亂川―道満道ニ沿フ附近ナラサルヘカラス本道西側ハ河岸ノ林縁ヲ占領スルハ已ムヲ得サルヘシ

四 前衛歩兵ノ重點ヲ本道附近ニ置クカ本道兩側何レニアラシムルカハ主トシテ本隊展開状態及敵ノ攻撃前進ノ方向ニ關係ス然レトモ本隊展開ノ爲餘地ヲ存スルコトヲ忘ルヘカラス否ラスシテ本隊ノ行動ヲ妨害スル如キ位置ニ在ラシムルハ前衛掩護ノ精神ニ戻ルモノトス

前衛歩兵ハ前述ノ如ク戰鬪惹起ヲ豫想スルカ故ニ之ヲ中隊縦隊トナシアル如キハ戰況ニ合セス又工事ヲ施シアルモノアルモ果シテ工事實施ノ時間アルヤ否ヤ之亦戰況ニ合セサルモノトス但シ各隊ハ現地ニ存スル地物ヲ利用シ若干ニテモ工事ヲ施シ其位置ヲ堅固ナラシムヘキ精神ナルコトハ勿論ナリ

戰況ヲ豫想セスシテ前衛司令官カ比較的多クノ豫備隊ヲ控置スルカ如キモ實況ニ合セス此際ハ恐ラクハ大部ヲ第一線トナシ火戰ヲ準備シアルヘケレハナリ又敵ノ包圍等ヲ顧慮シ一中隊又ハ一小隊位ノモノヲ所々ニ散布シタルハ適

當ナラス

五 砲兵陣地ヲ選定スルニハ本隊ノ展開ヲ掩護スルニ最モ緊要ナル方面換言スレハ最モ危險多キ方面ニ着眼スルヲ要ス此要求ヲ充足シ得テ後地形上ノ價値ニ就テ熟慮スルヲ要ス尙成シ得レハ本隊砲兵爾後ノ行動ヲモ顧慮スヘキモノトス然ルニ此等ノ件ヲ顧慮スルコトナク漫ニ射界廣キ地點等ヲ選定シタルハ戰術上ノ要旨ニ基ク砲兵陣地トハ認メ難シ(野砲草、二ノ一八)

作業ニ就テ

一 本隊主力ノ進出(展開方面)及敵ノ展開状態ノ判斷ヲ記ササルハ適當ナラス是掩護スヘキ主體ト之ニ妨害ヲ與フヘキ敵ノ行動ヲ豫測スルニアラサレハ前衛ノ掩護配備ヲ決定シ得サルヲ以テナリ

二 時刻ノ記入違算ノモノアリ先頭ヲ以テ亂川(村)ニ到着セシ時ヨリ前衛司令官カ諸命令ヲ與ヘ所望ノ姿勢ヲ採リ得ル迄ニ如何ニシテ三十分間ニシテ足ランヤ少ナクモ一時間ハ之ヲ要スヘシ此際諸官ハ再ヒ圖上ニ於テ諸隊ノ位置ヲ標示シ各部ノ關係ヲ實際的ニ熟慮スルヲ要ス

三 圖示法ニ於テ運筆ノ薄クシテ不明瞭ナルモノ及要重ナル地名ヲ脱シアルハ不可ナリ

諸隊中位置及姿勢ヲ記入スレハ足ルモノト行動ノ一部ヲ現示シ又ハ註記ヲ要スルモノトノ區別ヲ顧慮スルヲ要ス註記ト備考トヲ混同セサルヲ要ス註記ハ所要ノ個所ニ之ヲ加フルヲ本旨トス備考ハ多クハ全般ニ亘ル事項ノ參考又ハ注意トシテ記入スルモノナリ

要圖ニハ成シ得ル限り必要ノ諸件ヲ圖示スヘク已ムヲ得サルモノニ限り註記ヲ加フヘキモノトス又不必要ナル註記備考ハ却テ要圖ノ見解ヲ煩雜ナラシム之ヲ要スルニ要圖ノ調製ハ戰術上ノ考案ニ基キ何事ヲ如何ナル程度ニ記入スヘキヤヲ熟慮決定シ然ル後執筆作業ニ從事セサルヘカラス

第四問題答解上ノ著眼

本問題ノ著眼ハ極メテ簡單ナリは大體ノ方針ハ決心ノ際研究シアルヲ以テナリ
(一) 支隊主力ノ行動方面

地形一般ノ關係及二條ノ道路ニ由リテ前進スル優勢ノ敵ニ對シテ先制ノ利ヲ占メントスル希望ヨリ支隊ノ主力ハ寧ロ之ヲ本道東側方面ニ使用スルヲ可トス如斯本道ノ一側ニノミ展開スルハ展開ノ迅速ニ於テ缺クル處アルカ如キモ支隊本隊ノ歩兵ハ僅々三大隊ニシテ而モ支隊長ノ爲一部ノ豫備隊ヲ控置スレハ僅ニ二大隊ナリ故ニ已ニ一縱隊ノ本道東側ニ立脚地ヲ占メアル關係ト支隊ノ戰鬪正面ヲ顧慮シ之ヲ東側地區ニ使用スルヲ可トス

(二) 敵情判斷

本敵情判斷ノ目的ハ敵ノ展開狀態ト其重點ノ方向ヲ判斷スルニ在リ豫想スル遭遇點ハ本道附近ニ於テハ若木(村)南端附近ナルヲ以テ前衛カ亂川ノ線附近ニ於テ所望ノ位置ヲ取り終ル頃ニハ敵モ亦神町停車場附近ヲ東西ニ連ネタル線附近ニハ相當ノ兵力ヲ展開シ得ルモノト見サルヘカラス從テ前衛ハ展開完了後直ニ戰鬪ヲ惹起スルコトアルヲ顧慮スルヲ要ス而シテ敵ノ重點ハ目下ノ處本道ニ沿フ地區ニアルモノト判斷スルコトヲ得且地形ノ價值ヨリ觀ルトキハ本道東側ニ在ルヘシ

(三) 前衛ノ著目スヘキ要點

前衛ハ本隊展開掩護ノ爲ニハ本道東側若木山神町附近ノ地區ヲ重要視スヘキハ以上ノ研究ニヨリ明ナリ尙茲ニ注意スヘキハ支隊主力カ本道東側ニ使用セラルル曉ニハ敵ノ一縱隊蟹澤方面ヨリ前進中ナルヲ以テ前衛ハ責任上左側掩護ヲ負擔セサルヘカラサルコト是ナリ

(四) 前衛占領線ノ決定

前衛司令官ハ以上ノ著眼ト一般ノ狀況及地形ノ觀察ニ基キ亂川(村)附近ニ於テ如何ナル線ヲ占ムヘキヤヲ決定セサルヘカラス之カ爲大體ニ於テ本道附近ヲ重要視スヘキハ前述二個ノ要求ニ基キ明ナリ然レトモ東方ニハ右縱隊ノ存スルト本隊ノ爲餘地ヲ存スル爲前衛力遠ク側方ニカヲ用フルノ必要ナシ即チ本道ノ東方約四五百米位マテ手ヲ延サハ可ナラン而シテ西方ニハ敵ノ一縱隊前進中ナルヲ以テ縱令騎兵中隊ノ主力此方面ニ行動スルトモ前衛ハ責任上此方面ニ對シテ支隊ノ左側ヲ掩護セサルヘカラス故ニ左翼ハ少クモ亂川ノ左岸ニ於テ向原對岸附近マテハ之ヲ占領スルヲ要ス然レトモ過度ニ左翼ヲ延長シテ

川除附近ニ亘ルマテヲ占領スルハ却テ兵力分散ノ弊ニ陥ルモノナリ故ニ前衛ノ占領スヘキ線ハ右翼本道東方四百米附近ヨリ左翼向原ノ對岸附近ニ亘ル線ヲ適當トス而シテ本道東側ニ於テハ亂川―道滿道ニ沿ヒ本道及其西方ハ亂川左岸ノ森林ヲ利用スルヲ可トス

茲ニ特ニ注意ス可キモノアリ若木山ヲ占領スルノ可否之ナリ前衛ノ主力又ハ有力ナル部隊ヲ以テ之ヲ占領セントスルハ危險ニシテ動モスレハ支隊長ノ戰鬥指導ニ惡影響ヲ及スノ虞アルハ前研究ノ如シ然レトモ一部隊ヲ以テ之ヲ占領セハ縱令將來ノ支撐點トシテ保持シ得ストスルモ敵情搜索等ノ爲頗ル便ナリ又小部隊ナラハ敵ノ爲ニ驅逐セラルルコトアルモ之カ爲後方ノ部隊ニ著シキ不利ヲ及スノ虞ナカルヘシ而シテ目下尙我騎兵斥候ノ同地ニ存在スルヲ見レハ速ニ一部隊ヲ派遣セハ敵ニ先シテ之ヲ占領シ得ル見込ナキニアラス故ニ予ハ一小部隊ヲ以テ之ヲ占領セシムルヲ適當ト認ム

(五) 諸隊配備ノ概定

諸隊ノ配備ヲ決定スルニハ宜シク前衛諸隊現在ノ姿勢ヲ考慮シ如何ニセハ最

迅速ニ所望ノ姿勢ヲ採リ得ヘキヤ又何レノ部隊ヲ以テ之ニ充ツルヲ適當トスルヤヲ考察スルヲ要ス步兵操典第二部第六「狀況ニ依リ特別命令ヲ下シ或ハ先ツ單簡ナル命令ヲ以テ速ニ軍隊ヲ所要ノ位置ニ到ラシメ次ニ詳細ノ命令ヲ下スヲ有利トスルコトアリ」ト示シアル原則ヲ應用スヘキ一ノ場合ナルコトニ想到セサルヘカラス故ニ予ハ次ノ如ク部署スルヲ適當ト認ム

- (1) 第一中隊ノ一小隊尖兵ヲ合ムヲシテ急行若木山ヲ占領セシム
- (2) 第二中隊ヲシテ直ニ分進シテ向原ノ對岸ヲ占領セム
- (3) 第一大隊第一中隊ノ一小隊、第二中隊欠及機關銃一小隊ヲシテ本道(含ム)ヨリ其西方約四百米亂川左岸ノ森林西端ニ亘ル間ヲ占領セシム
- (4) 第二大隊第七第八中隊欠ヲシテ本道(含マス)ヨリ其東方約四百米間亂川—道滿道ニ沿フ地區ヲ占領セシム
- (5) 砲兵中隊ヲシテ亂川村無名祠東方約三百米突附近ニ陣地ヲ占領セシム
(砲兵中隊長ニハ是ヨリ先キ意圖ヲ示シ陣地偵察ヲ命シアルハ勿論ナリ)
- (6) 第七第八中隊及機關銃隊(一小隊欠)ハ聯隊長ノ豫備トシテ亂川南部十字

路附近亂川(村)東側ニ位置セシム

- (7) 騎兵中隊ノ主力ハ羽入村附近一部ハ中嶋新田附近ニ位置スルナラン

(六) 諸隊配備ノ細部

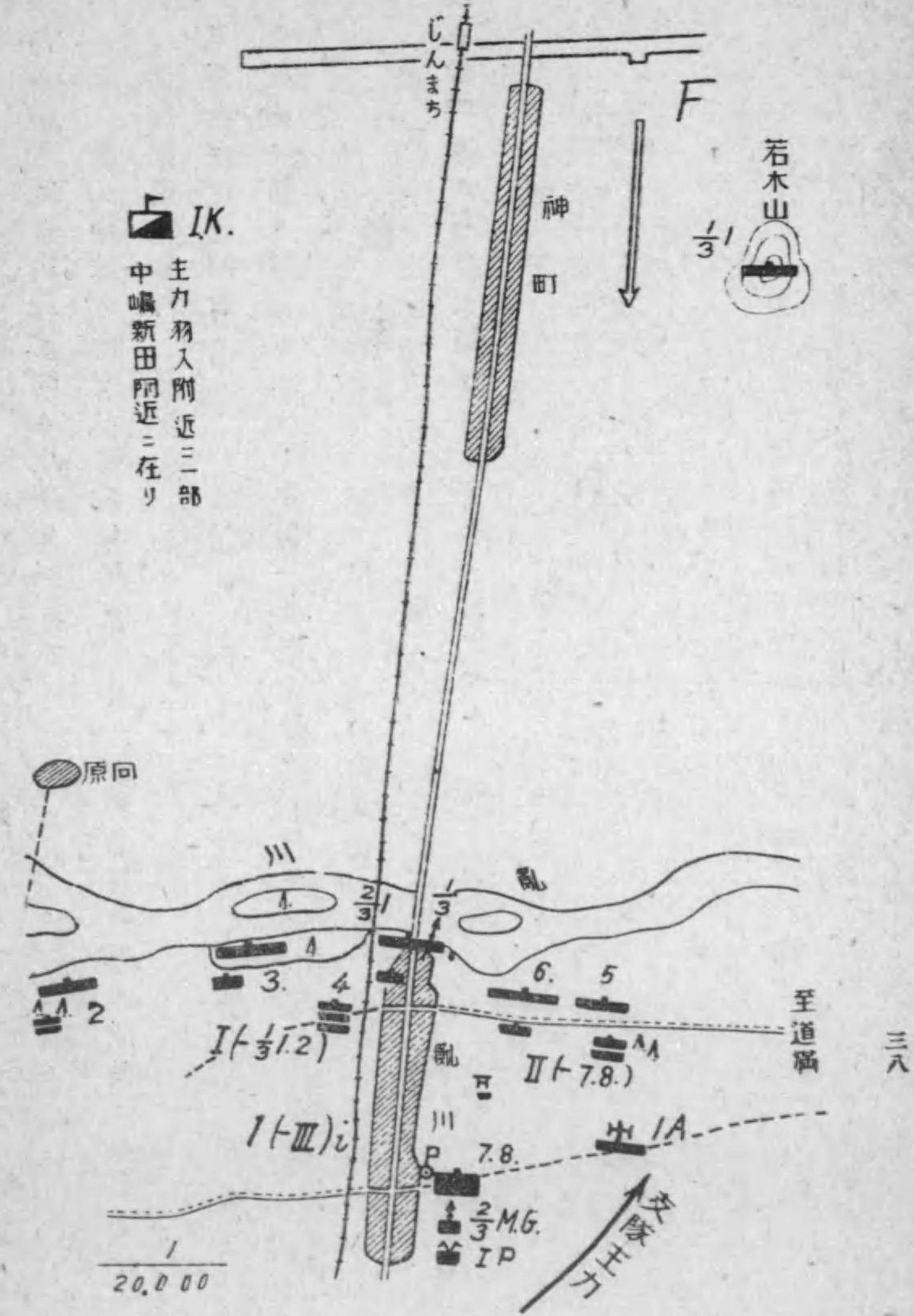
地圖上ニテ説明(略ス)

此配備ヲ採リ終ルハ速クモ午後一時三十分頃ナルヘシ

原 案

既ニ説明セシ所ト要圖トヲ對照セハ自ラ明ナラン

圖要備配護掩衛前隊縱左
分十三時一後午日二十月二



狀況

支隊長ハ正午稍過即チ零時五分頃前衛本隊ノ先頭ニ在リテ前方ニ小銃聲ヲ聞キツツ行進中前衛司令官ヨリ騎兵中隊ノ報告及前衛司令官ノ決心ニ關スル報告ヲ受領ス

(問)

支隊長ハ何ヲ爲サントスルヤ

(答)

副官ニ意圖ヲ示シ大行李輜重ヲ左ノ如ク區處セシム(傳騎ヲ以テ筆記送達)
(1) 大行李ハ先頭漆山附近ニ到着セハ停止輜重二ノ三五參照

(2) 野戰病院、步砲彈藥各半縱列ハ先進輜重トナリ天童南端ニ向ヒ前進(要、三一五)

(3) 其他ノ輜重ハ先頭山形南端ニ達セハ停止

之ト同時ニ他ノ一名ノ副官ヲシテ左ノ事ヲ區處セシム

(4) 歩兵第一聯隊第三大隊長、歩兵第二聯隊長、同聯隊第三大隊長ヲシテ前衛本隊ノ先頭ニ集合セシム

以上ノ區處ヲ命シタル後支隊長ハ砲兵大隊長及副官ヲ伴ヒ急行前衛司令官ノ許ニ到ル

狀況

零時十五分支隊長ハ久野本北端無名祠附近ニテ前衛司令官ニ追及シ同官ヨリ所要ノ報告ヲ受領ス

(問)

支隊長ハ何ヲ爲サントスルヤ

(答)

地形一般ノ觀察ヲ爲サントス

(問)

地形觀察ノ目的如何

(答)

戰鬥指導ノ方針ヲ定メンカ爲ナリ

第五問題 (席上)

A 支隊遭遇戰指導ノ方針(理由三行以內)

第五問題答解上ノ著眼

本問題ノ主旨ハ步兵操典第二部第四十六及第四十七ニ教示スル處ノ遭遇戰ノ如何ナル展開法詳言スレハ統一展開前衛ノ戰鬪ニ逐次加入敵ト離隔シテ行フ展開ノ何レノ方法ヲ採用スヘキヤ及戰鬪ノ重點ヲ何レノ方面ニ保有スヘキヤ換言スレハ本隊ヲ展開セシムヘキ地區ヲ決定スルニ在リ

已ニ述タル如ク前衛ヲシテ亂川ノ線ニ進出セシムル以上ハ戰鬪惹起ヲ豫期セサルヘカラス換言スレハ前衛ハ本隊ノ展開ヲ終ルニ先チ之ヲ掩護スルノ必要上戰鬪ヲ交ユルニ至ルヘシ故ニ支隊長ハ前衛ノ獲得シタル利益ヲ確保シ又之ヲ増大シテ戰局ヲ有利ナラシムル爲逐次戰鬪加入ヲナサシムルヲ要ス(步二ノ四六)

戰場附近ノ地形ハ東方ヨリ西方最上川ニ向ヒ緩徐ニ降下シ且羽州街道東側ニハ比較的戰鬪ノ支撐ト爲シ得ヘキ地物ヲ有スルヲ以テ敵ハ縱令同街道ノ西側ニ力ヲ用フル場合アリトスルモ支隊ハ之ヲ東南方ヨリ西北方ニ壓スル如ク主力ヲ使用スルヲ有利トス故ニ支隊ノ主力ハ本道東側地區ニ使用スルヲ可トス

原案

方針

支隊ハ前衛ノ戰鬪ニ逐次加入ヲ爲シ敵ヲ西北方ニ壓迫スルヲ要ス

理由

前衛ハ本隊ノ展開ヲ容易ナラシムル爲戰鬪惹起ヲ豫期シ亂川ヲ占領セリ故ニ主力ハ此利益ヲ確保シ之ヲ増大スル爲逐次戰鬪加入ヲ爲サシムルヲ要ス而シテ地勢一般ノ状態ハ東南方ヨリ西北方ニ敵ヲ壓スルヲ有利トスルカ故ニ主力ハ之ヲ羽州街道東側地區ニ使用スルヲ可トス

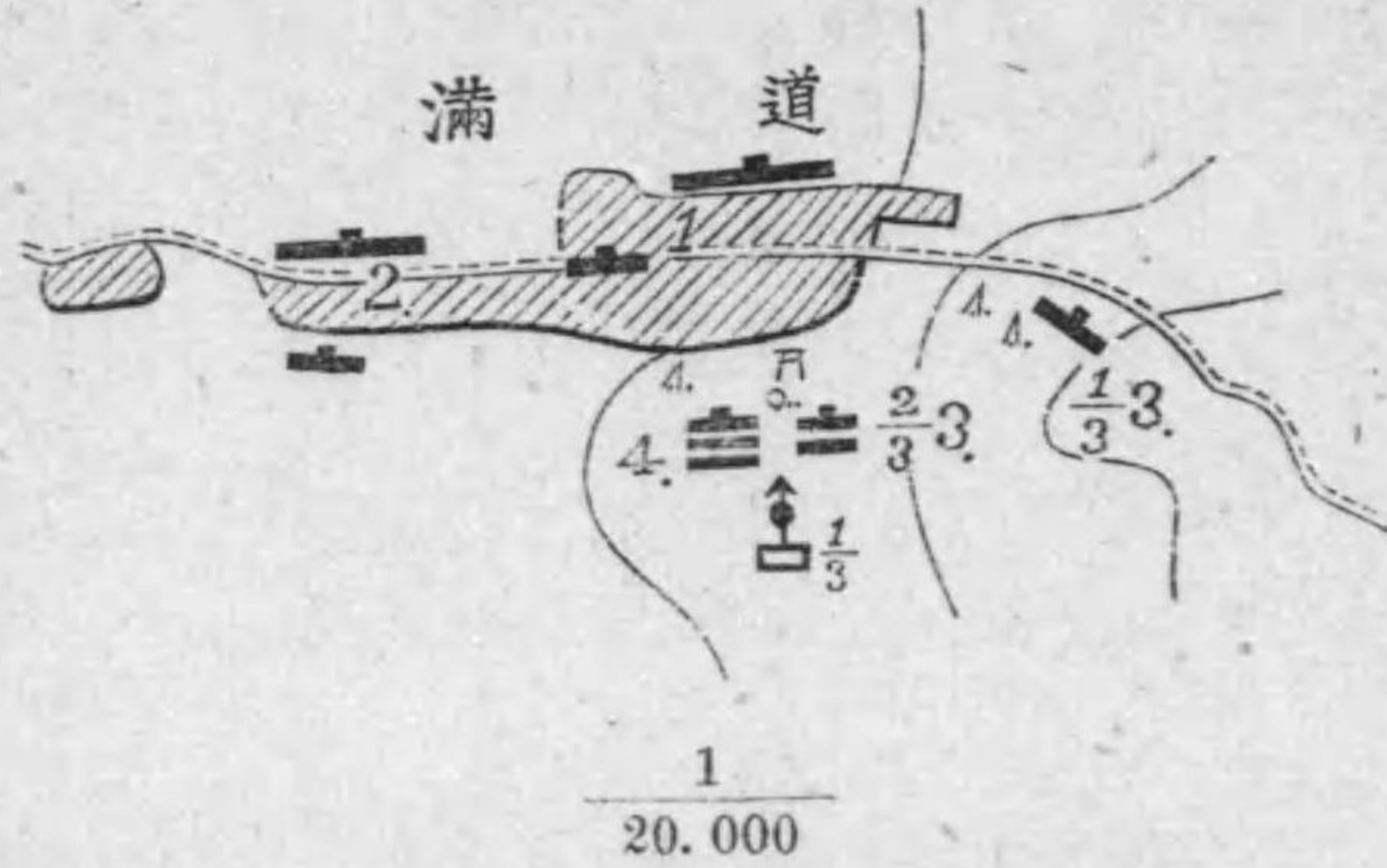
(問)

爾後支隊長ハ何ヲ爲スヤ

(答)

前衛司令官及右縱隊長ニ所要ノ命令ヲ與ヘ動作ノ憑據ヲ得セシム(步二ノ四三)

右縦隊配備ノ要圖
二十日午後一時二十分



備考

- 一 機關銃ハ第一中隊ノ右翼及第二中隊ノ左翼ニ陣地ヲ選定シ置ク
- 二 騎兵斥候ヲ以テ大森山方面ヨリ敵ノ左側背ヲ搜索ス

諸隊ハ概要不要圖ノ如ク配置セララルルヲ要ス

原案

支隊命令ニ基ク右縦隊配備ノ要圖

第六問題 (席上)

右縦隊ニ與フル支隊命令

原案

支隊命令 二月十二日午後零時二十分
於久野本北端

- 一 支隊ハ亂川(村)道滿中間地區ヨリ敵ヲ攻撃セントス之カ爲左縦隊前衛ヲシテ亂川(村)北端附近ヲ占領セシム
 - 二 右縦隊ハ道滿附近ヲ占領シ支隊主力ノ展開ヲ掩護スヘシ
 - 三 予ハ亂川(村)ニ到ル
- 傳達法 此命令ハ副官ヲシテ右縦隊長ニ達セシム

第七問題 (席上)

(問)

次ニ支隊長ハ何ヲ爲スヤ

(答)

本隊諸隊ニ分進ヲ命ス(歩、二ノ四三)

第八問題 (席上)

分進ノ爲ノ支隊命令

原案

支隊命令 二月十二日午後零時三十分

於久野本北端

本隊ハ左ノ如ク分進スヘシ

歩兵第一聯隊第三大隊 本道及其西側地區ヲ亂川南端ニ

野砲兵大隊第一中隊欠 本道ヲ亂川南端ニ(歩兵ニ先行)

歩兵第二聯隊第一、第三大隊及機關銃二小隊欠

本道(含マス)以東ノ地區ヲ道滿南側ニ

歩兵第二聯隊第三大隊及機關銃一小隊

本道ヲ亂川村東南側畑地ニ

衛生隊半部 本道ヲ久野本北端ニ

傳達法 此命令ハ支隊長自ラ已ニ招致シアル各隊長ニ口達ス但シ衛

生隊ニハ第二聯隊第三大隊ヲシテ傳達セシム

(問)

午後一時三十分頃ニ於ケル諸隊ノ位置如何

(答)

略ス(後ニ狀況ニ於テ示ス)

狀況

一 以上ノ處置ヲ終リ支隊長ハ亂川(村)ニ急行シ前衛司令官ヨリ現下ノ狀況ニ關シ報告ヲ受領シ自ラ更ニ一般ノ觀察ヲ爲シ將ニ本隊諸隊ニ展開命令ヲ下サントス

二 午後二時三十分若木山占領部隊ヨリ午後一時發左ノ要旨ノ報告ヲ受領ス

午後零時五十五分小隊ノ若木山頂ニ達スルヤ敵ノ歩兵約一大隊ハ羽州街道兩側野川ノ線ヲ占領シアルヲ見ル尙敵ノ歩兵ハ續々大林新田附近ヨリ野川ノ線ニ前進中ナリ

兵力不明ナルモ一、二大隊ト判斷セラルル敵ノ歩兵ハ同時頃蟹澤ヨリ郡山及野田ニ向ヒ前進中ニシテ敵ノ騎兵部隊ラシキモノハ三ツ屋南端附近ニ停止シアリ

敵兵ハ目撃シ得サルモ濃厚ナル塵煙ト犬吠トニ由リ判斷スルニ敵ノ歩兵部隊東根ニ進入シアルヤノ疑アリ又敵ノ騎兵約十騎ハ大森山ヲ占領シアルカ如シ

三 支隊長モ亦同時此報告ヲ一覽ス

四 當時諸隊ハ概ネ左ノ如ク位置ス

(イ)(ロ)(ハ)

右縱隊ハ午後一時二十分以來既ニ研究セシ配備ニ在リ

左縱隊前衛ハ今ヤ恰モ既ニ研究セシ配備ニ就キ終レリ

歩兵第一聯隊第三大隊ハ本道西側地區ヲ亂川南端ニ向ヒ急進中ニシテ其先頭ハ押切川ノ線ヲ越ヘツツアリ

- (二) 野砲兵大隊(第一中隊欠)ハ本道上ニ於テ亂川南端ヲ先頭トシテ停止シアリ
- (ホ) 歩兵第二聯隊(第一、第三大隊及機關銃二小隊欠)ハ天童北端久野本ヨリ分進シ其先頭ハ久野本東北端附近ニ在リ
- (ヘ) 歩兵第二聯隊第三大隊及全機關銃一小隊ハ本道上ヲ前進中ニシテ其先頭ハ老野森無名祠附近ニ在リ
- (ト) 野砲兵聯隊段列及衛生隊ハ歩兵第二聯隊第三大隊ニ續行中ナリ

第九問題 (席上)

午後一時三十分ニ於ケル支隊長ノ決心理由ハ三行以内、處置ヲ要セス)

第九問題答解上ノ著眼

本問題ノ著眼ハ午後一時若木山占領部隊發ノ報告ニ基キ午後一時三十分ニ於ケル敵ノ展開狀態及優勢ナル敵ニ對シ有利ニ戰鬪ヲナス爲支撐點ノ有無及之ヲ獲得スル爲狀況之ヲ許スヤ否ヤヲ判斷スルニ在リ午後一時ノ狀態ヨリ推斷スルニ午後一時三十分ニハ恐ラクハ敵ハ本道附近ニ二、三大隊、郡山南方野川ノ線ニ一、二大隊ハ展開シ得ヘク東根方面ニ分進セリトセハ此敵ハ今頃ハ同村附近ニ進出シ得ルノ狀況ニアルナラン之ヲ支隊ノ狀態ニ照スニ支隊ハ本道附近ニ約三大隊、道滿ニ一大隊ヲ展開シ得タルヲ以テ敵ノ展開狀態ハ我ニ比シ少シク遅レアル感アリ又東根方面ノ敵ハ楯岡以南ニ於テ分進セシ爲未タ本縱隊ト齊頭面ニ出テ得サルニアラサルカ假ニ彼我同等トスルモ地形上形勢ハ我ニ有利ナルカ如シ支隊長ハ從來遭遇點ヲ神町南端附近ト判斷シ居リシニ今ヤ神町北端附近ト豫想シ得然ルニ板垣新田、若木山、神町ノ本戰鬪ニ於テ支撐點トシテ價值大ナルハ今更説明ノ要ナカルヘク只問題ハ此際支隊カ敵ニ先シテ之ヲ取り得ルヤ否ヤニ在リ此等諸

點ハ遭遇點ヨリ我方ニ位置シアルト若木山ハ我小部隊之ヲ占領シアルトニ依リ支隊ノ占領シ得ル公算アリ而シテ若之ヲ占領セントセハ右縦隊及前衛ハ即刻ヨリ攻撃前進ニ移ルカ故ニ支隊本隊ハ此攻撃戰鬪ニ逐次加入スル如クナササルヘカラス換言スレハ先ニハ前衛等ノ掩護ノ爲ノ戰鬪即チ一時的防禦ノ戰鬪ニ加入スルコトヲ豫期セシモ今ヤ支隊ハ前衛等ノ攻撃戰鬪ニ逐次加入ヲ要スルニ至レリ

第九問題原案

午後一時三十分ニ於ケル支隊長ノ決心

支隊ハ諸隊ノ展開完了ヲ待ツコトナク即刻ヨリ攻撃前進ヲ爲サントス

理由

敵ノ展開狀態ハ我ニ比シ稍遲緩シ且豫想スル遭遇點ハ神町北端附近ト判斷スルヲ得而シテ敵ノ展開狀態同一ナリトスルモ支隊ハ地形上有利ナル形勢ニ在リ板

垣新田若木山神町ノ線ハ優勢ナル敵ニ對シ機先ヲ制シ有利ニ戰鬪ヲナス爲緊要ナル戰鬪ノ支撐ナリ而シテ支隊ハ距離上及一小部隊ノ若木山ニ存在スル關係上之ヲ獲得シ得ルノ公算アリ故ニ速カニ之ヲ獲得ニ努ムル爲前線ノ諸隊ニハ攻撃前進ヲ命シ後方諸隊ハ此攻撃ニ逐次戰鬪加入ヲ爲サシムルヲ適當トス

第十問題 (席上)

攻撃前進ノ爲ノ支隊命令

第十問題答解ニ對スル總評

考案ニ就テ

諸官ノ考案ヲ支隊長ノ決心(目的)及各隊ノ任務ニ由リ分類スレハ左ノ如シ

第一案 攻撃前進ヲ主眼トスルモノ

此案モ細別スレハ二種アリ

(イ) 併立部隊ニ地域ヲ配當シテ攻撃前進ヲ爲サシムルモノ

遭遇戰ノ研究

(ロ) 前進又ハ展開スヘキ線ヲ規定シテ攻撃前進ヲ爲サシムルモノ
是ナリ惟フニ此案ハ彼我距離及全般ノ狀況ニ依リ現在地ヨリ直ニ敵ヲ攻撃スヘ
キ任務ヲ與フルヲ以テ適當ナリト思考セシモノナラン而シテ(イ)ハ諸隊ノ動作ヲ
規正スルニ縦方向ニ於ケル地境ヲ示シ其他ハ各隊ノ協同動作ニ待タント欲シ(ロ)
ハ一度戦闘ノ要線タル若木山神町ノ線附近ニ於テ各隊ノ運動ヲ畫一ナラシメ各
個ノ戦闘ヲ避ケシメント欲スルモノナルヘシ

茲ニ攻撃戦闘ニ於ケル運動ノ統一上ニ現象ノ表ハレタルハ予ノ愉快トスル所ナ
リ前者ハ地域ヲ示シ任務ニ基キ攻撃ヲ統一スルモノニシテ現今ニ於ケル戦闘方
式ナリ後者ハ線ヲ規定シ運動ヲ畫一ナラシメントスルモノニテ日露戰役前我國
ノ採用セル戦闘方式ナリ第一案ヲ採用スル場合ニハ典令ノ指示ニ基キ任務ニ依
リ諸隊ヲ統一スル方法ヲ採用スヘキモノナリ

第二案 板垣新田若木山神町ノ線ニ進出ヲ企圖スル案

此案モ亦内容ニ由リ細別スレハ左ノ二種トナル

(一) 要線ノ占領ヲ目的トスルモノ

(ニ) 要線ヘノ前進ヲ目的トスルモノ

此案ハ支隊長ノ決心ハ攻撃前進ニアルコト勿論ナルモ本狀況ニ於テハ眞ノ攻撃
前進ヲナスニ先チ戦闘ノ要線ヲ先ツ我領有トナスノ必要アリ從テ支隊ノ攻撃前
進ハ(1)要線ヘノ進出(2)我攻撃目標ニ對スル攻撃前進ノ二階段ニ分ツヲ適當ト認
メタルモノナラン而シテ(ハ)ハ恐ラクハ「占領」ナル兵語ヲ誤用セルモノナランモ若
此字義ニヨリ任務ヲ解スルトキハ「要線ヲ占領」スルニアルカ故ニ守勢的分子ヲ含
有シアリテ意志ノ表明適切ナラス(ニ)ハ「前進運動」ナル手段ヲ命シタルモノニシテ
攻撃ノ爲ノ戦闘任務ト認ムルヲ得ス要スルニ此案ハ要線ニ進出後更ニ爾後ノ方
策ヲ定メ之ヲ命セント欲スルモノニシテ攻撃ノ意志堅固ナラサル所アリ

第三案 二個ノ意志ヲ以テ命令シアル案

此案ノ主旨トスル處モ前兩案ト大同小異ナルモ其作爲セラレタル命令ニ就テ見
ルトキハ支隊長ノ意志カ二個ノ異リタル因子ヨリ成リ居ルヤノ感アリ而シテ此
案ヲ細別スレハ左ノ如シ

(ホ) 要線ヲ占領シテ後諸隊ノ到着ヲ待ツコト及諸隊該線ニ到着セハ攻

擊前進ヲナスコトヲ目的トナスモノ(時間上又ハ縦方向ニ於ケル二個ノ意志)

(一) 一部隊ニハ要線ヲ占領セシメ又要線ニ前進ヲ命シ一部隊ニハ攻撃ヲ命スルモノ(占領又ハ前進ト攻撃トノ二個ノ意志又ハ横方向ニ於ケル二個ノ意志)

此案ハ支隊長二個ノ希望又ハ目的ヲ要求スルモノニテ要點ノ領有ト敵ノ擊破トヲ交々相達セント欲スルモノナリ換言スレハ第一、第二案ヲ折衷シタル戰術志想ヨリ湧出セル處ノモノナリ出所既ニ如斯其主旨ノ一貫セサルハ亦已ヲ得サル所ナリ

命令作爲ノ形式ニ就テ

命令ノ形式ニ就テ見ルニ左ノ三種ニシテ步兵操典第二部第六ニ指示スル凡テノモノヲ含有シアリ

- 第一 合同命令
- 第二 各別命令 (各隊毎ニ區分シアルモノ)

(概括シテ數個ニ區分シアルモノ)

第三 先ツ要旨ヲ、後ニ詳細ナル命令ヲ與フル所謂二段命令
本狀況ニ於テ合同命令ヲ與フル如キハ全ク實況ヲ無視シタルモノナリ各別命令ト稱スルハ必スシモ各隊毎ニ別々ノ命令ヲ意味スルモノニアラス爲シ得ル限り戰術的ニ概括シテ命令作爲ノ數ヲ減スルノ必要アルハ勿論ナリトス先ツ要旨ヲ示シ後詳細ナル合同命令ヲ與ヘント欲スルハ各別命令ト二段命令トノ因テ起ル主旨ヲ誤解スルモノナリ

各別命令及二段命令ノ原則的説明

各別命令トハ戰術上ノ必要ニ應シ合同命令ヲ下シ得サル場合ニ於テ所要ノ程度ニ應シ合同命令ニ準シタル内容ヲ必要ノ部隊ニ下スヲ云フナリ之必要ノ部隊ニ必要ナル事項換言スレハ自己ノ任務及協同動作ニ必要ナル諸件ヲ凡テ含有セル命令ヲ與ヘ速ニ行動ニ就カシメンカ爲ニシテ主トシテ戰機ノ切迫ニ因リテ生スルモノナリ故ニ急速ヲ要セサルカ又ハ諸隊ニ悉ク知ラシムル必要ナキ爲別ニ下

ス命令例へハ輻重ニ與フル特別命令ノ如キモノト混同セサルヲ要ス
 二段命令モ一言ニシテ云へハ必要ノ件ヲ速ニ必要ノ部隊ニ傳達セントスルノ主
 旨ナリト雖多クハ行動上準備ヲ要スル爲豫メ意圖ヲ示スヲ要スルカ、徒勞ヲ避ク
 ル必要上先ツ某件ヲ命シ置クヲ可トスル等換言スレハ無爲ニシテ時間ヲ消費セ
 シメンヨリハ取敢ヘス行動ニ就カシムルヲ可トシ全般ノ關係ハ後ニ十分了知セ
 シメ得ル時ニ用フルモノナリ固ヨリ此種ノ命令ト雖狀況上時間ノ節約ヲ目的ト
 スルコトアリト雖節約ノ真意ハ自我的ナリト謂ツヘシ
 要スルニ此兩命令ハ似テ非ナルモノニシテ時トシテ相區別シ難キコトアリト雖
 真意ハ(甲)ハ敵情ニ餘儀ナクセラレ(乙)ハ自己ノ都合ニ依ルコト多キモノトス

第十問題答解上ノ著眼

一 命令内容ノ主眼支隊長ノ意志

本命令ハ斷乎トシテ支隊長ノ已定ノ決心ヲ遂行スルモノニシテ徹頭徹尾「攻撃
 前進」ヲ以テ大著眼ト爲ササルヘカラス從テ戰鬪地域ヲ區分シ攻撃ノ任務ヲ以

テ一貫セサルヘカラス

配當セラレタル地區内ニ於ケル戰鬪ノ支撐點ハ各隊長適宜之ヲ利用スヘク何
 ソ支隊長自ラ之カ占領等ヲ命スルノ必要アラシヤ隣接地區内ノ部隊ト協同動
 作ヲナスハ我國操典ノ本旨ニシテ支隊長カ運動ヲ劃一スルノ必要ハ毫モ之ナ
 シ只此際注意ヲ要スルハ諸隊ニ配當スル攻撃目標ノ不明ナルコト是ナリ此事
 タルヤ遭遇戰ニ於ケル特徴ニシテ又茲ニ遭遇戰ノ味ノ存スル所ナリ果シテ然
 ラハ如何ニスヘキヤ、曰ク一般ノ判斷ニ基キ地區ヲ配當シ當面ノ敵ヲ攻撃セシ
 ムルコト是ナリ

(注意)

予ハ本遭遇戰指導上、板垣新田、若木山、神町等カ戰鬪ノ支撐タルヘキ要
 地ナルヲ説キ其價值ヲ述ヘタリ而シテ諸官ハ支撐點ノ價值ヲ解シタ
 ルモ攻撃戰鬪ニ於テ如何ニ之ヲ利用スヘキヤノ研究不充分ナリ換言
 スレハ支隊ノ主力又ハ全力ヲ以テ守勢的ニ之ニ固著スヘキモノナリ
 ヤ地區ヲ配當シ各隊ヲシテ之ヲ利用シツツ戰況ヲ發展セシムヘキモ
 ノナリヤ等ノ研究足ラス是諸官ノ考案カ多種多樣トナリシ所以ナリ

(二) 命令ノ種類

各別命令ヲ可トシ且所要ニ應シ戰術的ニ概括シ爲シ得ル限リ少數ノ命令トスルヲ可トス又當初必要ナラサル諸部隊ニハ第二次ノ命令トナスヲ可トス

(三) 命令ノ數

之カ爲ニハ諸隊ノ位置及諸隊長ノ位置並支隊長ノ許ニ連絡ノ爲到著シアル命令受領者ノ存否ヲ實際的ニ考察スル必要アリ

步兵第一聯隊(第三大隊欠) 亂川北端、聯隊長ハ支隊長ノ許

野砲兵大隊 一中隊ハ放列、主力ハ先頭ヲ以テ亂川南端、大隊長ハ支隊長ノ許

工兵中隊 亂川、中隊長ハ支隊長ノ許

步兵第一聯隊第三大隊 先頭押切川ノ線、大隊長ハ支隊長ノ許

右縱隊 道滿、縱隊長同地

步兵第二聯隊第一、第三大隊及機關銃二小隊欠) 先頭糠塚西北附近、聯隊長ハ

先行シテ道滿ニ達シアルカ又ハ將ニ達セントスル頃ナリ連絡ノ爲副官ヲ

支隊長ノ許ニ派遣シアリ今ヤ急行中ナルヘシ

步兵第二聯隊第三大隊及機關銃一小隊 先頭倉津川ノ北方約二百米本道上、

大隊長ハ先行中

衛生隊 步兵第二聯隊第三大隊ニ續行スル野砲兵聯隊縱列ノ後方、隊長ハ支

隊長ニ連絡ノ爲先行

先進輜重 所命ノ地ニ前進中ニテ連絡ノ爲一將校ハ先行中

騎兵中隊ノ主力 羽入附近ニ在リテ左側ノ警戒中

以上ノ如クナルヲ以テ命令ハ次ノ如ク區分スルヲ得ヘシ

步兵第一聯隊(聯隊長、第三大隊長共)

野砲兵大隊

工兵中隊

步兵第二聯隊第三大隊及機關銃一小隊欠)

步兵第二聯隊第三大隊及機關銃一小隊

衛生隊

先進輜重

一括シテ一命令(第一)

一命令 (第二)

一括シテ一命令(第三)

特別命令 (第四)

騎兵中隊

第二次命令 (第五)

- 第一命令 隊長ヲ集メ支隊長自ラ口演ス
- 第二命令 聯隊副官到著シアレハ該官ニ否ラサレハ一旅團副官ヲシテ道滿ニ向ヒ急行、聯隊長大隊長へ同時ニ口達
- 第三命令 他ノ旅團副官ヲシテ本道ヲ南進多分途中連絡者ニ遭遇スルナラン
口達
- 第四命令 副官歸來後筆記シテ傳騎ヲ以テ送達
- 第五命令 同右

第十問題原案

- 第一 歩兵第一聯隊、野砲兵大隊、工兵中隊へ
支隊命令 二月十二日午後一時四十分
於亂川南部十字路
- 一 支隊ハ即刻ヨリ攻撃前進ヲナサントス
- 二 歩兵第一聯隊(騎兵一分隊ヲ附ス)ハ若木山(含ム)道滿西端ノ線以西ノ地區ヨ

リ當面ノ敵ヲ攻撃スヘシ

歩兵第二聯隊、第三大隊及機關銃一小隊欠ヲシテ前述ノ線以東ノ地區ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃セシム

歩兵第二聯隊、第三大隊及機關銃一小隊ハ豫備隊トナリ歩兵第一聯隊ノ後方ニ續行セシム

三 野砲兵第一大隊ハ神町東南方約六百米附近ニ於テ主トシテ本道東側地區ヲ射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領シ支隊ノ攻撃ヲ援助スヘシ

四 工兵中隊ハ砲兵大隊ノ陣地占領ヲ援助シ後神町東南側畑地ニ到リ同地ニ來ルヘキ歩兵第二聯隊、第三大隊ト共ニ豫備隊トナルヘシ

五 予ハ神町南端附近ニ在リ後若木山ニ到ル

第二 歩兵第二聯隊へ

支隊命令 二月十二日午後二時
於亂川南部十字路

一 敵ハ本道兩側野川ノ線ニ展開中ニシテ東根附近ヨリモ敵ノ一部隊前進中ナルカ如シ

遭遇戦ノ研究

- 二 支隊ハ即刻ヨリ攻撃前進ヲナサントス
- 三 歩兵第二聯隊第三大隊及機關銃一小隊ヲ缺キ騎兵一分隊ヲ附スハ若木山(含マス)道滿西端ノ線以東ノ地區ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃スヘシ
- 步兵第一聯隊ハ前述ノ線以西ノ地區ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃シ野砲兵大隊ハ神町東南側畑地ニ陣地ヲ占領シテ支隊ノ攻撃ヲ援助ス又歩兵第二聯隊第三大隊及機關銃一小隊ハ豫備隊トシテ歩兵第一聯隊ノ後方ニ續行ス
- 四 予ハ神町南端附近ニ在リ後若木山ニ到ル
- 第三 歩兵第二聯隊第三大隊、衛生隊へ

支隊命令 二月十二日午後二時十分
於亂川村南部附近

- 一 敵ハ本道兩側野川ノ線ニ展開中ナリ
- 二 支隊ハ即刻ヨリ攻撃前進ヲナサントス
- 之カ爲歩兵第二聯隊(第三大隊及機關銃一小隊欠)ヲ右第一線、歩兵第一聯隊ヲ左第一線トナシ本道東側地區ヨリ敵ヲ攻撃セシメ砲兵大隊ハ神町東南側畑地ニ陣地ヲ占領シ支隊ノ攻撃ヲ援助セシム

- 三 歩兵第二聯隊第三大隊及同機關銃一小隊ハ神町東南側畑地ニ至リ後ニ來ルヘキ工兵中隊ト共ニ豫備隊トナルヘシ
- 四 衛生隊ハ亂川北端附近ニ綑帶所ヲ開設スヘシ
- 五 予ハ神町南端附近ニ在リ後若木山ニ至ル
- 第四 先進輜重へ

支隊命令 二月十二日午後二時二十分
於亂川

- 一 支隊ハ本道兩側野川ノ線ニ展開中ナル敵ヲ攻撃セントス
- 二 野戰病院ハ久野本北端附近ニ開設スヘシ
- 三 歩砲兵彈藥縱列ハ天童南端ニ於テ彈藥補充ノ準備ヲナスヘシ
- 四 予ハ神町南端附近ニ在リ
- 第五 騎兵中隊へ

支隊訓令 二月十二日午後二時三十分
於亂川

- 一 支隊ハ主力ヲ以テ本道東側地區ヨリ敵ヲ西北方ニ壓迫スル如ク攻撃セントシ午後一時五十分頃亂川ノ線ヨリ攻撃前進ヲ開始セリ

予ノ特ニ顧慮スルハ敵兵野田方向ヨリ我左翼ヲ包圍スルコト是ナリ

- 二 騎兵中隊ハ當面ノ狀況ニ應シ敵ノ右側ヲ脅威シ該方面ニ於ケル敵ノ戰鬪參加ヲ妨害シ第一線左翼部隊ト協力シ支隊ノ左側ヲ安全ナラシムヘシ
- 三 予ハ神町南端附近ニ在リ

狀況

諸隊ハ支隊命令ニ基キ所命ノ行動ヲ取リツツアリ午後二時半頃我砲兵ハ有利ナル目標ヲ發見セシト見ヘ獨斷ヲ以テ射撃ヲ開始セリ此頃步兵第一聯隊第一線ノ最前ノ部隊ハ若木山、神町北部、本道上^{112, 48}附近ニ達スルヲ得タリ
敵ハ小林南方約千米^(124, 3)ノ東方約二百米附近野川ノ線ヨリ野田南方野川ノ線ニ亘リ展開シ今ヤ前進ヲ爲サントシツツアリ而シテ其砲約十二門ハ大林新田南方^{112, 17}東南方約四百

米畑地ニ陣地ヲ占領シアリ尙大林新田附近ニハ敵ノ密集部隊アルカ如シ

第十一問題 (宿題)

午後二時三十分ニ於ケル支隊諸隊位置ノ要圖

第十一問題答解ノ總評及答解上ノ著眼

本問題ハ支隊命令ニ基キ各隊長如何ニ自己ノ戰鬪任務ヲ解シテ之ヲ實施スルヤ又隣接部隊及各兵種ハ此際如何ニ協同動作ヲ爲スヘキヤ午後二時三十分ノ時機ニ於テ後續諸隊ハ如何ナル關係位置ニアルヤ換言スレハ支隊長トシテ本遭遇戰ノ指導ニ際シ危機ノ存スルハ何レノ時機ニシテ如何ナル狀況ヲ呈スルヤヲ了解セシメンカ爲ニ之ヲ課シタリ然ルニ諸官ハ漫然板垣新田、神町ノ線ニ於テ充分時間ノ餘裕ヲ有スル場合ノ支隊攻撃展開要圖ヲ呈セシハ予ノ意外トスル所ニシテ又驚愕措ク能サル所ナリ此點ハ諸官ノ爲特ニ遺憾トス老婆心ナカラ一言注意セ

ン、往々基礎ナキ常識的戰術ヲ以テ能事至レリトナスノ弊ニ陥リ易キハ本邦一般兵學界ノ傾向ナリ諸官ハ宜ク此點ニ留意シ自ラ奮勉努力スルニアラサレハ三年間ヲ空々ニ消費シ得ル處ナクシテ終ルナキカヲ憂フルコト是ナリ

本問題ノ考案順序及方法ハ次ノ如クナラサルヘカラス

(一) 歩兵第一聯隊主力ノ動作

歩兵第一聯隊ノ主力ハ若木山、神町ノ線ニ進出ノ際部署ノ變更ヲ要スルヤ否ヤ特ニ若木山ニ在ル第一中隊ノ一小隊及向原對岸ニ在ル第二中隊ハ何等カ處置スル必要ナキヤ又聯隊主力ノ重點ヲ移動セシムルノ必要ナキヤ等之ナリ予ヲ以テ之ヲ見レハ一言ニシテ盡シ得曰ク全ク變更ノ必要ナシ否戰況上變更スルハ不可ナリ此際多少建制ヲ破ルカ如キハ敢テ意トスルニ足ラス若木山ハ第一中隊ノ一小隊ノ外更ニ機關銃ノ一部ヲ以テ之ヲ占領シ據點トシテ利用セサルヘカラス又第二中隊ハ敵ノ包圍ニ對シ神町西方^{South}附近ニ向ヒ前進スルヲ要シ且聯隊ノ後方部隊ハ敵ノ左翼包圍ニ對スル顧慮上本道西側ニ位置スルヲ適當トス

(二) 第二聯隊第一大隊ノ行動

此大隊ノ行動上注意ヲ要スルハ此大隊ト若木山中間ニ將來同聯隊第二大隊ノ挿入使用セラルルコト是ナリ此際之ヲ外翼ニ使用スルハ迂路ヲ取り機ニ遅ルルノ虞アリ又此大隊ヨリ一小部隊例ヘハ一小隊位ノモノヲ以テ速ニ中島新田ニ進出セシムルヲ可トスは一ハ大森山ノ敵騎ニ對シ一ハ敵ノ左翼ヲ斜射シ得ルカ爲ナリ

(三) 野砲兵大隊ノ行動

砲兵大隊現下ノ位置ト任務トヲ顧慮セサルハ不可ナリ即チ歩兵カ亂川ノ線ヨリ板垣新田、神町ノ線ニ進出スル間ニ砲兵ノ協力ヲ要スルコトナキヤ否ヤ神町東側畑地ニ於ケル陣地ハ歩兵砲兵ノ協同上地域ノ關係如何又本道西側地區ニ砲兵ノ一部ヲ使用スル必要ナキヤ否ヤ等是ナリ第一中隊ハ已ニ陣地ヲ占領シ第二第三中隊ハ途上縱隊ニ在リ且亂川ノ線ヨリ前進ニ際シ歩兵ヲ援助スルノ必要ヲ生スヘキ場合ヲ顧慮シ第一中隊ハ暫ク現在地ニ位置セシメ其他ノ主力ヲ以テ速ニ神町東側畑地ニ陣地ヲ占領スルヲ要ス此陣地ハ歩兵線ヲ距ル五百

米前後ニシテ最初ハ射界上多少不便ヲ感スルコトアルヘク地域モ亦充分トハ認メ難シ然レトモ完全ナル陣地ヲ得ント欲シテ例ヘハ板垣新田附近等ニ進出セントスレハ時機ヲ失スルノ虞アリ且本道西側ノ戰況ニ應スルコト困難ナリ最良ノ陣地ヲ得ムト欲シテ戰鬪ノ時機ヲ失スルコトハ操典ノ戒ムル所ナリ(野草、二ノ一八)又次テ到著スヘキ第一中隊ハ之ヲ若木山東側地區ニ進出セシムルヲ可トス是既ニ砲戰ヲ開始シアル砲兵ノ近傍ニ後レテ陣地ニ進入スルノ不利ヲ避ケサルヘカラサル(野草、二ノ二六)ト同時ニ必要ニ際シ之ヲ隨伴砲兵ノ用ニ供センカ爲ナリ但シ萬一ノ場合ヲ顧慮シ羽州街道西側地區ニモ第二次砲兵ノ爲陣地ヲ偵察シ置クノ注意ハ可ナリ(諸官中若此砲兵ハ何レニ使用スルヲ適當トスヘキヤ判斷シ難シトナスモノアラハ作業上之ヲ控置砲兵トスルモ不可ナカラン予ハ決戰ニ使用スル考大ナルカ故ニ此案ニハ同意セス)

(四) 騎兵中隊主力ノ行動

騎兵中隊ノ主力ハ本戰況ニ於テハ步兵第一聯隊第二中隊ト協力スヘク徒歩戰ヲ爲シアルモノト思考スルヲ適當トス

(五) 後續諸部隊

步兵第一聯隊第三大隊ハ聯隊長ノ指揮下ニ復歸セシメラレ今ヤ神町南端ヲ距ル南方約三四百米附近ヲ急進中ナリ而シテ此隊ハ恐ラクハ二段ニ聯隊長ノ手裡ニ復セラルルニ至ルナルヘシ何トナレハ支隊長ハ今ヤ手裡ニ工兵中隊ノ外一ノ步兵ヲモ有セス左側ノ顧慮漸次増加スル目下ノ時機ニ於テ豫備隊タルヘキ步兵第二聯隊第三大隊ハ尙遠ク後方ニ在リ茲ニ於テ支隊長ハ此大隊中一二中隊ヲ先ツ自己ノ手許ニ位置セシメ後ニ聯隊長ノ許ニ至ラシムル如ク區處スルナラン(此事ハ當然聯隊長ニ通報セラルヘキコト勿論ナリ)

步兵第二聯隊第二大隊ハ今ヤ先頭ヲ以テ道滿西端附近ニ達シ距離ヲ短縮シツ同聯隊第一大隊ニ追及中ナリ

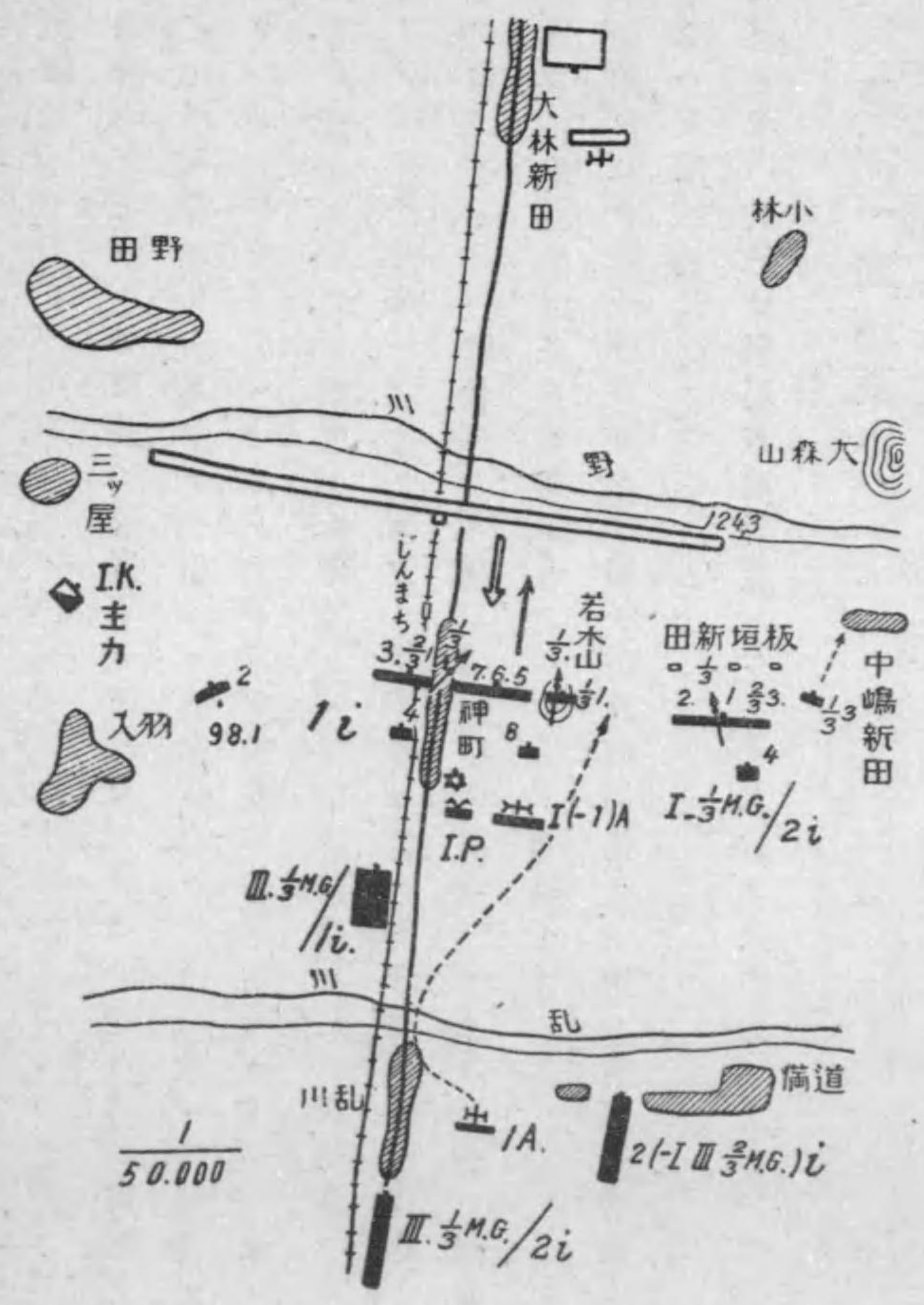
同聯隊第三大隊ハ其先頭亂川南端附近ニ在リテ本道ヲ急進中ナリ

第十一問題原案

既ニ述ヘタル所ニ依リ諸官ハ午後二時三十分ニ於ケル諸隊位置ハ概略之ヲ了解

セシナルヘシ其要點ヲ圖示スレハ要圖ノ如シ

圖要ノ置位隊支A
分十三時二後午日二十



以上ヲ通覽スルニ支隊ハ今ヤ所望ノ線ニ到著シアリト雖砲兵ノ一部ハ目下陣地
 變換中ニシテ歩兵ノ半部ハ尙後方ニ位置シ騎兵中隊ハ徒歩戰ヲ以テ左側ヲ掩護
 スルノ状態ナリ實ニ戰鬪ノ危機之ヨリ大ナルハナシ如此ハ逐次戰鬪加入主義ノ
 遭遇戰ニ危機ノ存在スル一例ナリ而シテ此危機ハ時間ト共ニ消滅スヘシ
 右ノ危機カ時間ト共ニ消滅スルノ一方茲ニ時間ト共ニ増大スル新ナル危險アリ
 敵ノ左翼包圍即チ是ナリ是優勢ナル敵ニ對スル攻撃ノ危機ニシテ之ヲ除去スル
 ノ方法如何曰ク支隊長ノ斷行ト各部隊長ノ協同努力ニ待ツノ外他ニ策アラサル
 ナリ
 重ネテ諸官ニ注意ス戰勝ノ月桂冠ハ熟慮斷行スル天祐者ノ頭上ニ存スルコト即
 チ是ナリ
 又曩ニ予ハ前衛ノ占領線ニ依リ戰鬪指導ニ重大ナル關係アルコトヲ述ヘタリ今
 之ヲ概說スレハ左ノ如シ

- (イ) 久野本北端ノ線 迎撃的遭遇戰(機動的攻勢防禦ニ近シ)
- (ロ) 押切川ノ線 停止シテ行フ統一展開ノ遭遇戰

遭遇戰ノ研究

(一) 亂川ノ線 前衛ノ守勢的戰鬪ニ逐次加入スル遭遇戰
 (二) 若木山ノ線 前衛ノ攻勢的戰鬪ニ逐次加入スル遭遇戰

遭遇戰ニ關スル原則的說明

(一) 遭遇戰ノ意義

遭遇戰ナル兵語ノ本來ノ意味ハ「出合頭ノ戰鬪」ト云フ事ニシテ兩軍互ニ豫期スルコトナクシテ不意ニ運動中ニ衝突シ茲ニ交戰狀態ニ移ル戰鬪ノ名稱ナリ然レトモ現今ニ於テハ其意義ヲ擴張シテ次ノ如ク解釋スルヲ適當ナリト信ス即チ兩軍相互ニ衝突ヲ豫期セルト否トニ拘ラス相共ニ攻勢ノ意思ヲ以テ前進シ相會スルヤ茲ニ交戰狀態ニ移ル所ノ戰鬪ヲ總稱シテ遭遇戰ト云フ但シ稀ニ一方軍又ハ兩軍ニ於テ當初ヨリ攻勢ノ意思ナクシテ此種ノ戰鬪ヲ惹起スルコトアリ

(二) 特性

遭遇戰ノ特性ハ戰鬪準備ノ完了ヲ迅速ニシテ敵ノ準備未タ充分ナラサルニ乘シ有利ナル態勢ヲ以テ攻撃前進ニ移リ敵ヲシテ我意思ニ服從セシメントスル

ニ在リ然ルニ往々見ル如ク遭遇戰ニ於テハ迅速ナル語ニ迷ハサレ動モスレハ有利ナル形勢ニ於ケル戰鬪準備ノ完了ヲ第二位ニ置クヤノ感ナキニアラス然レトモ是實ニ本末ヲ轉倒セルモノナリ凡遭遇戰ニ於テ迅速ヲ尊フ所以ノモノハ速ニ經過スヘキ好機ヲ逸セサルコト及速ニ有利ナル形勢ニ於ケル戰鬪準備ノ完了ヲ主眼トスルニ在リ世間往々躁急ヲ以テ遭遇戰ノ第一要義ナルカ如ク解スル者アルカ如キモは大ナル誤謬ニシテ遭遇戰ニ於テハ寧ロ他ノ場合ニ於ケルヨリモ沈著シテ熟慮スルヲ要ス蓋シ遭遇戰以外ノ場合ニ於テハ多少ノ過失錯誤ハ某程度迄之ヲ補綴修正シ得ヘキモ遭遇戰ニ於テハ之ヲ許ササルノミナラス而モ過失錯誤ヲ生スヘキ機會ハ更ニ多キヲ以テナリ俗諺「急カハ廻レ」ハ此間ノ消息ヲ意味ス實ニ熟慮漸行齊然タル指揮ト周密ナル處置トハ戰鬪準備ノ完了ヲ迅速ナラシメ得ヘキ要訣ナリ換言スレハ遭遇戰ニ於ケル迅速トハ順序ヨク手落ナク無駄足ヲセス著々戰鬪ヲ整フヘキ義ニシテ其他ノ躁急ハ何等ノ價值ナシ

而シテ迅速ニ戰鬪ヲ整フヘキ手段方法ニ到リテハ狀況ニ應シ千變萬化極マリ

(三) 種類

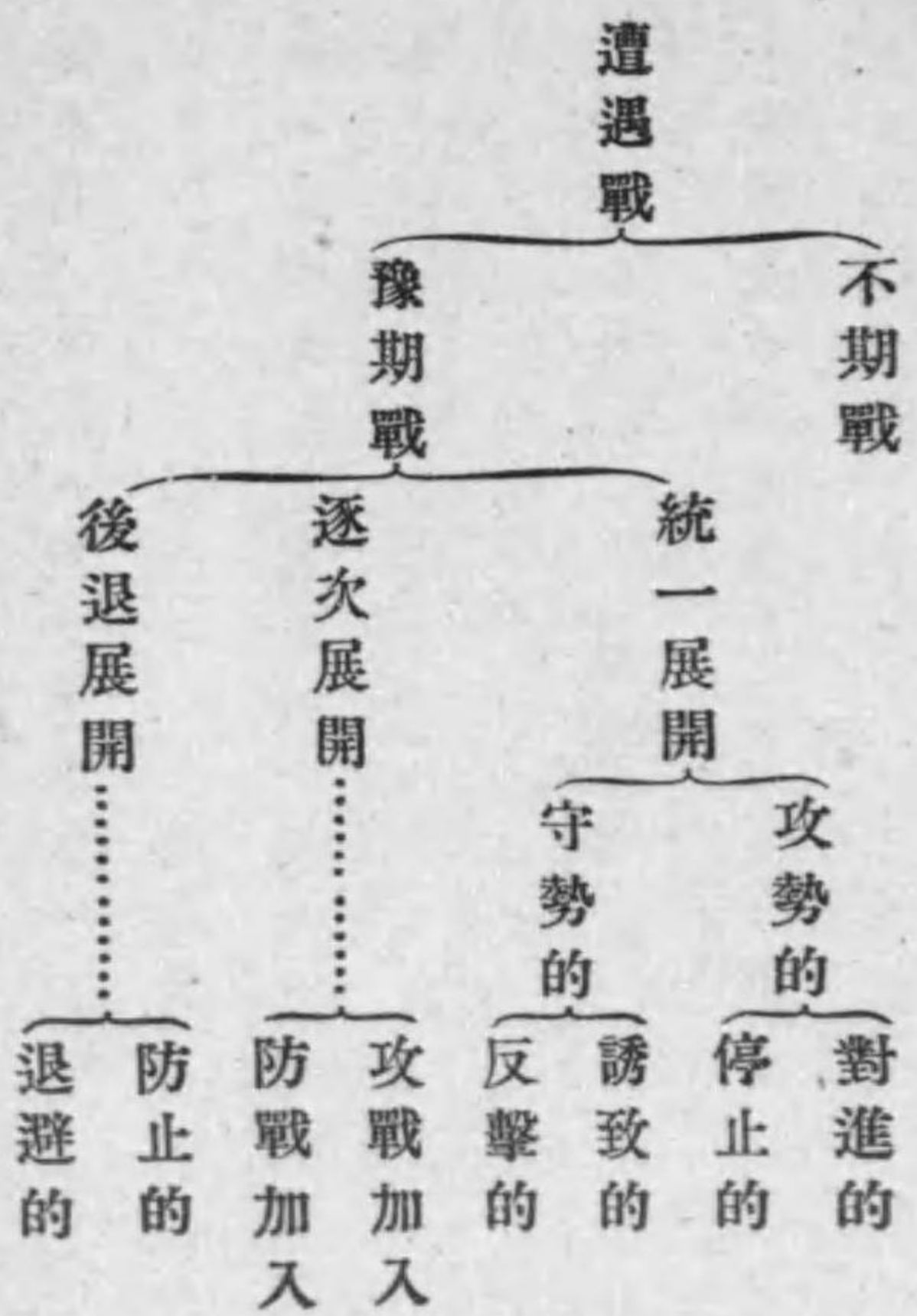
ナク各級指揮官ノ熟達ニ待ツノ外ナシ

既ニ述ヘタルカ如ク遭遇戦ニ於テ迅速ニ戦闘準備ヲ完了セントスレハ戦闘指導ノ方針(目的)時間場所ノ三要素ヲ具備セサルヘカラス此三要素ノ選擇調和ハ更ニ不明ナル敵情ヲ考慮加味スルニ於テ實現スヘキ戦況ハ千差萬別ナリト謂フヘシ

茲ニ諸官ノ注意ヲ希望スルハ何レノ場合ト雖敵情ハ固ヨリ不明ナレトモ遭遇戦ニ於テハ殊ニ甚シキモノアリ而シテ此間ニ處シテ比較的根據アル基準ヲ得ヘキ方法ハ一般戦理ニ通曉スルコト及敵ノ戦法ヲ考察スルノ外主トシテ地形ノ研究ヲ肝要トスルコト是ナリ地形ハ死物ナレトモ固定的ニシテ活動ノ舞臺ナリ舞臺ノ背景ヲ窺ヘハ其劇ヲ察シ得ルカ如ク仔細ニ地形ヲ研究スレハ敵情ヲ豫想シテ之カ判断ヲ助成スヘキモノナリ

然レトモ茲ニ予カ地形研究ノ必要ナルコトヲ述フルハ敵情ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於ケル基準ヲ得ンカ爲ニシテ地形ノ研究充分ナレハ敵情ヲ得サルモ

可ナリトノ謂ニアラス誤解スヘカラス
先ニ述フルカ如ク遭遇戦ノ戦況ハ千差萬別ナリ詳言スレハ遭遇戦ハ兩軍全ク不意ニ出會シテ行フ相互ノ攻撃ヨリ防禦ノ爲展開セル敵ニ對スル攻撃ヲ經テ迎撃的攻勢防禦ニ至ル間ニ於ケル各種ノ場合ヲ含有ス
故ニ遭遇戦ヲ正確適切ニ分類スルハ頗ル難事ナルモ予ハ研究ノ便宜上彼我衝突當時ノ情態及我戦闘指導ノ方法ニ因リテ之ヲ次ノ如ク分類シテ逐次説明スル所アラントス

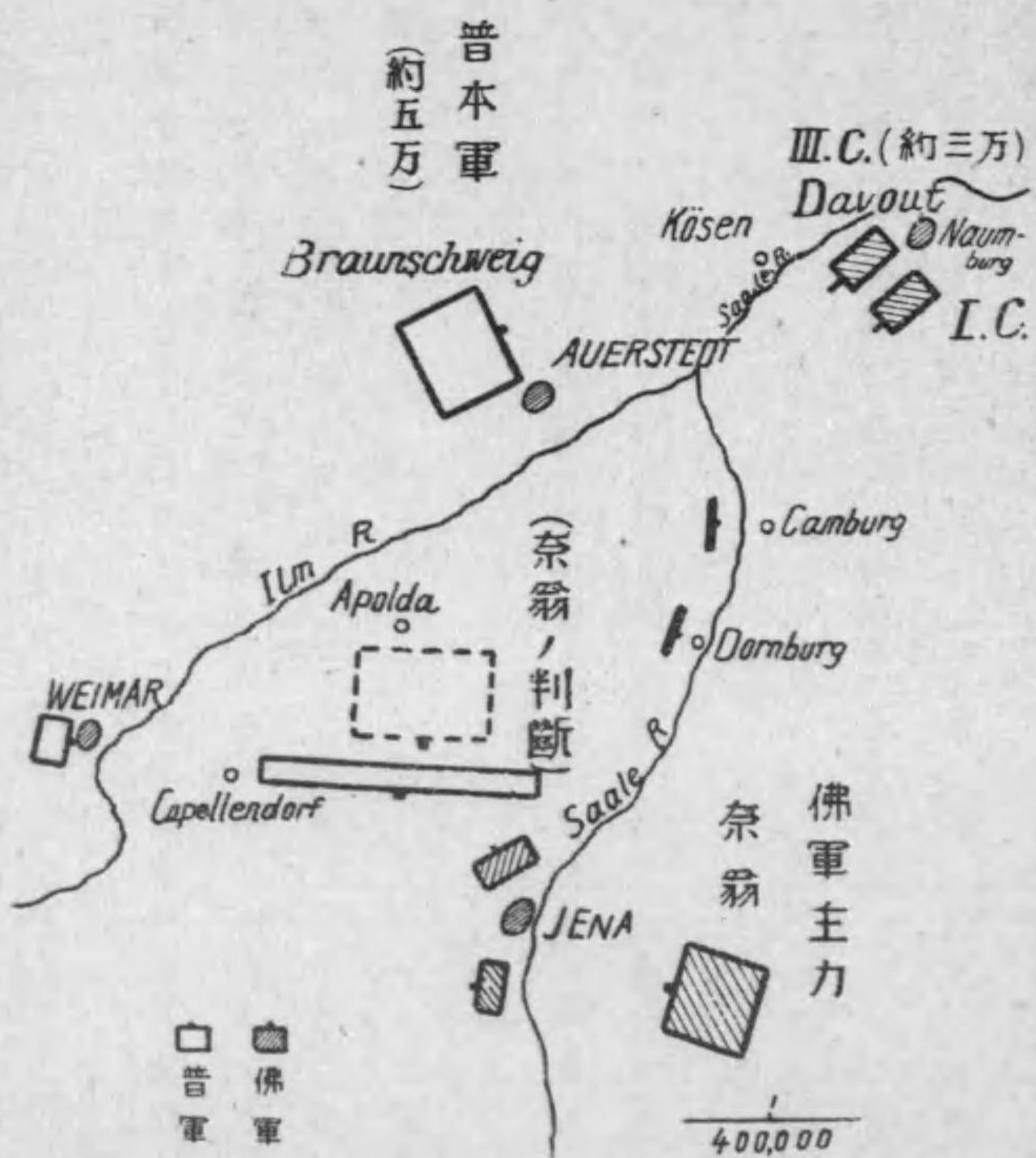


但シ右ノ分類ニ於ケル名稱ハ説明ヲ單簡ナラシメンカ爲ニ予カ假リニ設ケタルモノニ過キスシテ通有的ノモノニアラサルコトヲ注意スヘシ
 遭遇戦ハ彼我衝突ヲ豫期セシヤ否ヤニ因リテ不期戦ト豫期戦トニ大別スルコトヲ得

其一 不期戦

不期戦ハ兩軍全ク相出會スルコトヲ期待シアラサルカ故ニ當初ヨリノ兩軍ノ攻勢的意思モ亦確定的ノモノニアラス詳言スレハ兩軍共攻勢ノ意思ヲ有スルコトアリ又一方軍ノミ之ヲ有スルコトアリ稀ニ時トシテハ全ク兩軍共之ヲ有セサルコトアリ
 千八百六年十月十四日ニ於ケル Auerstedt ノ會戦ハ純然タル不期戦ノ適例ニシテ天正十二年四月九日ニ於ケル長久手ノ戦闘ハ一方軍ニ攻勢ノ意思ナクシテ偶發シタル不期戦ノ一例ナリ

(甲) 十月十三日夕ニ於ケル兩軍ノ位置



千八百六年十月十四日 Auerstedt の戦闘

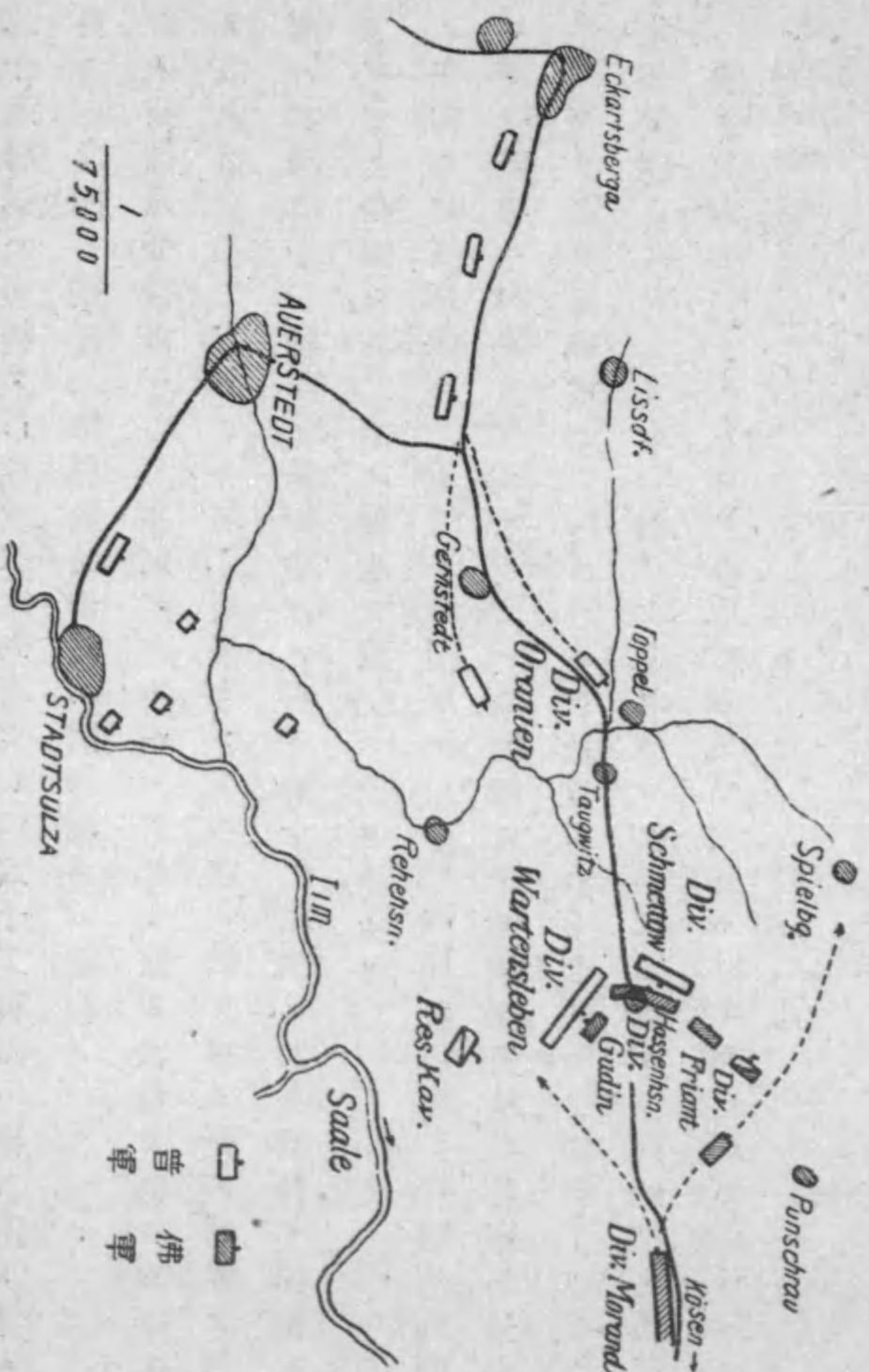
一 戦闘ノ前夜即チ十月十三日夕ニ於ケル兩軍ノ位置ハ要圖ノ如シ
 奈翁ハ敵カニ及 Sale 兩河ノ中間地區ニ兵力ヲ集結セシモノト判断シ十四
 日第一軍團ハ Naumburg 南方地區ヨリ Dornburg ニ向ヒ Davout 元帥ノ指揮セル
 第三軍團ハ Naumburg ヨリ Apolda ヲ經テ敵ノ背後ニ向ヒ前進スヘキコトヲ
 命セリ

普軍ハ Naumburg カ敵ノ占領ニ歸シタルコトヲ知リシモ此敵ヲ微弱ナルモノ
 ト判断シ自己ノ退路上ニ在ル Kösen 附近ノ隘路ヲ確實ニ占領スルコトヲ意
 レリ

二 十四日午前六時三十分 Davout ノ先頭タル Gudin 師團ハ Kösen 附近ニ於テ
 Sale 河ヲ渡過シテ前進ス而シテ Davout ハ其前衛ニ在リ、一方普軍ハ Blücher ノ
 指揮スル騎兵二十五中隊ヲ基幹トセル軍前衛ヲ設ケテ前進ス
 兩軍ハ濃霧中 Hassenhausen 附近ニ於テ不意ニ衝突シ佛軍ノ前衛タル歩兵第

(乙) AUERSTEDT 附近戦闘要圖

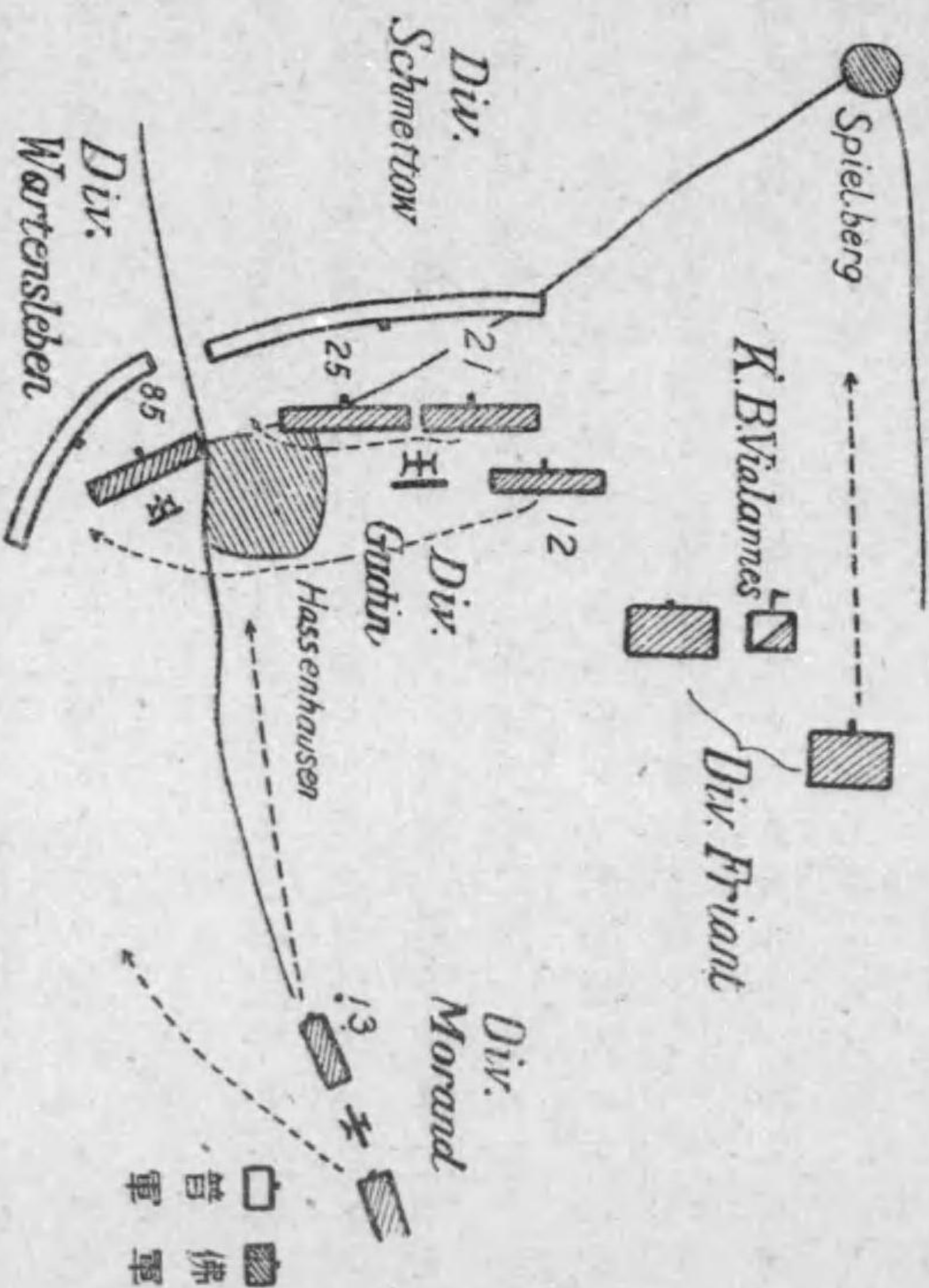
千八百〇六年十月十四日



二十五聯隊ハ同村ヲ占領シ次テ到着セシ第八十五聯隊ハ砲二門ト共ニ同村南方ニ展開シ殘餘ノ師團砲兵十門ハ同村北方ニ布列ス
 普ノ前衛司令官 Blicher ハ當面ノ敵ハ騎兵ナリト信シ濃霧ヲ意トセス其騎兵ヲ以テ Spielberg 方向ヨリ之ヲ襲撃セントス茲ニ於テ佛ノ先頭師團ノ第二旅團ハ其第二十一聯隊ヲ前衛聯隊ノ右ニ第十二聯隊ヲ其右翼後ニ梯置シ以テ Blicher ノ企圖セシ二回ノ襲撃ヲ擊退スルヲ得タリ

三 午前九時頃以後佛ノ第二ノ師團タル Friant 師團ハ Vialannes 騎兵旅團ト共ニ漸次戰場ニ到着セシカ Davout ハ此師團ノ先頭旅團及騎兵旅團ヲ最右翼ニ展開セリ蓋シ當時本道以南ニハ全ク敵兵現出セサリシヲ以テナリ次テ普ノ先頭師團タル Schmettow 師團カ本道北側ヨリ前進シ來ルヤ同師團ノ後尾旅團ハ遠ク北方 Spielberg 方向ヨリ敵ノ左翼ヲ攻撃セリ此旅團ノ攻撃ハ爾後大部ノ如キニ Tangwitz 附近迄殺倒セリ

(丙) 佛軍展開要圖



四 普軍司令官 Braunschweig 公ハ先頭師團カ敵ニ衝突セルヲ知ルヤ斷然之ヲ遭遇戦ノ研究

攻撃スルニ決シ第二ノ Wartensleben 師團ヲ先頭タル Schmettow 師團ノ右翼ニ展開シ佛軍ノ左翼ヲ攻撃ス乃チ同師團ハ Reichenhausen 及 Taubwitz ヲ經テ前進シ佛軍左翼ニ對シテ行ハレタル騎兵襲撃ノ成果ヲ利用シテ漸次 Hassenhausen ニ近接ス

茲ニ於テ Davout ハ Gudin 師團ノ右翼旅團タル第二十一及第十二聯隊ヲ戰線ヨリ引キ抜キテ左翼ニ増加スルニ到レリ乃チ兩聯隊ハ Hassenhausen 及第八十五聯隊ノ左翼ニ正面ヲ延長セリ次テ午前十一時以後逐次到着セシ最後尾ノ Morand 師團ノ先頭ニ在リシ第十三聯隊カ砲二門ト共ニ Hassenhausen 方向ニ増加セラルルニ及ヒ同村ノ保持確實トナレリ又同師團ノ三聯隊ハ最左翼ニ展開セラレ茲ニ該方面ニ於ケル佛軍ノ危機漸ク去ル

普軍ニ於テハ後續スル Oranien 師團未タ到着セス加フルニ軍司令官以下多數ノ高級將官ヲ失ヒテ指揮ノ統一ヲ缺キ狀況甚不利ニ陥レリ

Oranien 師團ハ正午頃其先頭ヲ以テ Gernstedt ニ到着シ其兩旅團ヲ左右兩翼ニ平等ニ増援セントセシカ其戦闘参加ニ先チ Schmettow 師團ノ左翼先破レ次テ

午後一時頃全線退却ニ移ルノ已ムナキニ到リ後續セル二個師團ハ主力ヲ以テ Eckartsberga, Gernstedt 間ニ於テ北面シテ敵ノ迂回ニ備ク一部ヲ以テ Stadt-sulza 附近ヲ守備セシノミ

教訓

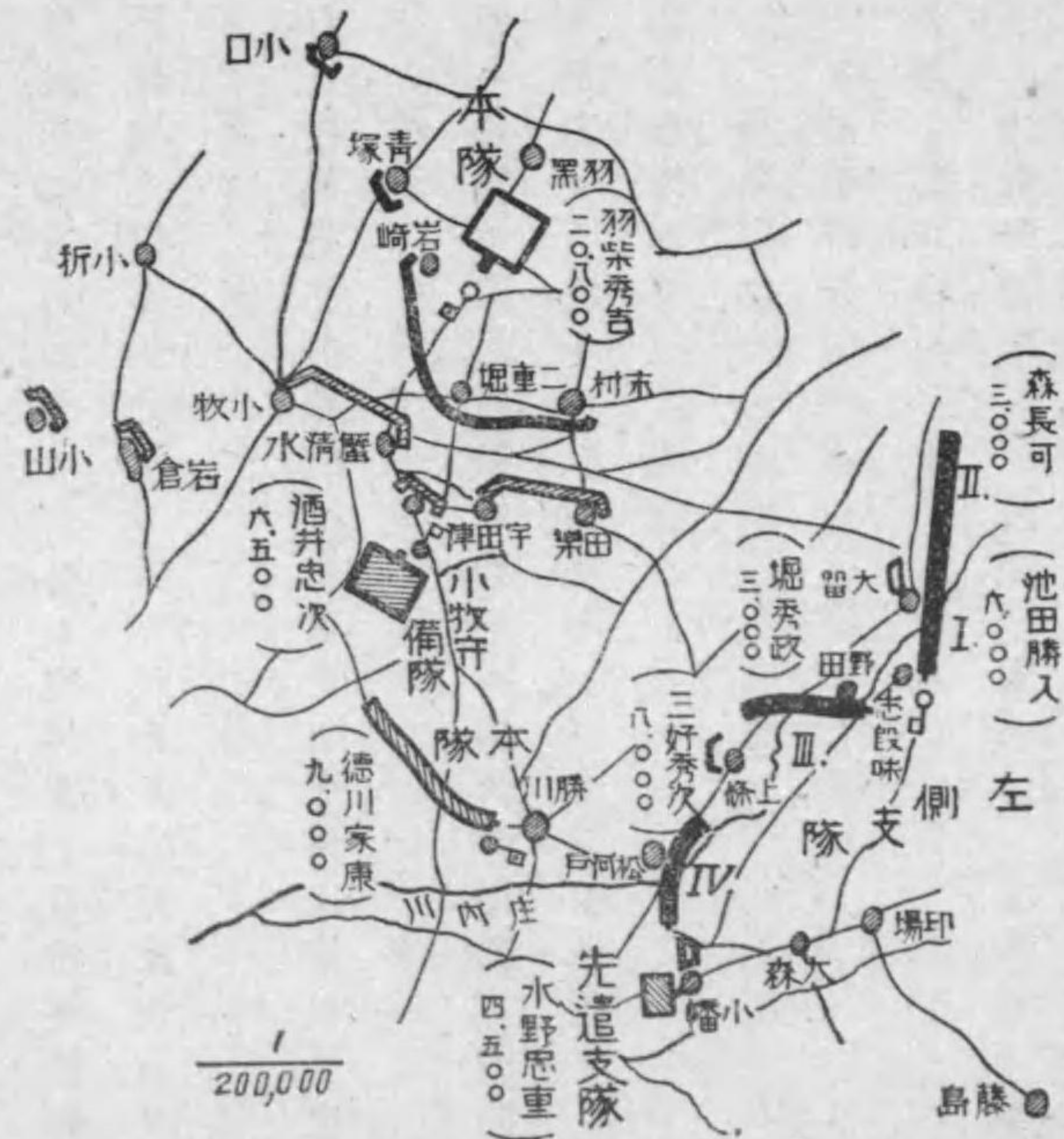
- 一 指揮官ハ逐次到着スル本隊ヲ遲疑スルコトナク戦闘ニ加入セシムヘシ
- 二 本隊ノ統一的使用ニ努力スヘシ
- 三 行軍縱隊ヨリ行フ戦闘ハ整正ノ戦闘指揮ヲ困難ナラシメ各級指揮官ノ獨斷ヲ要スルコト大ナリ
- 四 狀況ニ依リテハ行軍縱隊ノ先頭ノ線ニ展開スルハ危険ナリ

天正十二年長久手附近ノ戦闘

- 一 天正十二年(西曆一五八四年)正月北畠織田信雄羽柴秀吉ヲ討タント欲シテ援ヲ徳川家康ニ乞フ

小牧役兩軍位置要圖

四月八日午後十一時頃於此



秀吉乃チ諸兵ヲ大阪ニ集中シテ機ヲ見テ尾張平地ニ進入セントシ北畠(五〇〇〇)徳川(一五〇〇〇)兩軍ハ之ヲ待テ攻撃セントシテ尾張國清州附近ニ集結ス

尋テ三月十八日以後家康壘ヲ小牧附近ニ築キテ之ニ據リ秀吉亦兵四萬八百人ヲ率キテ三月二十七日犬山ニ到リ岩ヲ小牧附近ニ設ケテ相對ス之ヲ小牧ノ役ノ發端トス爾後對壘シテ四月五日ニ到ル

二 秀吉一支隊(池田勝入)之ヲ指揮ス以下假ニ池田支隊ト名クテ西部三河地方ニ派遣シテ徳川軍ノ背後連絡線ヲ脅威シ以テ對陣ノ均勢ヲ破ラントス其支隊ノ兵力及之ニ與ヘタル訓令ノ要旨次ノ如シ

- 第一隊 池田勝入 六、〇〇〇人
- 第二隊 森長可 三、〇〇〇人
- 第三隊 堀秀政 三、〇〇〇人
- 第四隊 三好秀次 八、〇〇〇人

森長可堀秀政共ニ勝入ノ女婿ナリ又秀次ハ支隊ノ監軍トシテ特ニ

秀吉ヨリ派遣セラレシ者ナリ

右ハ六日出發西部三河地方ニ前進シ徳川軍ノ背後連絡線ヲ脅威スヘシ但シ支隊ノ根據地ヲ篠木、柏井地方共ニ庄内川右岸上條西北地區ニ設ケ輕舉暴進セサルヲ要ス

二 支隊ハ六日夜半出發柏井地方ニ到リ壘ヲ上條ニ築キテ宿營シ八日夜ニ及

フ 家康ハ七日既ニ池田支隊ノ行動ニ關スル報告ヲ得其目的岡崎ヲ脅威スルニ在リト判斷シ追躡シテ途中之ヲ擊破センカ爲八日部署スルコト左ノ如シ

先遣支隊 水野忠重 四、五〇〇人

本隊 徳川家康 六、〇〇〇人

同 北島信雄 三、〇〇〇人

小牧守備隊 徳川軍 五、〇〇〇人

同 北島軍 一、五〇〇人

家康ノ先遣支隊ニ與ヘシ訓令ノ要旨左ノ如シ

一 支隊ハ即刻出發小幡城ニ入り本多廣孝ト謀リテ敵來攻セハ之ヲ固守シテ本隊ノ赴援ヲ俟ツヘク敵若三河地方ニ南進セハ之ヲ攻撃シテ繫留スヘシ

二 予ハ本隊ヲ率キテ後刻出發支隊ニ追及ス

三 先遣支隊ハ八日午後七時小牧附近出發池田支隊ノ近傍ヲ潛行シテ勝川ヲ經テ前進シ午後十時小幡城ニ入ル

家康ノ率ユル本隊ハ夜半十二時頃小幡ニ着ス

池田支隊ハ八日午後十時宿營地出發第一、第二隊ヲ左縱隊トシテ大留附近ヨリ、第三隊ヲ中央縱隊トシテ野田附近ヨリ、第四隊ヲ右縱隊トシテ松河戸附近ヨリ共ニ庄内川ヲ渡河シ左及中央縱隊ハ志段味附近ニ於テ相合シテ印場ヲ經テ、右縱隊ハ小幡北方地區ヲ經テ共ニ藤島方向ニ前進セントス

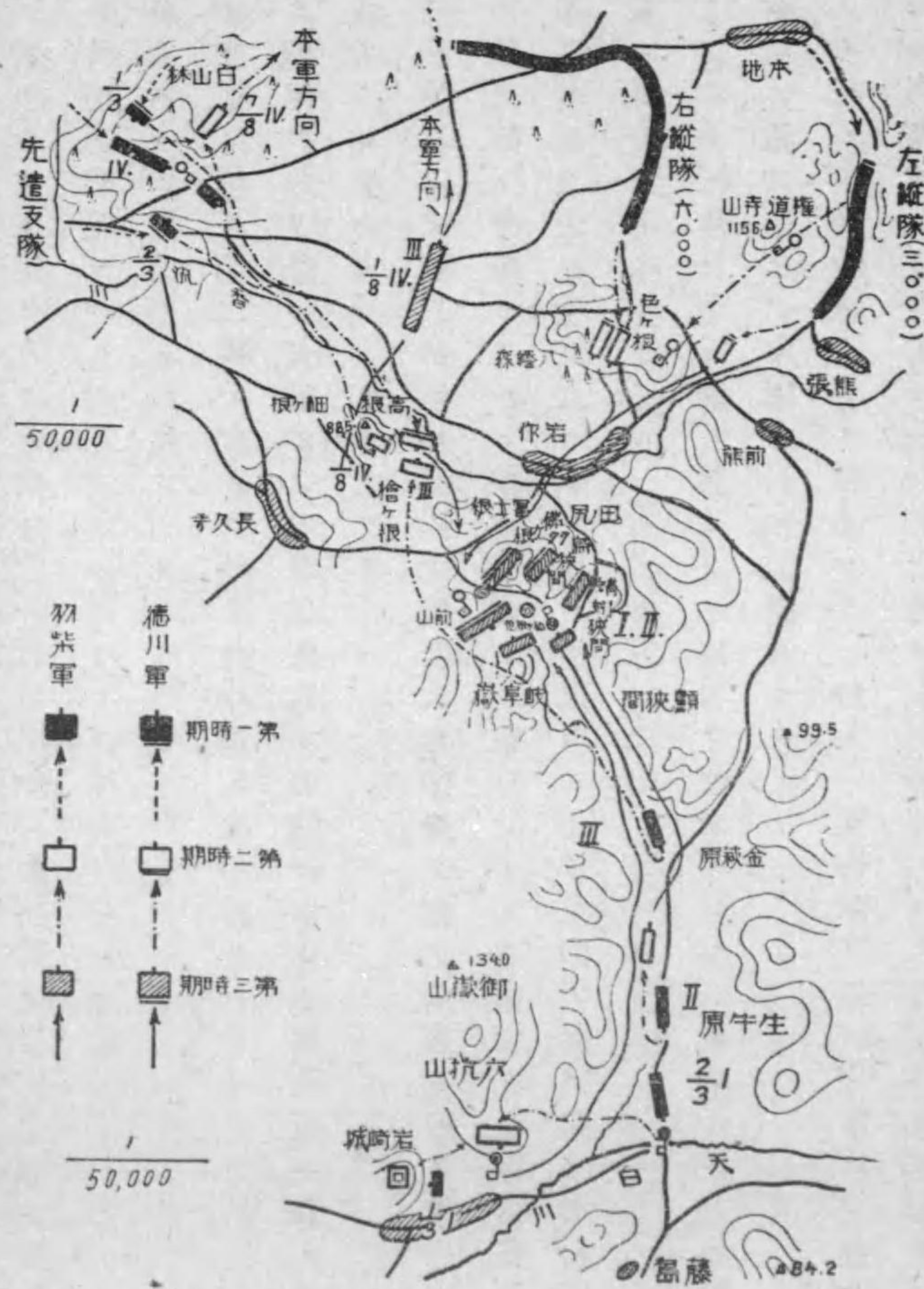
徳川軍ノ先遣支隊長ハ右ノ狀況ヲ知り眞面目ノ戰鬪ヲ避ケツツ敵ニ尾シ機ヲ見テ之ヲ急襲スルニ決ス

家康ハ先遣支隊長ノ策ヲ是認シ自ラ主力ヲ提ケテ急行シ敵ノ第一、第二隊ニ

圖要圖戰近附手久長

午正至時四前午自日九月四

遭遇戰ノ研究



九一

當ラントス

四 三好秀次ノ指揮セル池田支隊ノ第四隊ハ白山林附近ニ到着スルヤ休止シ九日黎明警戒ヲ怠リテ馬ニ飼ス是ヨリ先徳川軍ノ先遣支隊ハ此隊ニ近接シテ狀況ヲ搜索シツツ天明ヲ俟チシカ其警戒疎ナルヲ知ルヤ主力ヲ以テ右側面一部ヲ以テ背後ノ輻重ニ對シ掩撃ス茲ニ於テ池田支隊ノ第四隊ハ潰亂ニ陥リ主力ハ本軍方向ニ一部ハ長久手方向ニ敗走ス

五 池田支隊ノ第三隊ハ未明金萩原附近ニ於テ休憩中後方ニ銃聲ヲ聞キ尋テ敵軍追躡ノ報ニ接スルヤ部隊ヲ還シテ槍ヶ根附近ニ到リ第四隊一部(約千人)ノ退却ヲ收容シツツ敵ノ近接ヲ待ツ徳川軍先遣支隊ノ各部隊ハ勝ニ乘シテ敵ヲ追撃シ隊伍ノ動搖ヲモ顧ミス暴進ス主將之ヲ制スレトモ効果ナク遂ニ槍ヶ根附近ノ高地ニ突進ス池田支隊ノ第三隊及第四隊ノ一部ハ此敵ノ隊伍整ハサルニ乘シ近距離急射撃ニ次クニ突撃ヲ以テシテ之ヲ撃破シ一部ヲ以テ猪子石方向ニ主力ヲ以テ岩作方向ニ追撃ス

九〇

然ルニ間モナク家康ノ率ユル敵主力ノ近接ヲ知ルヤ諸隊ヲ岩作北部ニ集結ス時ニ午前八時頃ナリ

此戰後秀次ハ本軍方面ニ歸還ス

六 池田支隊ノ第一第二隊ハ午前六時頃生牛原附近ニ停止シアリシカ第三、第四隊ノ戰況ヲ知り急ニ背進シテ岐阜獄附近ニ布陣シ富士ヶ根附近ニ在ル家康ノ主力ト相對ス其兵力九千人ナリ

是ヨリ先家康ハ午前二時頃小幡附近出發大森、印場ヲ經テ前進シ敵ノ第一、第二隊カ第三隊ト分離シアルニ乘シテ之ヲ攻撃セントシテ富士ヶ根南方高地線ニ展開ス其兵力九千餘人ナリ又曩ニ潰亂セシ先遣支隊ノ諸部隊モ漸次岩作附近ニ集合ス

池田支隊ノ第三隊長堀秀政ハ勝入ヨリ協力ヲ要求セラレシモ事ニ托シテ應セス秀次ノ後ヲ追ヒテ本軍方面ニ歸還ス

兩軍ノ交戦ハ午前十時頃ヨリ開始セラレ勝入ハ豫備隊ヲ以テ家康ノ左翼ヲ包圍的ニ攻撃セント企圖セシモ戰況意ノ如ク發展スルニ至ラス此間家康ハ

勝入ノ左翼ニ對シ翼攻撃ヲ決行シテ遂ニ成功シ正午頃池田支隊ノ主力ハ北方ニ、一部ハ南方ニ敗走スルニ到レリ

七 家康ハ戰勝後、後患ヲ察シ兵ヲ收メテ小幡城ニ入ル

秀吉白山林ノ敗報ニ接シ自ラ兵二萬ヲ率キテ午後一時樂田(陣地ノ右翼後)附近ヲ出發シ赴援ス徳川軍ノ小牧守備隊ノ一部ハ其右側ニ追隨シテ行進ヲ妨害ス

午後五時秀吉小幡北方ニ達シ家康ノ既ニ小幡城ニ入レルヲ知り翌十日拂曉ヨリ之ヲ攻撃セントシテ諸準備ニ着手セシモ家康午後八時出發主力ヲ以テ小牧山附近ニ歸還セシヲ以テ夜半上條ノ砦ニ、翌十日朝樂田ニ還ル

八 爾後伊勢尾張等ノ諸所ニ於テ小戰闘アリシモ主力ノ決戰ヲ見ルニ到ラス兩軍戰ニ倦ミ終ニ十一月ニ至リ和議成リ小牧ノ役茲ニ終局ス

九 教訓

(イ) 秀吉カ對陣中遠ク西部三河ニ於テ敵ノ背後連絡線ヲ脅威セントセシハ適當ナラス寧ロ直接敵陣ノ外翼ヲ脅威セシムルヲ可トス若西部三河ニ一

部隊ヲ派遣スルトスルモ其兵力ハ大ニ過ク

(ロ) 池田勝入ノ指揮スル支隊カ敵ノ右翼ニ近ク約二日間滞在セシハ適當ナラス如此任務ノ部隊ハ目的地ニ向ヒ急行セサルヘカラス

此支隊ニ對シ秀吉ノ與ヘタル訓令モ甚適切ナラス故ニ支隊ノ行動不鮮明ヲ來セシナルヘシ

(ハ) 家康カ主力ヲ以テ岩作方向ニ前進セシハ大膽ニ過ク此結果ヨリ觀レハ秀吉ノ背後脅威ノ目的ハ大部分成功セルモノト謂フヘシ

(ニ) 然ルニ秀吉カ主力ヲ提テ家康ヲ攻撃スル爲小幡方向ニ前進セシハ適當ナラス縱ヒ當時ノ作戰目標カ敵主將ノ首ナリシニモセヨ先ツ小牧守備隊ヲ擊破シテ然ル後家康ヲ攻撃スルヲ可トス然ラサレハ池田勝入ノ指揮スル支隊ヲ派遣セシハ無意味ナリ

(ホ) 檜ヶ根附近ニ於ケル徳川軍先遣支隊ノ敗北ハ無謀ナル追撃前進ノ危険ナルコトヲ證ス

(ヘ) 池田支隊ノ陣中勤務ハ甚疎漏ナリ敵地ニ潜入スヘキ如此任務ヲ有スル

支隊ハ特ニ搜索警戒ニ注意セサルヘカラス

之ニ對スル徳川軍ノ白山林附近ニ於ケル急襲方法ハ甚適切ナリ

(ト) 池田支隊内ニ於ケル各隊長ノ協同心甚乏シ是家康ノ成功シ得タル一因ナリ

不期戰ハ通信機關、搜索機關ノ發達及戰鬪參加兵力ノ増大ト共ニ大兵團ニ在リテハ將來其發生稀有ナルヘシ然レトモ戰場ノ一部ニ於ケル小部隊又ハ特別任務ニ服スル支隊等ノ如キハ或ハ此種戰鬪ニ遭遇スルコトナシトセス

此種戰鬪指導ノ要領ハ彼我ノ衝突ヲ覺知セル當時ニ於ケル兩軍ノ距離、其間ノ地形及交戰ノ姿勢ニ移リ得ル迄ニ要スル時間ノ多少等ニ依リテ差異アリト雖要ハ迅速ナル戰鬪加入ヲ主トシ成シ得ル限リ主力ヲ統一的ニ使用スルヲ可トス而シテ如何ナル戰鬪換言スレハ前衛ノ攻撃戰鬪ニ加入スヘキヤ前衛ノ防禦戰鬪ニ加入スヘキヤ等ハ一ニ現時ノ狀況ニ依ル然レトモ此種ノ戰鬪ニ於テハ猛烈果敢ナル攻勢動作ハ特ニ成功ノ素因ヲ爲スコト多シ兵數ノ小ナル場合ニ於テ殊ニ然リ是此戰鬪方法ハ廣義ニ於テハ奇襲戰ナルヲ以テナリ若對抗兩軍ノ一方ノミカ衝

突ヲ豫期セル場合ニ於テハ奇襲的特色ハ殊ニ顯著ナリ前述長久手附近ノ戦闘ニ於ケル白山林ノ奇襲及桶狹間ノ戦闘ノ如キ即チ是ナリ

永祿三年五月十九日桶狹間ノ戦闘

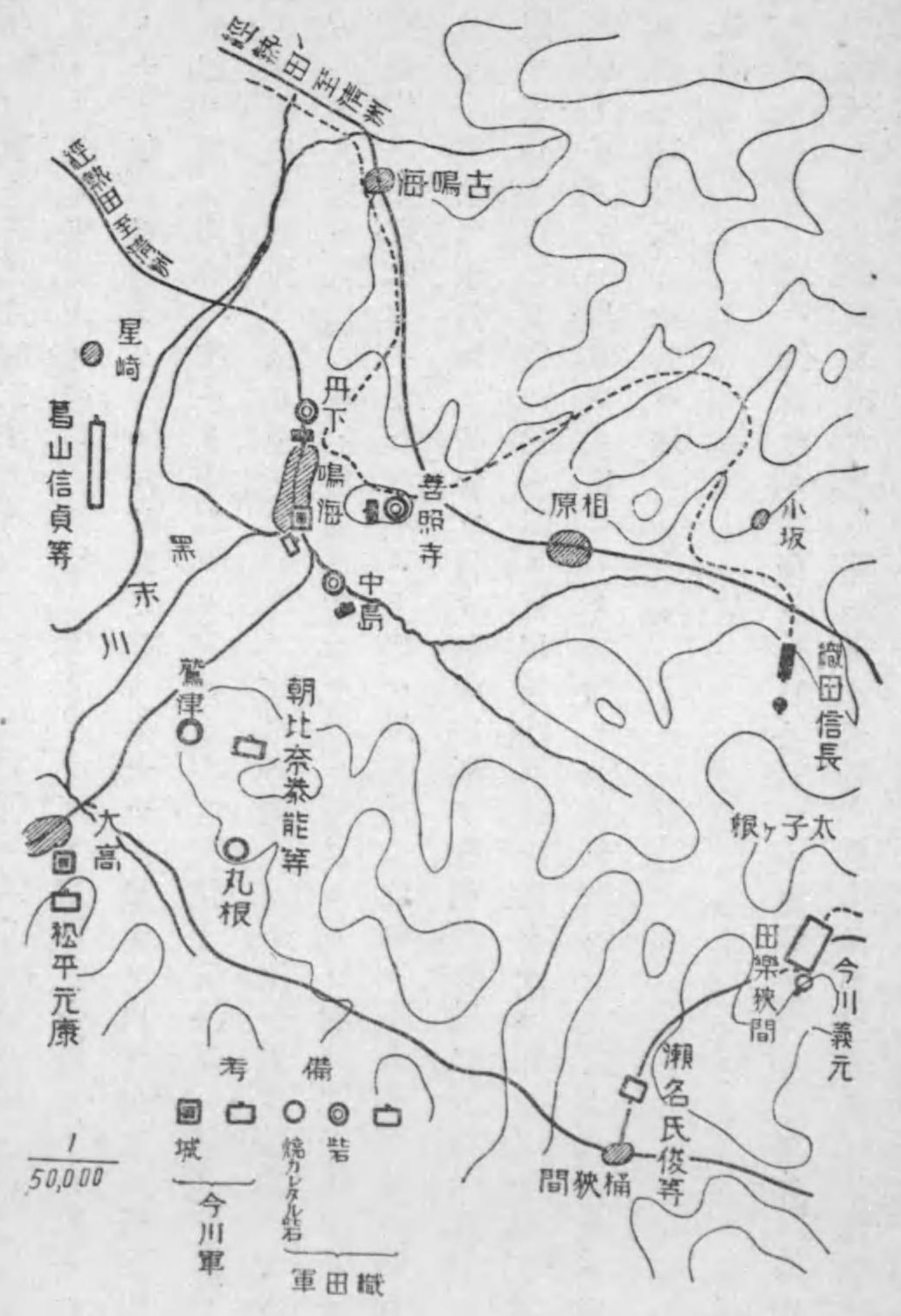
一 永祿三年(西曆一五六〇年)五月今川義元ハ兵約二萬五千ヲ率キ遠江三河ヲ經テ尾張ニ侵入ス是ヨリ先織田信長ハ國境守備軍ヲ丸根、鷺津、中島、善照寺、丹下ノ諸砦ニ配置シ今川軍ノ守備セシ大高及鳴海ノ二城ト對峙セシム

二 同月十八日義元沓掛、鳴海東方二里ニ達シ翌十九日松平元康(徳川家康)ノ率ユル二千五百人ヲ以テ丸根砦ヲ朝比奈泰能等ノ二千人ヲ以テ鷺津砦ヲ攻撃セシメ別ニ葛山信貞等ノ五千人ヲ以テ直ニ信長ノ居城タル清洲城ヲ衝カシメ親ラ五千人ヲ率キテ大高ニ向ヒ前進スルニ決セリ

當時信長ハ其戰場ニ使用シ得ル兵力僅ニ三、四千ナルニ拘ラス斷乎トシテ攻勢ヲ採ルニ決シ十八日今川軍侵入ノ報ニ接スルヤ翌十九日未明清洲城ヲ發シ途中熱田神宮ニ詣テテ勝利ノ神託ヲ蒙レリト稱シ志氣ヲ鼓舞シツツ鳴海

桶狹間戰鬥要圖

永祿三年五月十九日



遭遇戰ノ研究

ニ向ヒ前進ス其兵力約三千人ニシテ今川軍ノ僅ニ八分ノ一ニ過キス

三 是ヨリ先丸根鷺津ノ兩砦ハ信長ノ鳴海附近到著前既ニ今川軍ノ奪取スル所トナリ續テ實施セラレタル恢復攻撃モ多大ナル損害ヲ以テ失敗ニ歸ス信長激怒シ將ニ主力ヲ率キテ中島ヨリ鷺津ニ向ヒ突進セントスルニ方リ偶義元ノ本軍田樂狹間ニ駐止セルヲ知リテ之ヲ奇襲スルニ決シ鷺津方向ニ對シテハ一部ヲ鳴海附近ニ殘シ旌旗ヲ増シテ敵ヲ牽制セシメ親ラ二千人ヲ率キ善照寺砦ヨリ東北方ニ迂回スルコト約一里義元ノ背後タル太子ヶ根ニ潛行ス義元ハ朝來丸根鷺津ノ捷報ヲ得テ氣大ニ驕リ警備全ク弛緩シ毫モ信長ノ迂回ヲ覺知セス正午頃天候ニ曇リ暴風雨次テ到ル信長之ニ乘シテ一舉義元ノ本營ヲ襲フヤ今川軍策ノ出ツヘキヲ知ラス義元忽ニシテ討タレテ全軍潰走シ遂ニ織田軍ノ全勝ニ歸ス

四 教訓

(イ) 期セスシテ敵ニ遭遇セシ場合ニハ勉メテ速ニ戰備ヲ整ヘテ動作ノ自由ヲ恢復シ次テ猛烈果敢ナル攻撃ニ依リテ敵ノ自由ヲ奪フヲ要ス此際敵ノ

不意ニ出ツルコトヲ得レハ最可ナリ蓋如此スレハ縦ヒ優勢ナル敵ト雖其威力ヲ發揮スルニ由ナク遂ニ我意圖ニ屈從スルニ到ルヘケレハナリ

(ロ) 本戰闘ハ織田軍カ優勢ナル敵ニ對シテ極端ニ先制ノ利ヲ收メ以テ勝利ヲ獲得セルコトヲ示ス凡ソ遭遇戰ニ於テ先制ノ必要ナルコトハ既ニ定論アリ之カ爲ニハ須ク近距離搜索ヲ嚴密ニスルト同時ニ我行動ヲ敵ニ秘スルノ策ヲ講セサルヘカラス即チ近距離搜索ハ先制ヲ占ムルノ第一歩ナリ

其二 豫期戰

豫期戰ニ於テハ理論上純然タル遭遇戰(兩軍對等ノ狀態ニ於テ交戰スルコトヲ意味ス)ノ發生スルコトハ甚稀ナリ蓋シ兩軍指揮官ノ攻勢的意志ノ強弱其有スル兵力、軍隊ノ素質、行進狀態、内部ノ事情、慣用戰法ニ關スル觀念及地形ノ影響等ノ差異アルヲ以テナリ

今研究ノ便宜上豫期戰ヲ戰闘指導ノ方針詳言スレハ展開及戰闘加入ノ經過ニ由リテ統一展開、逐次展開及後退展開ニ分類シテ説明セントス但シ後退展開モ亦統

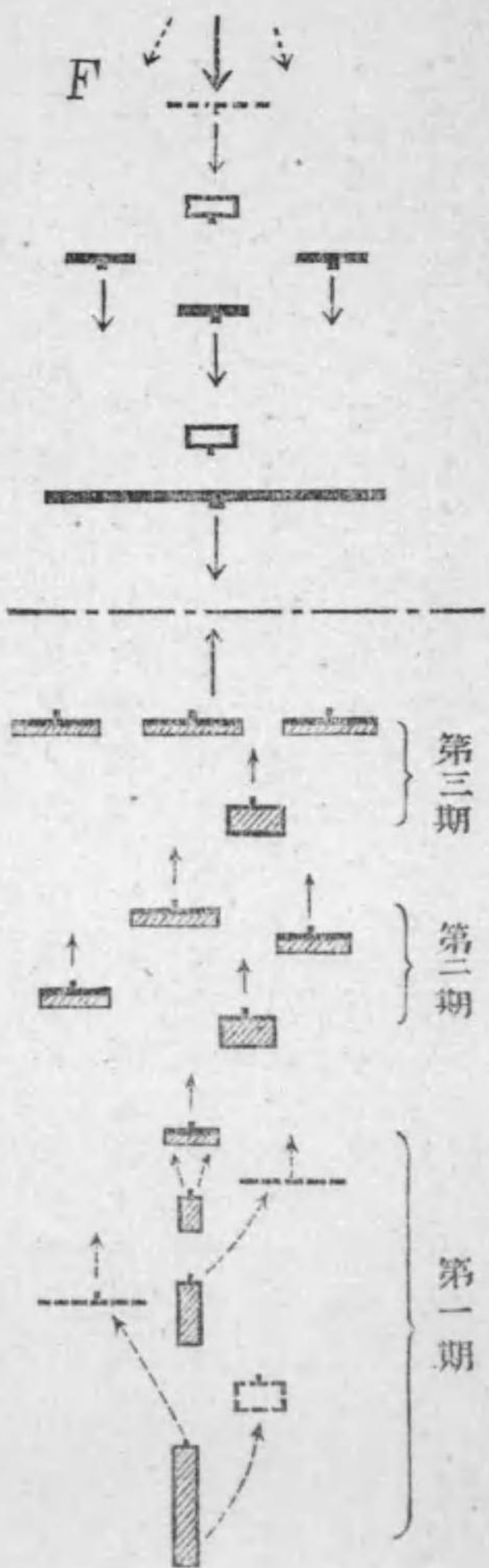
一展開ノ一部ナルコト明ナリト雖主義ニ於テ特種ナルヲ以テ區別セリ諸官之ヲ諒セヨ

(イ) 統一展開

統一展開ハ全隊ヲ統一シテ戰鬪ニ加入セシメンカ爲攻撃展開ヲ齊整ナラシメントスルモノニシテ此種ノ展開ハ現時ノ趨勢特ニ軍隊指揮官ノ戰鬪指導ノ意志ヲ翫味スレハ之ヲ攻勢的ト守勢的トニ分ツヲ得ヘシ
攻勢的統一展開トハ普通ノ所謂統一展開ニシテ步兵操典第二部第四十六前段ニ説ク所ノモノナリ而シテ展開ヲ行進方向ニ行フヤ某線上ニ行フヤニ就テハ更ニ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得ヘシ

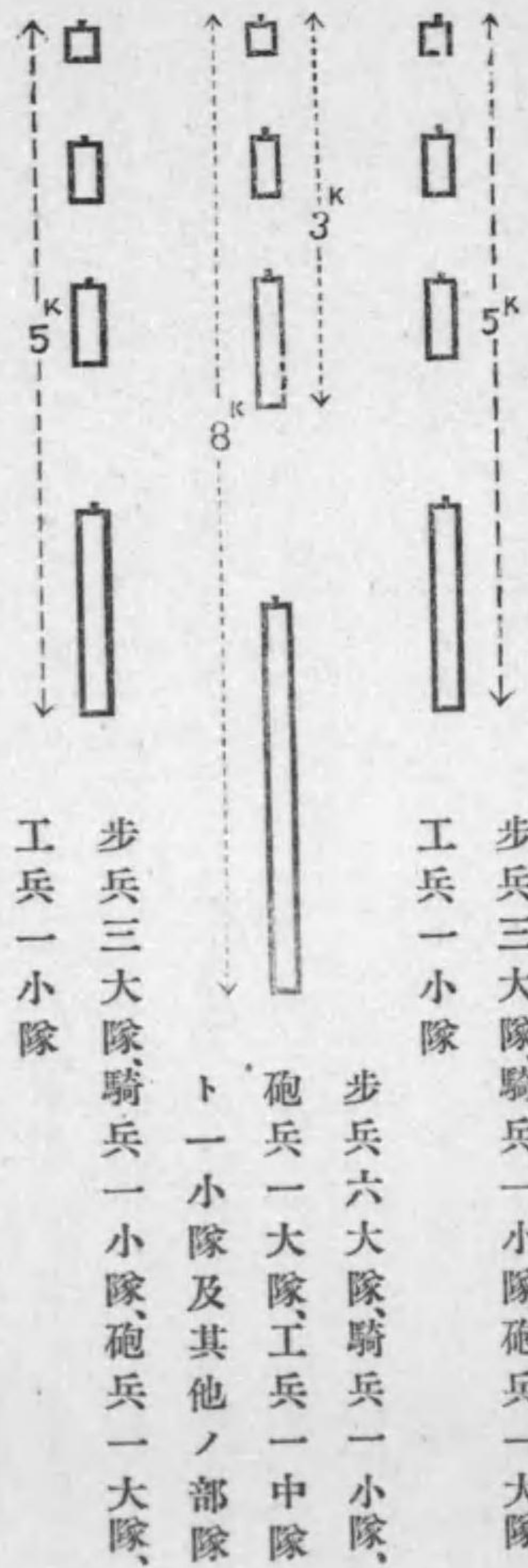
(I) 兩軍對進中ニ展開シ次テ攻撃戰鬪ニ移ル場合(對進的統一展開ノ遭遇戰) 此場合ニ於テハ先頭部隊ハ行進ヲ繼續シ後續部隊ハ迅速ナル歩度ヲ以テ先頭部隊ト齊頭面ニ進出シ交戰狀態ニ移ルモノニシテ其要領ヲ圖示スレハ左ノ如シ

此方法ハ意志ト動作ト相一致シ且前方ニ地步ヲ占メツツ戰鬪準備ヲ整フ



ルノ利アリテ理想的展開法ナルカ如キ感アリト雖戰鬪準備ノ完了迄ニハ廣大ナル地域ト多大ノ時間トヲ要ス從テ此方法ヲ採用スル爲ニハ敵情ヲ知ルコト迅速確實ニシテ而モ彼我ノ中間ニハ充分ナル地域ヲ有シ且爾後ニ於ケル敵情ノ變遷ヲ豫察シ得ルノミナラス軍隊ノ行進狀態ハ展開ヲ迅速ナラシムルノ姿勢ニ在ルヲ要ス是此種展開法ノ現實スルコト少キ所以ナリ

今之ヲ理論的ニ説明センニ左ノ如キ兵力ヨリ成ル部隊カ特ニ遭遇戰ニ於ケル展開ノ便宜ヲ顧慮シ三縱隊トナリテ次ノ如ク前進スルモノトス



右ノ如キ極端ナル縦隊區分ヲ以テ行進中先頭ヲ止ムルコトナク其線ニ展開セントシ且中央縦隊ノ最後尾ノ歩兵部隊ノ如キ豫備隊トナルヘキモノハ之ヲ計算外ニ置キ先ツ左右兩縦隊ト略同長徑ノ部隊ヲ展開スルモノト想定シ之ニ要スル時間ヲ計算スルニ先頭部隊ハ速歩後續部隊ハ駆歩ヲナスモノトスレハ一分間ニ於ケル追及距離ハ約五十米ナルヲ以テ所望程度ノ展開ヲ終ル爲即チ五吉ヲ追及スルニハ約百分ヲ要ス此間先頭部隊ハ約七吉ヲ行進スヘシ而シテ展開完了ノ際衝突點ヨリ約千米離隔シアル爲ニ

ハ展開開始ニ關スル指揮官ノ意志ノ發動ハ衝突點ヲ距ル約八吉ノ地點ニ於テセサルヘカラス換言スレハ此種ノ展開法ヲ採用センニハ少クモ彼我相距ル四里ノ地點ヨリ展開ニ著手セサルヘカラス然ルニ如此遠距離ヨリ戰鬪展開分進ノ動作ヲモ含ムヲ行ヒ得ルカ如キハ稀有否殆ト絶無ノ事ニ屬スヘシ蓋シ如此展開ハ通常有ユル過早ナル展開ノ弊害ヲ包含スヘケレハナリ故ニ此種展開法ハ小部隊若ハ騎兵ノ如ク歩度ノ差異ノ著シキ兵種ニ於テ採用セラルルノミナルヘク大部隊ニ在リテハ展開シツツ前方ノ要地ヲ占領スルヲ要スルカ如キ場合ニ於テ一局部ニ於テ採用セラルルニ過キサルヘシ

附記 此種ノ展開ト逐次展開トハ初期ノ状態ハ全ク同一ナルコトアリ只後者ニ在リテハ中途ヨリ先頭部隊カ敵情ノ爲已ムヲ得ス停止スルカ或ハ行進澁滞スルニ到ルモノニシテ從テ展開完了迄ニ行進スルヲ要スル距離ヲ減少ス換言スレハ展開ノ開始ヲ遅カラシムルモ差支ナシ故ニ如此逐次展開ノ發生スルコトカ稀有又ハ絶無ナリト云フニハ

アラスシテ徹頭徹尾行進間ニ展開ヲ完了スル場合カ稀有又ハ絶無ナリトノ意ナリ誤解スヘカラス

(II) 前衛ヲ一時停止セシメテ其線上ニ展開シ次テ攻撃前進ニ移ル場合(停止的統一展開ノ遭遇戦)

前述對進的統一展開ハ大部隊ニ於テハ採用シ難キカ故ニ茲ニ停止的統一展開ヲ生ス是普通ノ場合ニ於ケル統一展開ノ要領ニシテ我軍ノ行動ノミニ就テ言ヘハ恰モ防禦ノ爲展開セル敵ヲ攻撃スル場合ニ於ケル開進ヲ省略シタルモノニ酷似ス只意志ト動作トノ上ニ束縛ヲ受クル點ニ於テ差異アルノミナリ蓋シ此場合ニ於テハ時間ト場所トニ關スル選擇ノ自由ヲ有セサルカ故ナリ

守勢的統一展開ト稱スルハ步兵操典第二部第四十七ノ所謂適宜敵ト離隔シテ戦闘準備ヲ整ヘントスル場合ノ一種ニシテ豫期スル遭遇點ニ關シ殊更ニ敵ト離隔セル位置ニ全隊ヲ統一シテ展開セシメ敵ノ攻撃前進ニ伴ヒ我モ亦攻撃ニ前進セントスルモノナリ

此展開方法ハ戦闘準備ヲ完了スルニ便ナリト雖敵ニ地域ト動作ノ自由トヲ與フルノ不利アリ而シテ此展開法モ亦軍隊現在ノ姿勢狀態及軍隊指揮官ノ意志ニ由リ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得

(III) 誘致的遭遇戦

此種遭遇戦ハ其狀恰モ防禦配備ヲナシ敵兵我陣地前ニ現出スルニ乘シテ攻勢ニ轉セントスル攻勢防禦ニ酷似ス如此方法ヲ採用スルハ(1)全體ノ關係上戰場ノ選定ニ制限ヲ受クル場合(2)我ハ不利ナル地形ヲ避ケ敵ヲシテ之ニ陥ラシメントスル場合若ハ(3)我行進狀態カ敵ニ比シテ不良ナル爲位置ノ後退ニ依リテ時間ノ餘裕ヲ得テ戰勢ヲ整ヘントスル場合等ナリ而シテ此場合ニ於テハ敵兵必ス我ニ向ヒ前進シ來ルヘキ見込確實ナラサルヘカラス

千八百十四年二月十一日 Montmirailノ戦闘ハ此種遭遇戦ノ一例ナリ

千九百十四年二月十一日 Montmirailノ戦闘

一 二月上旬佛ノMaedonald軍團(約一萬人)ハ普露同盟軍ノ一部タル普將Blücherノ指揮スル細勒西軍ノ壓迫ヲ受ケツツ Châlons 附近ヨリ逐次西方ニ退避ス又奈翁ハ細勒西軍ノ側面ヲ攻撃センカ爲南方ヨリ Sézanne ニ向ヒ前進ス二月九日ニ於ケル兩軍ノ位置概略次ノ如シ

細勒西軍

Sacken (露)(一萬人) Montmirail 附近其前衛ハ La Ferté sous Jouarre

Yorck (普)(一萬八千人) Dormans 附近其前衛ハ Chateau-Thierry

Olsuflew (露)(三千七百人) Champaubert

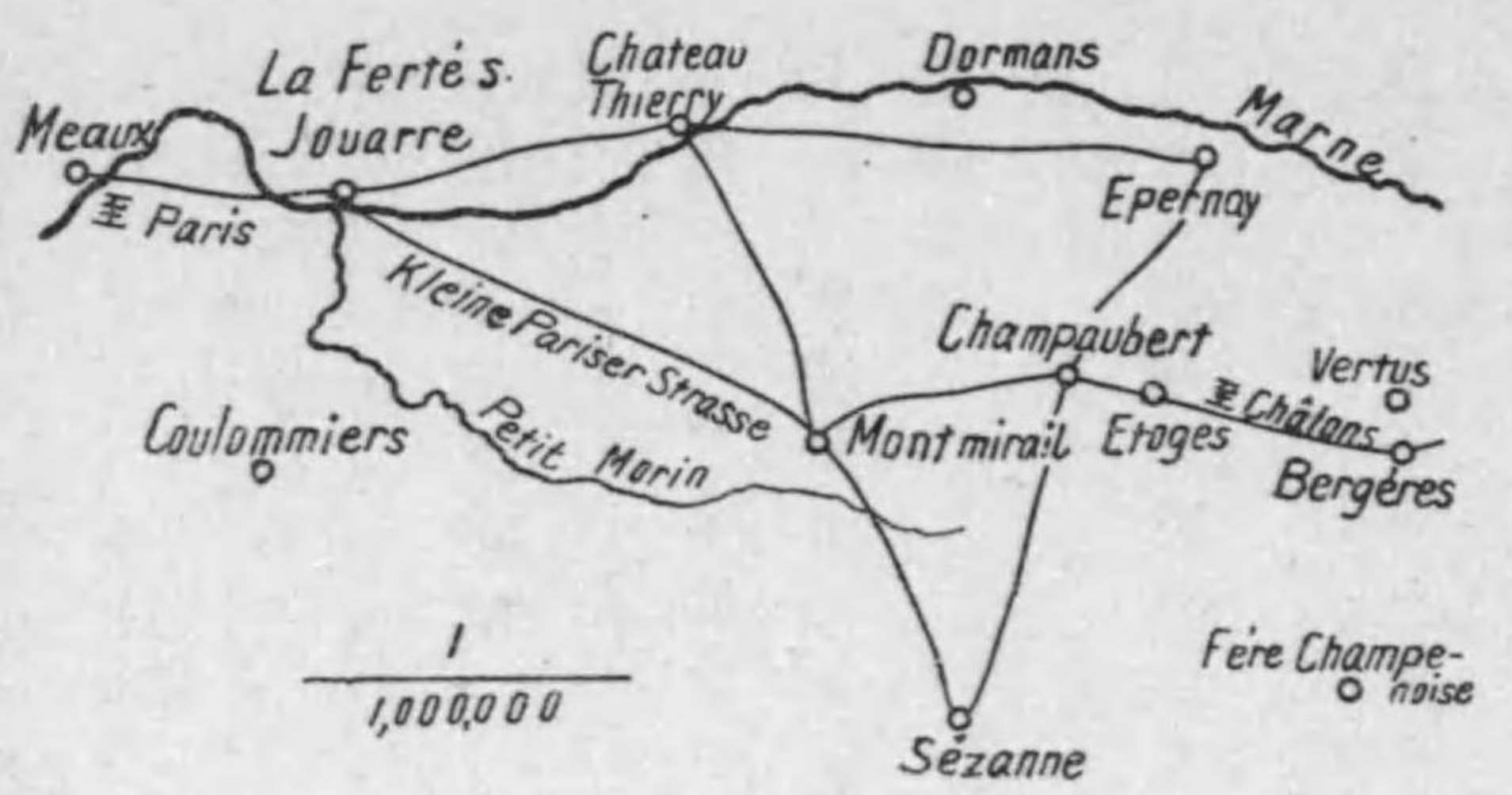
Kapzewitsch (露)(七千人)及 Kleist (普)(八千人) Vertus

佛軍

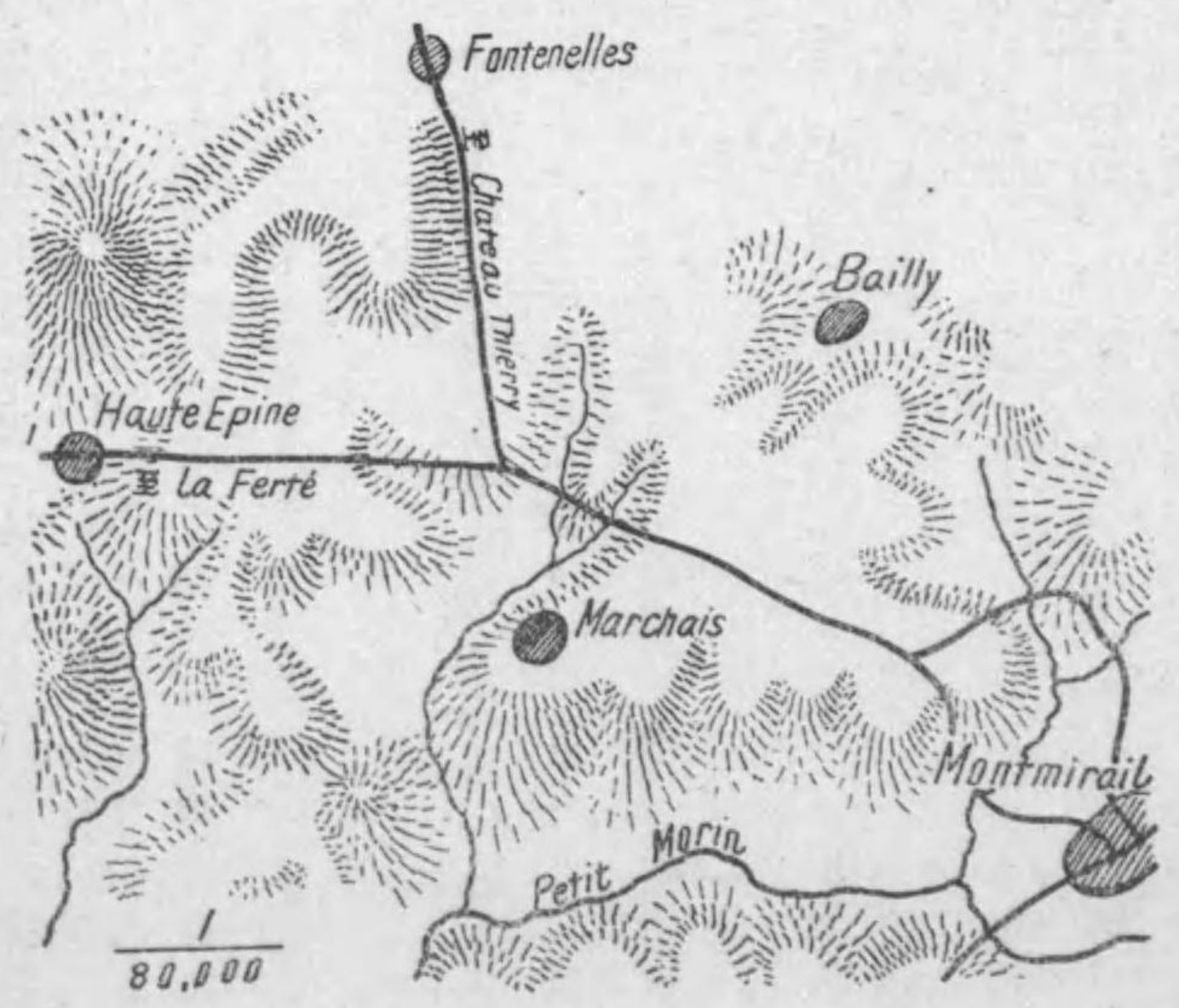
Maedonald Marne 河ノ橋梁ヲ破壊シテ Meaux 附近

奈翁(約三萬人) Sézanne 附近

二 十日佛軍ハ Champaubert ニ向ヒ前進シ同地ニ於テ Olsuflew ニ殲滅的打撃ヲ加フ



遭遇戦ノ研究



107

尋テ奈翁ハ Sacken 軍團ヲ各個ニ擊破セントシ十日夕刻 Nansouty ノ騎兵ヲシテ Montmirail ニ向ヒ前進セシメ其他ノ諸隊ハ翌十一日午前五時出發之ニ續行セシム但シ Marmont ノ指揮スル約一萬人ハ Eloges 附近ニ陣地ヲ占領シテ Blicher ニ對シテ主力ノ背後ヲ掩護シ又 Macdonald ニハ西方ヨリ Sacken 軍團ニ向ヒ前進ヲ命ス

此日 Blicher ハ奈翁ノ近接ヲ知ルヤ兵力ヲ Vertus 附近ニ集結スルニ決シ Sacken ニ命シ York ト協力シテ Vertus ニ向ヒ前進セシム尋テ Champaubert ノ狀況ヲ知ルヤ當夜恰モ Fête Champenoise ニ達セシ Kleist 及 Kapzewitsch ヲ Bergères ニ退却セシム

Sacken ハ此夕 La Ferte sous Jouarre ニ在リシカ夜間 Montmirail ニ向ヒ前進ス然ルニ同地ハ夜半已ニ Nansouty 之ヲ占領シアリ

York ニ與ヘタル Blicher ノ訓令ハ兵力ヲ Vertus 附近ニ集結スヘキ堅確ナル意志ノ表示ヲ缺キタルカ如シ蓋シ一方ニ於テハ速ニ Chateau-Thierry ヨリ Montmirail 方向ニ前進スヘク且 Szanne 方向ニ注意スヘキコトヲ命スルモ他方

ニ於テハ Marne ニ架橋シ戰況不利ナル場合 York, Sacken 兩軍團ノ Marne 右岸ニ退却スルヲ容易ナラシムヘキヲ以テセシカ故ナリ

又 Sacken ハ York ト協力スレハ Sezanne 方向ヨリ前進セシ佛軍ヲ拒止シ或ハ之ヲ壓倒スルニ足ルヘント信シタルニ反シ York ハ此敵ヲ強大ナリト判断シ眞面目ノ戦闘ヲ避ケントシ強固ナル攻撃ノ意志ヲ有セス是當日 Montmirail ニ於ケル同盟軍敗戦ノ主因ナリ

三 十一日朝佛軍ハ Marchais 附近右方小巴里街道ヨリ左方 Petit Morin 河谷ニ互リ展開シ其騎兵ハ街道ノ北方ニ在リ

Sacken ハ早朝之ニ對シテ其歩兵ヲ Haute Epine 附近街道ノ兩側ニ展開シ騎兵ヲ其左翼ニ配置ス

奈翁ハ砲撃ニ依リテ敵ヲ牽制シツツ全兵力ノ到着ヲ俟チテ攻勢ヲ取ラントシ殊ニ其左翼ニ敵ヲ誘致シ街道北方ヨリ敵ヲ攻撃セントス是 Sacken ノ左翼ヲシテ York ノ應援ヲ受クヘキ希望アル Montmirail-Chateau Thierry 街道ニ達セシムルハ甚不利ナレハナリ而シテ此計畫ハ全ク成功シ Sacken ハ奈翁ノ左

翼ニ對シ猛烈ニ攻撃シ Marchais ノ部落ハ三度兩軍爭奪ノ焦點トナレリ此間奈翁ハ其豫備隊ヲ以テ Sacken ノ左翼ヲ擊破シ Haute Epine ヲ占領セリ此時ニ方リ Chateau Thierry 方向ヨリ York 近接セシモ奈翁ハ Morhier ヲ派遣シテ之ヲ Fontenelles ノ後方ニ壓迫セリ又三度 Sacken ノ占領セシ Marcails 部落モ佛軍ノ恢復スル所トナリ茲ニ Sacken ハ多大ノ損害ヲ蒙リテ York ト共ニ Chateau Thierry 方向ニ退却スルノ已ムナキニ到レリ

四 教訓

- 本戰鬪ハ甚教訓ニ富ム然レトモ悉ク戰略上若ハ統帥上ノ事項ニ屬スルヲ以テ詳細ハ諸官後日ノ研究ニ讓リ一二ノ要點ヲ舉クルコト次ノ如シ
- (イ) 十日 Blücher カ兵力集結ノ必要ヲ判斷シタルハ適當ナルモ之カ爲ニ下セシ命令ハ狀況ニ合セス此狀況ニ於テハ兵力集結ハ即チ會戰ヲ意味ス從テ各軍團等ニ與フル命令ハ之ニ適スルモノナラサルヘカラス
- (ロ) Blücher カ York ニ與ヘシ指示ニ依レハ戰鬪ニ依リテモ速ニ兵力ヲ集結

セント欲セシヤ否ヤ明ナラス是當日 York ノ行動カ徹底セサリシ感アル主因ナルヘシ命令ニハ堅確ナル決心ノ表示ヲ必要トス

- (ハ) 同盟軍ノ作戰ニ於テハ往々 York ト Sacken トノ關係ノ如キ結果ヲ生スルコトアリ殊ニ兩指揮官カ情況判斷ヲ異ニセル場合ニ於テ甚シ注意スヘキコトトス

- (ニ) 奈翁カ細勒西軍ノ兵力分散ノ好機ニ乘シ之ヲ攻撃セント企圖シタルハ至當ナリ

因ニ此攻勢ハ全般ノ關係ヨリ觀レハ單ニ時間ノ餘裕ヲ得ルカ爲即チ奈翁カ同盟軍ニ對シ決戰ヲ遂行シ得ルニ必要ナル増援軍ヲ得ル迄ノ持久ノ目的ノ爲ニ取ラレタルモノニシテ戰略的守勢ノ目的ヲ達スルニ戰術的攻勢ヲ以テセル一例ナリ

(IV) 反擊的遭遇戰

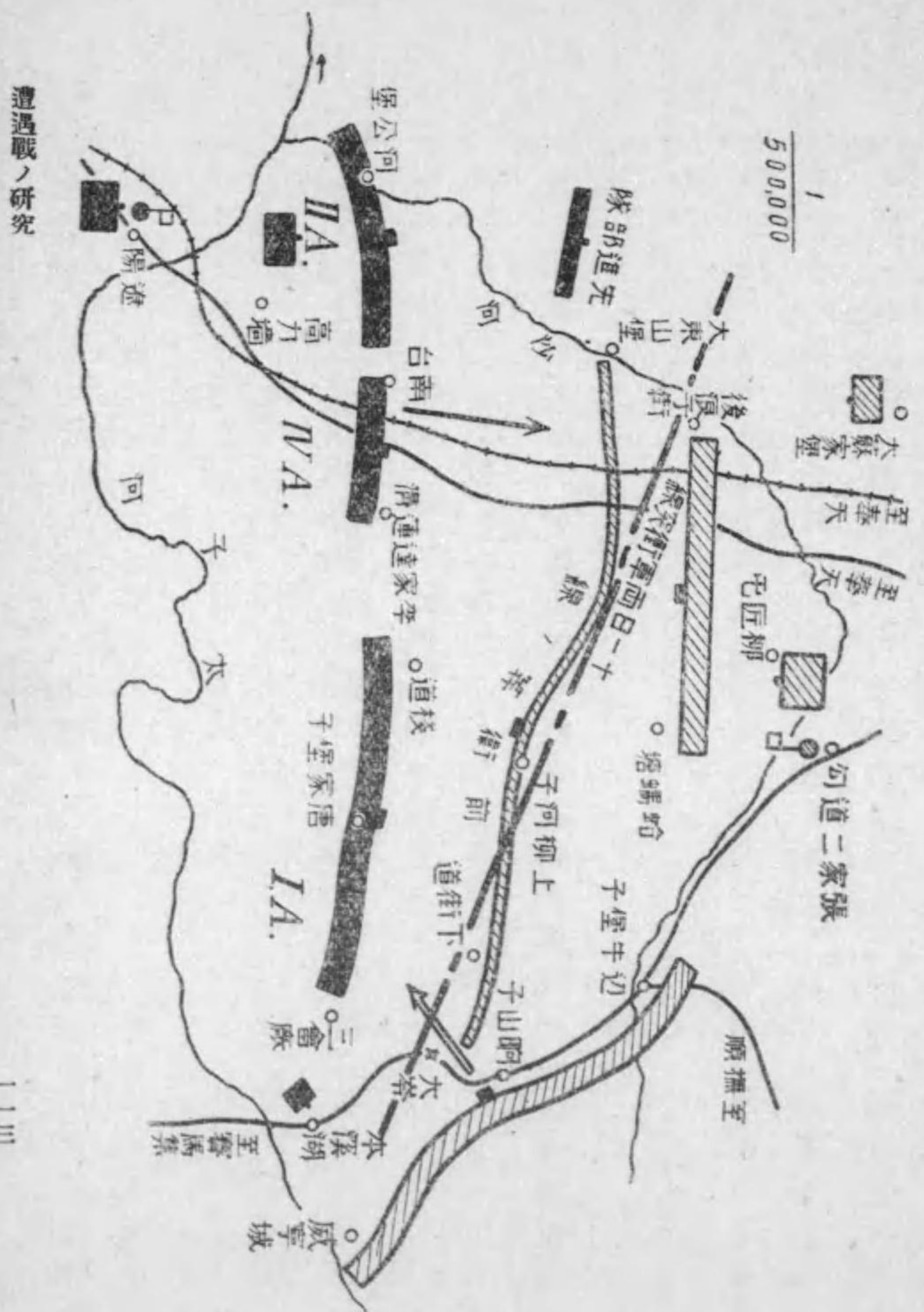
反擊的遭遇戰ト稱スルハ形體ニ於テハ誘致的遭遇戰ニ酷似スレトモ此種ノ遭遇戰ハ彼我對陣中若ハ我軍守勢ニ在ル場合等ニ發生スルコト多シ即

チ誘致的遭遇戦ニ於テハ我ハ最初ヨリ攻勢ノ企圖ヲ有スルモ反撃的遭遇戦ニ於テハ然ラス我ハ當初攻勢ノ企圖ヲ有セサルモ敵ノ攻撃前進ニ依リテ始メテ攻撃ノ意志ヲ生スルモノナリ一般關係ヨリ觀察スレハ其動作ハ攻勢移轉ナルモ惹起セラレタル戦闘ノ性質ハ遭遇戦ニ屬ス日本軍ヨリ觀タル沙河會戦ハ反撃的遭遇戦ノ一例ナリ

沙河會戦ニ於ケル日本軍

- 一 明治三十七年九月下旬露軍司令官ハ日本軍ニ對シ攻勢ヲ取ルニ決シ九月二十八日命令ヲ下シ十月五日ヨリ運動ヲ起ス
 - 日本軍總司令官ハ露軍ノ攻撃前進ヲ知リシモ第二、第四軍ノ狀態ハ急ニ前進開始ヲ許サケルヲ以テ現陣地ニ於テ攻勢移轉ヲ準備ス
 - 二 然ルニ此間露軍ハ優勢ナル兵力ヲ逐次日本軍ノ右翼ニ移動シ八日以後右翼ニ對スル壓迫漸次増加シ來レリ
- 茲ニ於テ日本軍ハ右翼山地方面ニ於テ敵ノ攻撃ヲ拒止シ敵ノ兵力集結未タ

圖要置位軍兩露日夜日九月十中戰會河沙
ク除テ面方隊支山秋翼左ノ軍本日



遭遇戦ノ研究

完カラサルニ乗シテ左翼平地方面ニ於テ攻勢ヲ取ルニ決シ十日其行動ヲ開始ス

九日夜ニ於ケル兩軍主力ノ配置ハ要圖ノ如シ

三 本溪湖方面ニ於テハ十一日戰況最危殆ニ陥リシカ十二日午後ニ到リ戰況漸次有利トナリ第二、第四軍方面ニ於テハ十三、十四日戰鬪高潮ニ達シ十四日夕日本軍ノ主力ハ概シテ敵ヲ沙河ノ線ニ壓迫スルヲ得タリ

統一展開ノ遭遇戰ニ於ケル展開後ノ攻撃實施ノ要領ハ一般ノ攻撃前進ニ於ケルト異ル所ナシ

(ロ) 逐次展開

逐次展開ト稱スルハ歩兵操典第二部第四十六後段ニ示ス所ニシテ前衛等ノ現狀ヲ顧慮シ之ニ應シテ戰鬪ヲ有利ニ指導セントスルモノナリ
此場合ニ於テ前衛等ノ獲得セル利益ヲ確保セントスルヤ將又之ヲ増大セントスルヤニ依リ具體的ニ研究スレハ部隊ノ加入スヘキ戰鬪性質上之ヲ二様

ニ分ツコトヲ得ヘシ

(I) 前衛ノ攻撃戰鬪ニ逐次加入スル場合

前衛ハ全般ノ利益ニ鑑ミ攻勢動作ヲ取り特殊ノ利益ヲ收メツツアルヲ以テ其攻勢ヲ猛烈果敢ニ續行シ且之ヲ擴大スルニ於テハ先ニ得タル利益ハ更ニ之ヲ増大シ得ヘキ場合ノ戰鬪法ナリ

此種戰鬪法ハ概ネ次ノ如キ場合ニ於テ發生スルモノナリ

- (a) 敵軍行動ノ妨害例ヘハ敵ノ隘路進出ニ乗スルカ如キ場合
- (b) 我軍ノ不利ヲ補綴スル時例ヘハ主力ノ隘路進出ヲ容易ナラシメントスルカ如キ場合

- (c) 要點ノ爭奪例ヘハ彼我ノ中間ニ在ル戰鬪ノ支撐タルヘキ要地ノ占領ニ努力スルカ如キ場合

(附言)

世間往々前衛獨力ヲ以テ攻撃ヲ斷行スヘキ場合ニ關シ敵兵力ノ寡弱敵兵警戒ノ怠慢等ニ就キテ説ク者アリ若如此場合アレハ之ニ乗スヘキコト勿

論ナリト雖之ヲ原則的状況トシテ想像スルカ如キハ現代ノ戰理ニ合セサルモノト謂フヘシ

(II) 前衛ノ防禦戰闘ニ逐次加入スル場合

前衛ノ既ニ獲得セル利益ハ敵ノ動作ニ依リ動モスレハ奪回セラレルノ虞ナシトセサル場合アリ此場合ニ於テハ先既ニ得タル利益ヲ確保シ次テ更ニ戰況ノ發展ヲ企圖スルヲ可トス又前衛ヲシテ孤立無援ニ陥ラサシメシカ爲少クモ差當リ現状ヲ維持センカ爲本隊ノ兵力ヲ到著ニ從ヒ逐次ニ使用スルノ必要ヲ生スルコトアリ此種戰闘法ハ概ネ次ノ如キ場合ニ發生ス

(a) 要點ノ保持例ヘハ我占領セル據點ヲ奪取セントシテ攻撃シ來ル敵ヲ拒止セントスル場合

(b) 敵主力ノ攻撃拒止例ヘハ敵ノ展開豫想外ニ迅速ニシテ我ニ先テ攻撃前進シ來レル場合

逐次展開ニ於ケル遭遇戰指導ノ要領ハ行軍縱隊ニ在ル本隊諸隊ニ戰闘任務

ヲ課シ逐次戰線ヲ延伸シ又ハ戰線ノ間隙ヲ填塞スルニ在リ其狀恰モ(意志ノ異ルコトハ別トス)偵察隊又ハ緒戰部隊ノ戰闘結果ヲ利用シ總攻撃ニ移ル場合ニ酷似ス但シ其主力ハ開進又ハ集結シアラスシテ行軍縱隊ニテ前進中ナルカ故ニ戰闘加入ノ逐次的ナル爲若干ノ差異ヲ生ス

步兵操典第二部第四十六後段ニ「前衛ノ獲得セル利益ノ確保及増大」ノ爲逐次到著スル本隊ノ各部隊ヲシテ直ニ戰闘ニ加入セシムルヲ要スト示セルハ即チ此謂ナリ

前述 Auerstedt ノ會戰ハ普軍ニ就テ云ヘハ前衛ノ攻撃戰闘ニ逐次ニ戰闘加入ヲ爲セシ場合ニシテ佛軍ニ就テ云ヘハ前衛ノ防禦戰闘ニ逐次ニ戰闘加入ヲ爲セシ場合ニ相當ス

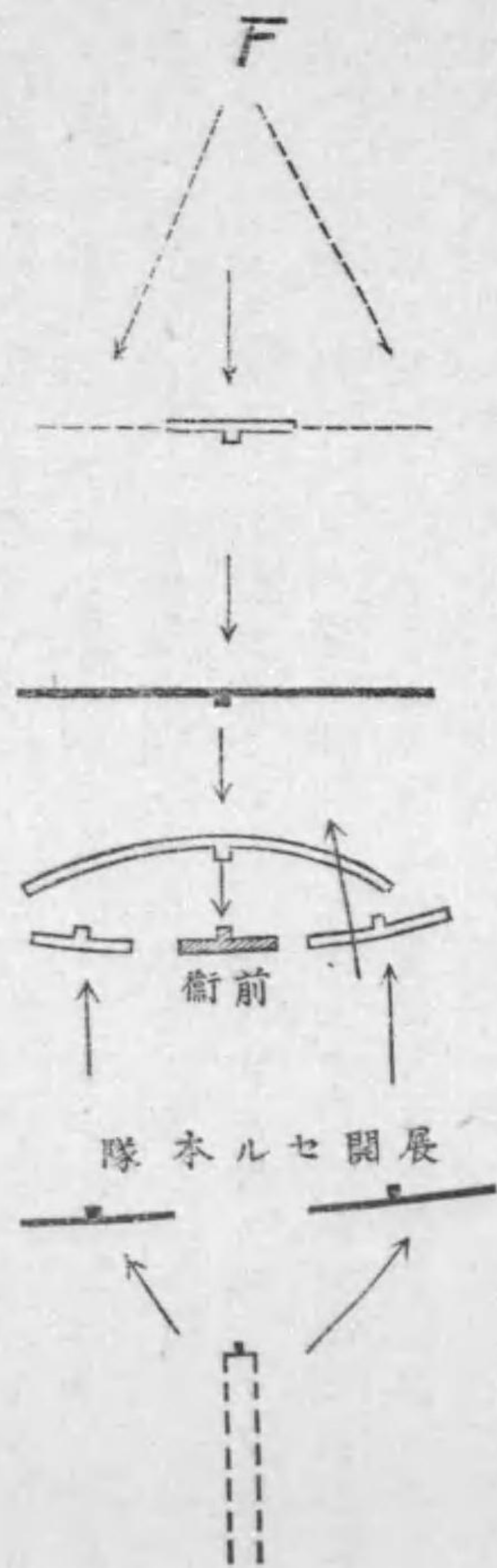
(ハ) 後退展開

後退展開トハ步兵操典第二部第四十七ニ示セル敵ト離隔シテ戰闘準備ヲ整フル場合ノ一種ニシテ前衛ハ前方ノ某地ニ於テ動作シ本隊ハ其後方後退セル位置ニ於テ戰闘準備ヲ整ヘントスルヲ云フ

此場合ニ於テモ前衛ノ動作ニ依リ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得
 (I) 前衛ノ後方ニ於テ展開ヲ完了シ次テ前衛ノ線ニ進出シテ全體攻撃前進
 ヲ爲ス場合

此種展開法ノ主眼ハ步兵操典第二部第四十七ニ明示セルカ如ク始終優勢
 ナル敵ノ壓迫ヲ受クルコトナカラシムカ爲ニシテ多クハ初期ニ於ケル敵情
 ノ不明ニ因リ過度ニ敵ニ近接セシ場合ニ前衛ヲ後退スルノ不利ヲ避ケン
 カ爲之ヲシテ防止的姿勢ニ在ラシメ其後方ニ於テ充分ナル戦闘準備ヲ整
 ヘントスルモノニシテ前衛ノ孤立ハ之ヲ覺悟セサルヘカラス故ニ逐次展
 開ヲ採用シ難キ場合ニ限リ此方法ヲ採用スルヲ要ス詳言スレハ前衛ハ孤
 立無援トナルヤモ知レサレトモ前方ニ地歩ヲ領有シテ本隊ノ展開ヲ齊整
 ニ完了セハ勝利ノ公算充分ナルトキ若ハ狀況上前衛ヲ後退スルコト能ハ
 サルカ故ニ斷然之ヲ犠牲トシ償フニ本隊ノ整備セル戦闘準備ニ依リテ敵
 ニ與ヘ得ヘキ殲滅的打撃ヲ以テセントスルカ如キ時ニ於テ採用スヘキモ
 ノニシテ好ンテ採用スヘキモノニアラス此要領ヲ圖示スレハ左ノ如シ而

シテ此種戦闘ノ經過ハ恰モ一小部隊ヲ以テ某地ヲ占領セシメ主力ハ其後
 方ニ集結シ敵兵我第一線ニ對シ攻撃シ來リテ適當ナル距離ニ近接スルニ
 乘シ既ニ第一線ノ後方ニ梯次ニ展開シアル主力ヲ以テ攻撃前進ヲ爲ス場
 合ニ酷似ス只主力カ集結セル隊形ヨリ展開スルト行軍縱隊ヨリ展開スル
 トノ差アルノミ



(II) 露軍ヨリ觀タル沙河會戰ハ此種遭遇戰ノ一例ナリ
 前衛ノ後方ニ於テ展開ヲ完了シ次テ前衛ヲ展開線内ニ後退セシメ其後

全體ノ攻撃前進ヲ爲ス場合

此場合ハ(I)ノ場合ニ於ケル前方ノ地歩ノ領有ヲ中途拋棄セル窮策ニシテ其狀恰モ前衛ヲシテ掩護ニ任セシメ本隊ハ其後方ニ防禦陣地ヲ占領シ敵ノ前進ニ伴ヒ機ヲ看テ攻勢ニ轉セントスル場合ニ酷似ス而シテ此種ノ戰鬥法ニ於テハ前衛カ交戦後本隊ノ展開線内ニ退却スルトキハ第一諸兵連合ノ有力ナル前衛ノ戰鬥離脱ハ現代ニ於テ晝間頗ル困難ナリ第二縱ヒ戰鬥ヨリ離脱シ得ルモ其損害ハ甚大ナルノミナラス前進陣地占領ノ最大ノ不利ヲ本隊ニ及ホスヘシ故ニ此方法ハ前衛カ未タ全部展開セス其大部尙行軍縱隊ニ在ルカ如キ場合ニ於テ僅ニ實行シ得ヘシ若夫レ前衛ノ大部カ展開シタル後ニ在リテハ縱ヒ交戦狀態(彼我ノ射撃交換)ニ入ラサル以前ト雖其退却ハ頗ル困難ナルモノアリ故ニ如此方法ハ小部隊ニシテ而モ前衛ノ姿勢恰好ナル場合ニ限り稀ニ應用シ得ルニ過キサレヘシ

諸兵連合ノ大ナル前衛ヲ有スル部隊ニシテ而モ前衛ノ戰鬥開始後此種戰法ヲ用ヒントスルカ如キハ我國民性ト全然相容レサルハ明瞭ナリ故ニ此

戰法ハ理論ニ於テハ一ノ窮策トシテ成立スヘシト雖予ハ本邦ノ戰術トシテハ絶對ニ之ヲ排斥セントス若夫レ如此狀況ニ遭遇セハ前衛ノ戰鬥ニ逐次加入スルノ策ヲ採ルカ狀況之ヲモ許ササレハ寧ロ守勢的統一展開ノ遭遇ヲ指導スルノ優レルニ若カス

露軍ヨリ觀タル得利寺附近ノ戰鬥ノ要領ハ此種ノ遭遇戰ト全ク同様ナリ次ニ述フル North 附近ノ戰鬥ハ戰鬥離脱ノ困難ヲ證スヘキ一例ナリ

(二) 特例

前述各種ノ場合ノ外一ノ特例アリ即チ本隊ハ前衛ノ線上ニ統一展開ヲ行ヒツツ而モ一方ニ於テハ前衛ハ戰鬥(主トシテ砲兵ノ射撃)ヲ開始スルカ如キ變態アルコト是ナリ例ヘハ(a)敵ノ展開ヲ妨害スル爲(b)敵情偵察ノ爲特ニ砲兵戰鬥ノ開始ヲ有利トスルカ如キ場合ノ如シ

如此ハ遭遇戰ニ於ケル展開指導上ノ主義ノ一貫ヲ破ルモノニアラスシテ却テ遭遇戰ノ遭遇戰タル所以ヲ發露セルモノタルコトニ注意スヘシ

Maas 軍ノ位置
1870年^{28/8}夕



千八百七十年八月二十九日 Nonat 附近ノ戰

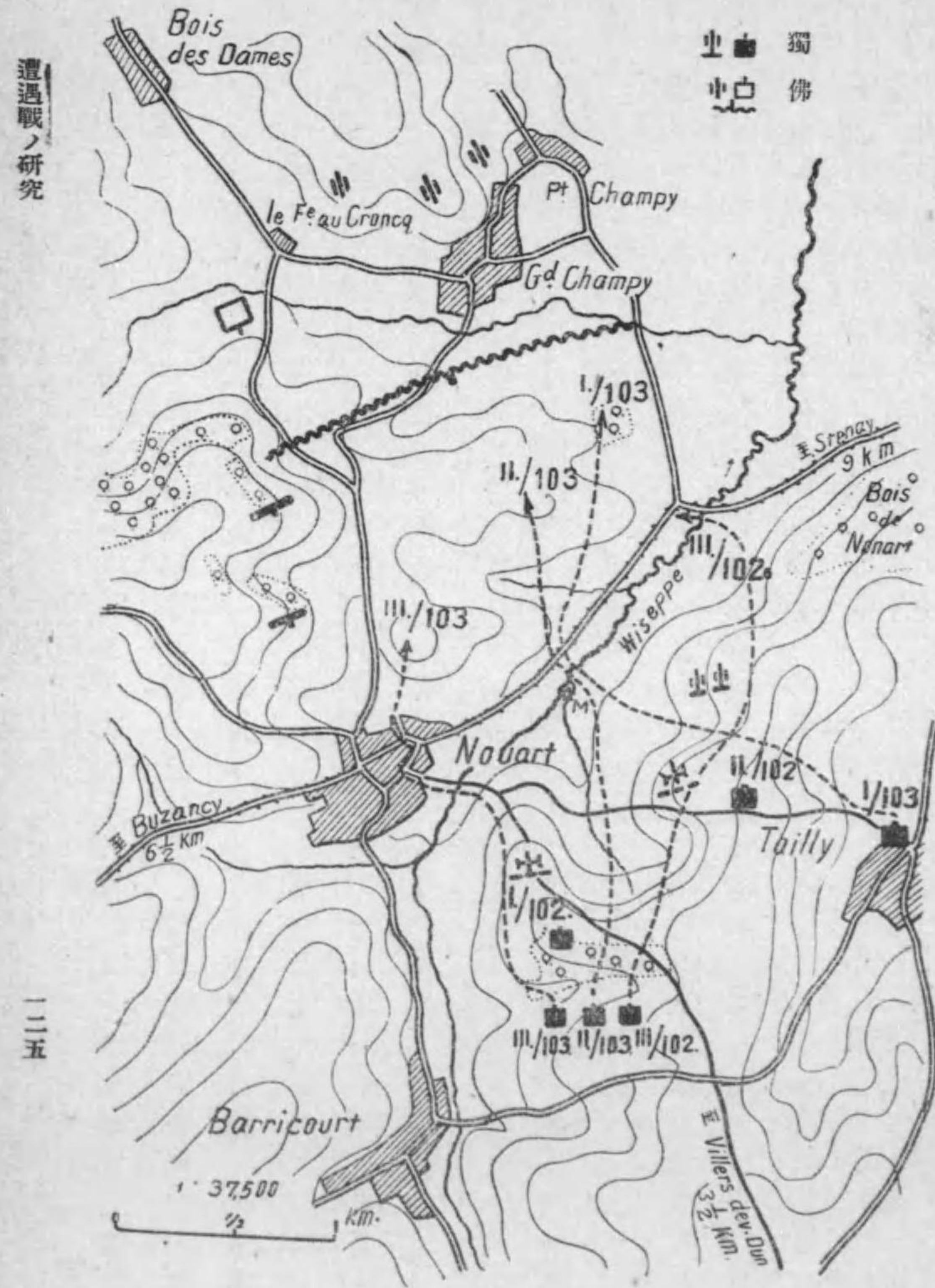
獨逸步兵操典
戰史の說明

一 八月二十八日佛ノ Mac Mahon 軍ノ最右翼タル第五軍團ハ東進シテ Bois des Dames 附近ニ達ス

同日夕獨ノ Maas 軍ハ概シテ Buzancy—Stenay 街道南側地區ニ在リ即チ第十二軍團ハ一部ヲ Tailly 東方地區ニ出シ主力ハ Maas 河右岸 Stenay 及 Dun sur Meuse 附近ヲ堅固ニ防禦シ其騎兵師團ハ Villers devant Dun 附近ニ近衛軍團ハ Bantheville 及 Romagne ニ其騎兵師團ハ Remcuville 附近ニ第十二軍團ハ Mont-faucon 附近ニ位置ス翌二十九日ノ爲 Maas 軍ニ與ヘラレタル大本營命令ノ要旨左ノ如シ

獨軍ノ兵力集中充分ナルニ先チ敵ヲシテ攻勢ニ轉セシムル如ク挑發スルコトナキカ爲 Maas 軍ハ概ネ Aincreville, Landres ノ線ニ防禦陣地ヲ選定シ先其三軍團ヲ之ニ集合スヘシ Buzancy-Stenay 街道ニ向ヒ攻撃スルハ後命

NOUART 附近ノ戰圖
1870 — 29/8



遭遇戰ノ研究

ニ依ルヘシ但シ前面ノ敵兵劣勢ナレハ同街道ヲ占領スルヲ妨ケヌ又Stenay, Dun間ノMaas河ノ線ノ監視ハStenayニ在ル旅團ノ任トス

二 翌二十九日朝Maas軍司令官ハ軍ハBuzancy-Stenay街道ニ前進スルヲ必要ナリト判断シ第十二軍團ヲシテNouart附近ニ近衛軍團ヲシテBuzancy附近ニ第四軍團ヲシテRemonville附近ニ向ヒ前進セシメ特ニ當日ノ前進ハ單ニ偵察ノ爲ニシテ大本營ノ意圖ハ翌三十日ヲ以テ攻撃ヲ實行スルニ在ルコトヲ附言セリ

三 第十二軍團ノ前衛步兵第四十六旅團第百二聯隊騎兵第一聯隊四中重、輕砲各一中隊工兵一小隊ハNouartニ前進ヲ命セラレ正午頃諸隊ハNouartトTaillyトノ間ノ高地ヲ占領セリ

然ルニ此地方ハ山巒起伏シ且森林鬱蒼タルヲ以テ敵ノ兵力ヲ判知スルコト能ハス是ニ於テ正午過軍團長ハ其前衛ニ命スルニNouart東方高地ヲ確保シツツGrand Champyニ向ヒ攻撃シテ敵ノ兵力ヲ展開セシムヘキコトヲ以テセリ

之カ爲前衛ノ砲兵二中隊ハ Nouart 東方高地ニ陣地ヲ占領シ步兵第百三聯隊第二大隊ハ Nouart ノ下流水車場附近ニ於テ Wiseppe 河ヲ渡過シ同第三大隊ハ Nouart ニ進入セリ又同第一大隊ハ三中隊ヲ以テ Tailly ヲ占領シ一中隊ハ Nouart ニ前進シ第百二聯隊ノ各一大隊ハ Nouart 東南及東方高地ヲ占領シ一大隊ハ Bois de Nouart ニ派遣セラレ本隊先頭ニ在リシ砲兵一中隊ハ前衛ニ増加セラレテ Tailly 西北方ニ陣地ヲ占領ス

然ルニ佛軍ノ步兵一旅團ハ La Ferme au Croncq 南方高地ヨリ Gd. Campy 南方ニ亘ル間ニ展開シ他ノ一旅團ハ La Ferme au Croncq 南方ニ開進シ砲兵數中隊ハ Bois des Dames 附近ノ高地ヨリ獨軍ノ砲兵ニ對シ射撃ヲ開始ス

乃チ獨軍步兵第百三聯隊第一大隊ノ三中隊ハ Tailly 附近ヨリ水車場ヲ經テ聯隊ノ主力ニ跟随シ Gt. Champy 南方高地ニテ其戰鬪ニ參加ス

當時軍團長ハ Tailly 附近ヨリ此戰況ヲ視察シ戰鬪ヲ中止スルニ決シテ現ニ步兵第百三聯隊ニ増援ノ爲メ Nouart 東北方 Wiseppe 河ノ橋梁附近ヲ前進中ナル步兵第百二聯隊第三大隊ニ命シ同地附近ニテ諸隊ノ收容ニ任セシム

步兵第百三聯隊ハ Nouart 及水車場ヲ經テ退却セリ此間本隊砲兵更ニ一中隊 Nouart 東南高地ニ増加セラレテ此戰鬪ニ參與ス時ニ午後三時乃至四時ナリ然ルニ間モナク之ニ對セシ佛軍モ亦東北方ニ轉進スヘキ命ニ接シテ戰鬪ヲ中止セリ

四 本戰鬪ニ於ケル獨軍ノ死傷左ノ如シ

步兵第百三聯隊	將校	一三	下士卒	三三八
其他ノ部隊	同	一	同	一一
計	同	一四	同	三四九

五 教訓

- (イ) 本戰例ハ戰鬪中止ノ如何ニ困難ナルカヲ證スルニ足ル
- 佛軍ニシテ若偶然ナル戰鬪中止ノ必要ナカリセハ獨軍ノ損害ハ尙増大セシナラン
- (ロ) 緒戰ヲ開始セシ前衛若ハ強大ナル歩砲兵ヲ以テスル威力搜索部隊等ノ戰鬪離脱ハ如此困難ニ陥ルヘキヲ以テ特別ノ場合ノ外其戰鬪離脱ヲ企畫

已ニ述ヘシカ如ク等シク遭遇戦ト稱スルモ其實質ハ各種多樣ニシテ不期の奇襲戦ヨリ攻勢防禦的戦闘ニ至ル迄各種階梯アリ是遭遇戦指導ノ困難ナル一原因ナリトス

各種遭遇戦ハ如何ナル場合ニ惹起スヘキヤヲ考察判定センニハ諸官ハ之ヲ戦史ニ徴スルヲ捷徑トナス遭遇戦ノ各場合ハ一般狀況ニ關スルハ勿論ナリト雖許多ノ場合ニ於テ自己ノ攻勢意志ヲ貫徹セントスル方法即チ戦闘指導ノ手段ハ當面ノ敵情特ニ地形ニ關係スルノ大ナルコトヲ推知スルニ難カラサルヘシ

平坦開濶ニシテ地形ノ戦闘ニ及ス利害全ク相等シキトキハ攻勢的統一展開ヲ惹起スヘキモ其他ノ場合ニ於テハ冒險的ナル指揮官ハ主トシテ逐次前衛戦ニ加入スル遭遇戦ヲ企圖シ之ヲ爲シ能ハサルカ又ハ慎重ナル指揮官ハ後退展開ニ依ル防支的遭遇戦ヲ企圖スヘシ若地歩ヲ敵ニ與フルヲ辭セサルカ或ハ某地區ヲ與フルヲ以テ戦闘指導上有利ナリト判断スル場合ニ於テ而カモ敵ノ攻撃前進ヲ確信シ得ルトキハ稀ニ守勢的統一展開又ハ後退展開ニ依ル退避的遭遇戦ヲ交フルニ

至ルヘシ

之ヲ要スルニ遭遇戦ニ於ケル戦闘指導ハ爾他ノ關係ヨリモ寧ロ地形ノ價值ニ因リ差異ヲ生スルコト大ナルモノナリ

次ニ普埃戦史中ノ二遭遇戦ヲ略述シテ諸官ノ參考ニ資シ以テ遭遇戦ニ關スル本研究ヲ終ラントス

千八百六十六年六月二十七日 Trautenau ノ 戦闘

一 普國第二軍カ Böhmen ニ向ヒ前進スルニ際シ其第一軍團ハ軍ノ右翼ニ在リ六月二十七日 Trautenau ヲ經テ Plinikan ニ向ヒ前進ス前進ノ爲ノ軍團長 V. Bonin ノ部署次ノ如シ

第一師團及豫備砲兵ハ Liebau 附近第二師團及豫備騎兵ハ Schömberg 附近ニ於ケル宿營地ヨリ各午前四時出發ニ縱隊ニテ行進シ Parschnitz 附近ニテ二時間休憩シ爾後兩街道ノ合點ヨリ一縱隊トナリ Trautenau ヲ經テ前進ス第一師團ノ前衛ハ Parschnitz 附近ニ於ケル休憩間ノ掩護ニ任ス

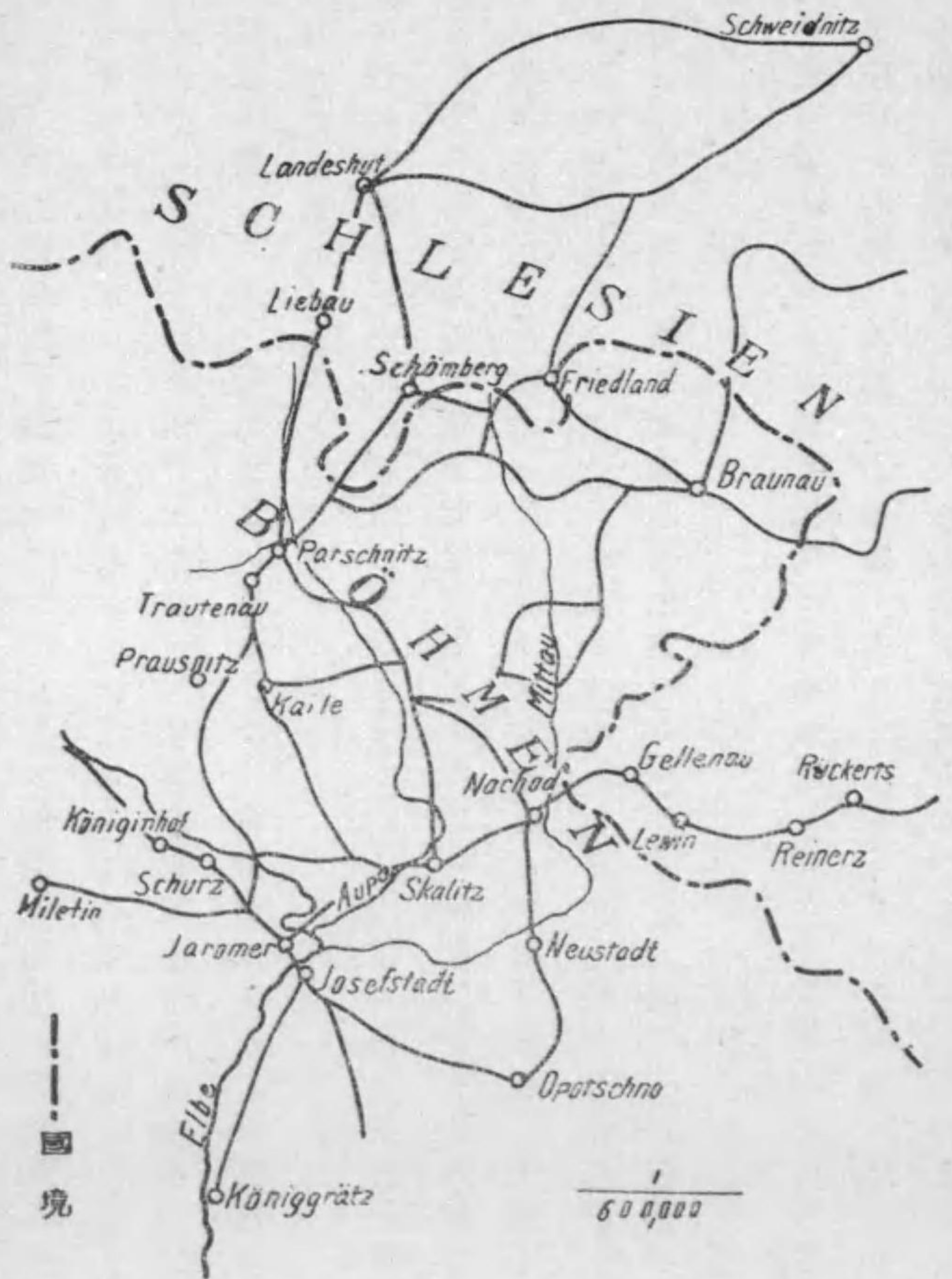
蓋シ Parschnitz 迄ノ兩縱隊ノ行進距離ノ差ハ僅ニ二吉ノミナルヲ以テ兩縱隊ハ殆ト同時ニ相合スヘキモノト計算セリ

二 然ルニ第二師團ハ第一師團ヨリモ著シク早ク午前八時頃 Parschnitz 附近ニ到著シテ休止ニ移リシモ「Trautenau 附近ノ要點ノ占領ニ著手スルコトハ勿論自己ノ爲必要ナル警戒部署ヲモ之ヲ怠リ單ニ敵騎半中隊「Trautenau」ヲ守備シ同市入口 Aupa ノ橋梁ハ閉塞セラレアルコトヲ知リシノミニシテ敵ノ Mondel 旅團(歩兵七大隊、騎兵一中隊砲八門)ハ八時頃 Hohenbrück 附近ニ到著シ午前九時十五分頃 Trautenau 南方高地ヲ守備セシカ如キハ全ク之ヲ知ラス

第一師團ハ前進中敵ノ龍騎兵若干ニ遭遇スルヤ歩兵ヲ以テ進路兩側ノ急峻ナル斜面ニ存在スル小部落及森林ヲ搜索シツヲ前進セシヲ以テ大ナル疲勞ト行進ノ滯滞トヲ來シ漸ク午前十時頃ニ及ヒテ Parschnitz 附近ニ到著シ其前衛ハ更ニ前進ヲ繼續シテ先頭「Trautenau」ニ進入シタル後其南側ノ高地ヨリ不意ニ猛烈ナル歩兵火ヲ受ク

三 埃軍側ニ在リテハ將官 v. Gablenz ノ指揮スル第十軍團ハ二十七日午前八時

Nachod 及 Trautenau 附近
一般圖



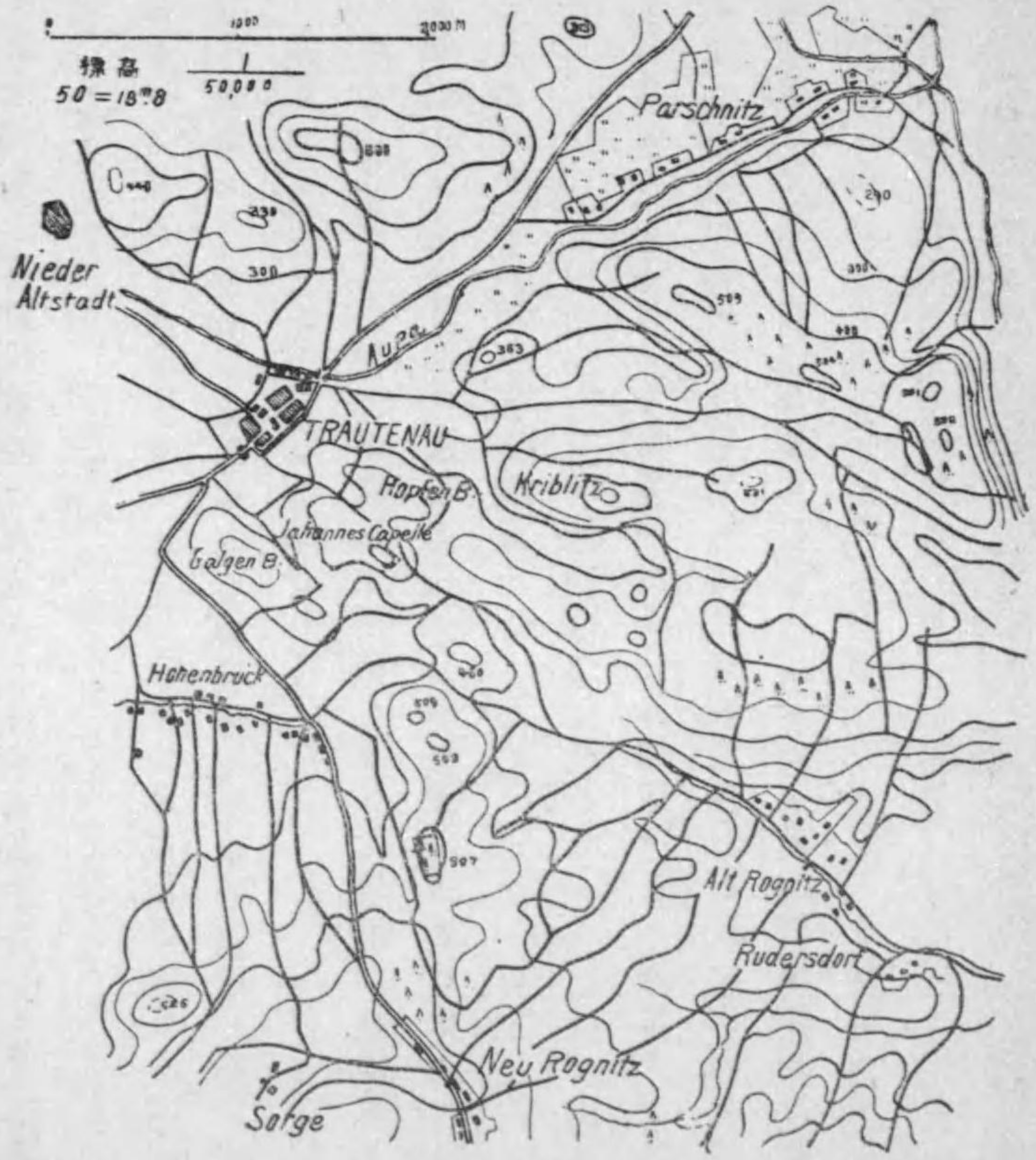
遭遇戦ノ研究

Schurz, Jaromer 間ノ宿營地ヲ出發シテ Trautenau ニ前進シ同地ニ陣地ヲ占領ス
 ヘキ軍命令ヲ受ク其任務ハ Skalitz 附近ニ前進スヘキ第六軍團ト共ニ Schlesien
 方向ニ對シテ Josefstadt, Miletin 附近ニ集結スヘキ埃國北軍主力ノ右側及右側背
 ヲ掩護シ且成シ得レハ敵ノ隘路進出ニ乘シテ之ヲ擊破スルニ在ルモ過度ニ遠
 ク國境ヲ越ヘテ前進スルコトハ之ヲ禁セラル

軍團ノ最前方ニ位置セシ Mondel 旅團(二十六日 Prausnitz 附近ニ在リ)午前七時四
 十五分 Hohenbrück 南方高地ニ達ス此時旅團長ハ敵ノ一縱隊 Parschnitz ニ到着ス
 ヘキコトヲ知リ Hohenbrück 南方ニ開進シタル後砲兵一中隊ト歩兵一大隊トヲ
 同地ニ殘留シテ Trautenau ニ前進スルニ決シ午前九時十五分第一線ヲ以テ同地
 南方諸高地ヲ占領ス尋テ普軍縱隊ノ先頭カ已ニ Trautenau ニ入りタル後之ニ對
 シテ急激ナル射撃ヲ加フ

四 茲ニ於テ普軍前衛ハ直ニ左側ニ展開シ前衛本隊ハ Trautenau 東方ニ於テ Anpa
 河ヲ渡リテ埃軍ノ右翼ヲ攻撃シ右側衛ハ Nieder Altstadt ヨリ戰場ニ急行セシ
 カ埃軍ノ陣地ハ正面堅固ニシテ攻撃容易ニ成功セス

TRAUTENAU 附近之圖



遭遇戦ノ研究

午前十一時奥國第十軍團長戰場ニ到着ス此時奥軍旅團長 Mondel 大佐ハ Trautenau ニ向ヒ攻撃前進セントセシモ軍團長ハ其危殆ヲ戒メテ之ヲ Neu Rognitz 附近ニ後退セシメ普軍ハ正午頃全ク Trautenau 南方諸高地ヲ占領シ其一部ハ退却スル奥軍ヲ追撃シテ Hohenbrück 北方ニ前進セシカ他ノ部隊ニ於テ吹奏セル集合號音ヲ誤解シテ再ヒ Trautenau ニ集合セリ

五 其後 Neu Rognitz 附近ニ於テ奥國第十軍團ニ屬スル新銳ナル部隊ト普軍主トシテ第二師團ノ主力トノ間ニ激戦ヲ生シ夕刻ニ到ルモ勝敗決セサリシカ普軍遂ニ敗レテ前夜ノ宿營地ニ向テ潰走セリ

六 教訓

(イ) Mondel 旅團カ Hohenbrück 南方ニ於テ一旦開進セシハ適當ナラス此際旅團ハ Trautenau 附近ノ要點ヲ占メ軍團爾後ノ行動ヲ有利ナラシムルニ決シ遭遇戦ノ要領ニ從ヒ分進シテ速ニ Trautenau 東南高地線ヲ占領シテ軍團主力ノ來著ヲ俟タサルヘカラス普國軍團ノ停止セシハ旅團ノ爲真ノ僥倖ニシテ之ヲ胸算シ得ヘキニアラサレハナリ

(ロ) 午前十一時奥國第十軍團長カ Mondel 旅團ノ許ニ先行セシハ至當ナルモ之ヲ退却セシメタルハ同意シ難シ蓋シ此場合ノ退却ハ普軍ノ動作ニシテ適當ナランカ潰滅ニ陥ルニ到ルヘキヲ以テナリ(前述 Hohenbrück 附近ニ於ケル普國第十二軍團ノ前衛參照故ニ此場合ニ於テハ寧ろ到著スル後續部隊ヲ逐次此防禦戦闘ニ加入セシムルヲ可トス(後ニ述フル Nachod ノ戦闘參照)

(ハ) 普軍失敗ノ原因ハ多々アルモ不統一ナル戦闘ヲ實行セシコトハ其主ナルモノナリ

戦況急ヲ要スト雖不統一ナル攻撃ハ勉メテ之ヲ避ケサルヘカラス

(ニ) 本戦闘ハ遭遇戦ニ於テ前衛ヲ後退セシメタル一例トス如此敵ニ對シ隊伍混亂セル儘不統一ナル攻撃ヲ行フハ甚危険ナリ

前述長久手附近ノ戦闘ニ於ケル徳川軍先遣支隊ノ失敗モ亦之ト軌ヲ一ニス

千八百六十六年六月二十七日 Nachod ノ戦闘

一 前述 Trautenau 附近ノ戦闘ト同日即チ六月二十七日普第二軍ノ左縦隊タル

Von Steinmetz ノ指揮スル第五軍團モ亦 Nachod 附近ニ於テ交戦セリニ全般シノ状況ハ本卷第一三三頁一般圖参照

第五軍團ハ二十六日主力ヲ以テ Reinerz 及 Ruokeritz 附近ニ露營シ其前衛本隊ハ Lewin 附近ニ前兵ハ Gellenau 附近ニ達シ奥軍第六軍團ハ Opotschno 附近ニ他ノ縦隊ハ Skalitz 附近ニ又若干ノ部隊ハ Nachod 附近 Mettau 河畔ニ在ルコトヲ知ル又普第五軍團ハ翌二十七日 Nachod 附近ニ前進スヘキ命ヲ受ケアリ
同軍團ノ前衛司令官ハ二十七日確實ニ隘路口ヲ占領センカ爲二十六日午後更ニ Nachod 附近ニ前進スルニ決ス乃チ大ナル敵ノ抵抗ナク前兵ハ Nachod ニ前衛本隊ハ Schlaney ヲ占領セリ

前衛ハ元來本隊ヲ距ル七吉ナリシカ今ヤ此前進ノ爲其距離ハ二倍シ前兵ハ更ニ其前方四吉ニ在リ故ニ此前衛ニシテ戦闘ヲ開始セシカ數時間後ニアラサレハ本隊ノ援助ヲ受ルヲ得サルノ状況ニ在リ

二 奥國第六軍團(長 Ramming)ノ二十七日ノ爲受ケタル軍命令ノ要旨左ノ如シ
二十七日午前三時出發 Opotschno ヨリ Skalitz ニ到リテ陣地ヲ占領シ其前衛

NACHOD 附近 戦闘 圖

1866—27/6



ヲ Nachod 方面ニ出ス

此部署ハ軍主力ノ Josefstadt, Miletin 附近ニ於ケル開進ノ爲其右側背ヲ掩護スルヲ主眼トスルモ敵ノ前進ニ際シテハ全力ヲ擧ケテ之ヲ攻撃スヘシ但シ國境ヲ越ヘテ遠ク前進スヘカラス

三

二十七日朝普軍ハ前衛ノ内騎兵各一中隊ヲ以テ Skalitz 及 Neustadt 方向ヲ搜索セシメ其支援トシテ Skalitz 方向ニ歩兵二中隊獵兵一中隊半ヲ、Neustadt 方向ニ獵兵半中隊ヲ派遣セントシ歩兵一大隊及砲兵一中隊ハ Wysokow, Altstadt 間ニ前衛ノ殘餘(歩兵四大隊半砲兵一中隊ヲ主トス)ハ Altstadt 西端ニ在リ

午前八時過有力ナル敵兵 Neustadt 方向ヨリ Schonow 方向ニ前進スルヲ知リ Altstadt 西方ニ在リシ歩兵一大隊及砲兵一中隊並獵兵半中隊ハ直ニ Wenzelsberg 方向ニ前進セシカ同地ニ於テ奥國軍團ノ先頭タル Hertweck 旅團ノ先頭ニ衝突シ茲ニ展開シテ交戦ス

奥軍ハ數ニ於テ優勢ナルモ其戰闘法拙劣ナルカ爲普軍前兵ヲ擊退スルニ到ラス其後普軍前衛本隊ノ戰闘ニ加入スルヤ Hertweck 旅團ハ遂ニ擊退セラル然ルヲ得タリ

ニ午前十時以後ニ於テハ奥軍側ニハ更ニ新銳ナル二個旅團ノ戰闘ニ加入スルアリ普軍前衛大ニ苦戦ニ陥リシモ大體ニ於テ戰闘ヲ支持ス蓋シ奥軍ハ全然不統一ニシテ各個ノ不成功ナル攻撃ヲ繰返スニ過キサリシヲ以テナリ
正午以後普軍ノ本隊ハ逐次戰闘ニ加入シテ遂ニ奥軍ヲ Skalitz 方向ニ擊退スルヲ得タリ

四 教訓

(イ) 普軍前衛カ其本隊ト遠ク離隔シアリシコトハ恰モ Trautenau ニ於ケル Morndel 旅團ト軍團主力トノ關係ノ如シ然ルニ前衛司令官以下能ク其任務ヲ了解シ奮闘ノ結果軍團主力ノ山地進出掩護ノ任務ヲ遂行スルヲ得タリ
如此狀況ハ既ニ研究セシ如ク遠ク孤立セル前衛ヲシテ飽迄其位置ヲ保持セシムヘキ場合ノ一例ナリ

(ロ) 奥軍ニ於テハ極力當面ノ敵ヲ擊破シテ隘路出口ノ要點即チ Nachod 西方及 Altstadt ノ南方高地等ヲ領有スルヲ必要トセシモ策ノ茲ニ出テサリシハ遺憾ナリ

其他埃軍ニ關シテハ指揮及戰鬥法ノ拙劣ナル點多キモ之ヲ略シ諸官他日ノ研究ニ讓ル

退却指揮之研究

想定

所要地圖

二十萬分一
二萬分一

新庄、仙臺、山形近傍ノ内、湯澤、楳岡、東根、谷地、山口、天童

- 一 敵ヲ擊攘スヘキ任務ヲ有スル藍軍主力(二師團ヲ主幹トス)ハ涌谷方向ヨリ古川ヲ經テ前進シ二月二十五日以來鍛冶谷澤附近ニ左ル略同等ノ敵ヲ攻撃中ナリ
- 二 敵ノ側背ヲ脅威シ藍軍主力ノ作戰ヲ容易ナラシムヘキ任務ヲ以テ仙臺ヨリ作並ヲ經テ前進シタル藍軍A支隊(長少將某、步兵第一旅團、騎兵第一中隊、野砲兵第一大隊^{第三中隊}、山砲兵第一中隊、工兵第一中隊、衛生隊半部、第一野戰病院、第一歩兵彈藥縱列、第一砲兵彈藥縱列、第一糧食縱列)ハ二月二十六日早朝ヨ

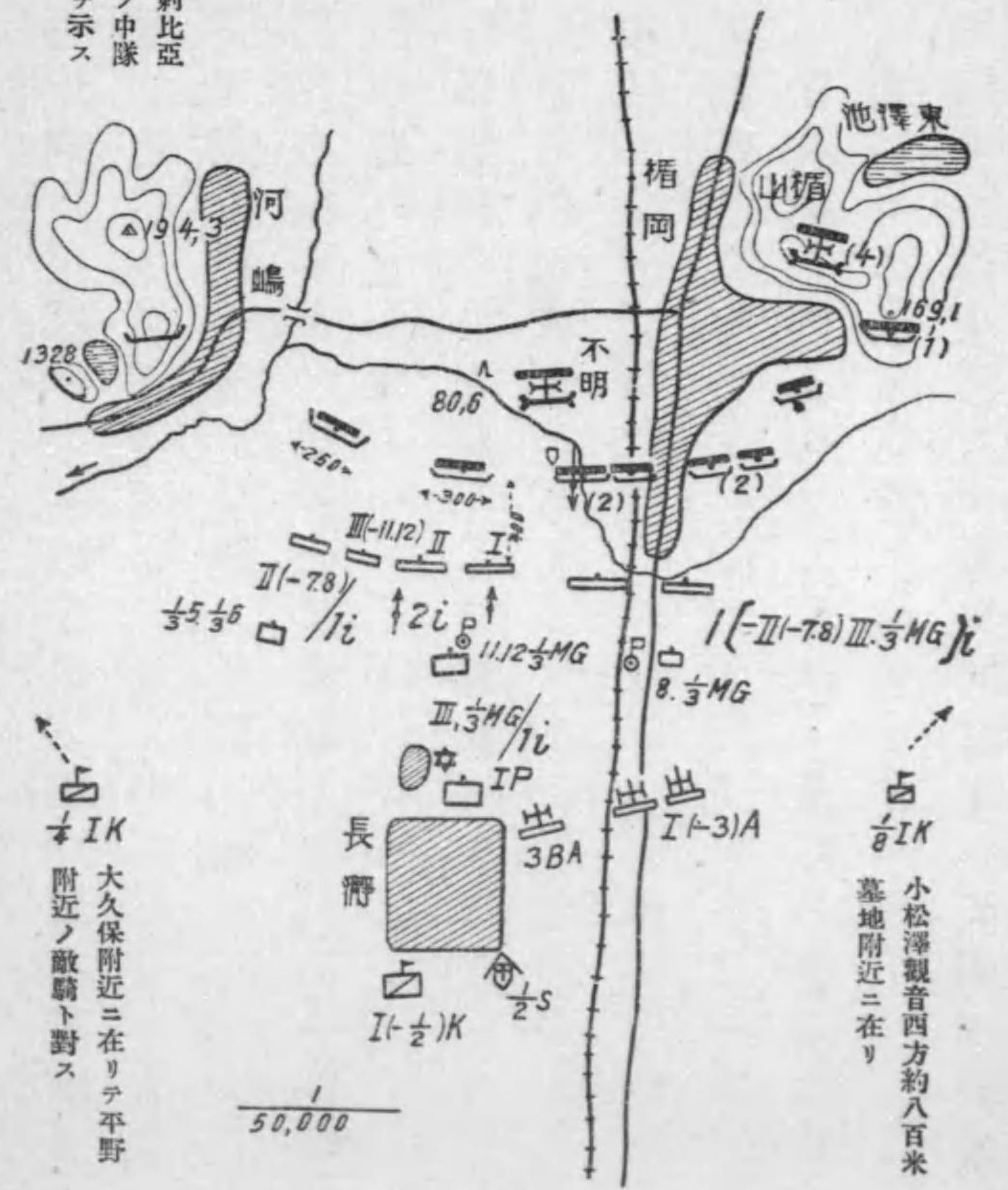
リ楯岡附近ニ陣地ヲ占領セル歩兵約四大隊、砲約八門ヲ有スル敵ヲ攻撃中ニシテ午前十時ニ於ケル戦況概ネ左ノ如シ(要圖參照)

敵ハ楯岡東北側高地ヨリ河嶋西側高地ニ亘リ陣地ヲ占領シアリ楯岡東北側高地(109.2)ニ歩兵一中隊、楯岡南部東西兩側ニ各歩兵二中隊アリ楯岡河嶋間乾田中ニ長約三百米及約二百五十米ノ散兵壕各一アリ其守兵ハ詳ナラサルモ敵ノ主力ナルコト疑ナシ河嶋西側高地ノ散兵壕ニハ監視兵ヲシキモノヲ見ルノミニシテ敵部隊ヲ見ス楯山東南側ニ砲四門アリ又楯岡西側乾田中ニ兵力不明ノ砲兵アリ之ニ對シ支隊ハ一部歩兵第一聯隊ノ半部ヲ以テ楯岡附近ニ向ヒ、主力歩兵第二聯隊及歩兵第一聯隊ノ二中隊ヲ以テ

楯岡、河嶋中間ノ地區ニ向ヒ攻撃シ其第一線ハ敵線ヲ距ル四、五百米ニ近接シ目下力攻中ナリ
騎兵、砲兵、工兵及衛生隊ノ位置ハ要圖ノ如シ
野戰病院及歩兵彈藥半縱列砲兵彈藥半縱列ハ先進輜重トシテ東根南端附近ニ在リ
大行李ハ西道附近ヲ先頭トシテ停止シアリ
殘餘ノ輜重ハ關山附近ニ停止シアリ
三 此時支隊長ハ長瀨北端附近ニ在リテ騎兵將校斥候ヨリ左ノ要旨ノ電話報告ヲ受領ス
歩兵約三千砲約八門ヲ有スル敵ノ一縱隊ハ午前九時尾花澤南端ヲ通過シテ羽州街道ヲ南進セリ
又兵力不明ナル諸兵連合ノ敵ノ一縱隊ハ大石田(同地附近

考 備
括弧内ノ亞刺比亞
數字ハ步兵ノ中隊
數若ハ砲數ヲ示ス

圖要備配擊攻隊支 A
時十前午日六十二月二



ニ於テ最上川ニ永久橋アリヲ通過シ最上川左岸ニ前進セ
リ
注意
一般ノ注意ハ前想定ニ同シ

第一問題 (席上)

午前十時ニ於ケル支隊長ノ決心

第一問題答解上ノ著眼

羽州街道ヲ南下スル敵兵ハ正午過ニハ楯岡附近ニ到着シ得ヘシ然レトモ之ヲ合
スルモ支隊當面ノ敵ハ支隊ニ比シ步兵一大隊砲四門ノ優勢ナルノミニシテ未タ
敢テ攻撃ヲ斷念スルヲ要セス又最上川左岸ノ敵兵ハ將來ハ支隊ノ側背ニ出ツヘ
ク稍、憂慮スヘキモノナキニアラサルモ幸ニ最上川ノ障碍アリテ該敵ノ行動ヲ掣

肘スルカ故ニ未タ支隊ハ不安ノ状態ニ陥リタルモノト認ムルヲ得ス支隊ニシテ此等ノ敵ノ到着ニ先チ前面ノ敵ヲ撃破シ得タランニハ敵ノ全般ノ企圖ヲ挫折スルヲ得ヘシ而シテ此等ノ敵ノ到着迄ニハ尙約二時間ヲ有スルヲ以テ支隊ハ此際極力前面ノ敵ヲ攻撃スルヲ要ス

第一問題原案

決心

支隊ハ攻撃ヲ續行セントス

状況

支隊長ハ前決心ニ基キ騎兵中隊ノ主力ヲ谷地ヲ經テ最上川左岸ニ行動セシメ諸隊ハ依然敵陣地ノ攻撃ヲ繼續セシメタルモ戦況意ノ如ク發展セス

午前十時三十分支隊長ハ將校斥候ヨリ左ノ要旨ノ電話報告ヲ受領ス

大石田ヨリ最上川左岸ニ前進シタル敵ハ歩兵約二千砲約四門ヲ有スルモノニシテ大石田—白鳥—谷地道ヲ南進中ナリ

同時支隊長ハ軍司令官ヨリ午前九時發左ノ要旨ノ電報訓令ヲ受領ス

- 一 軍前面ノ敵ハ著シク其兵力ヲ増加セリ
- 二 軍ハ即刻ヨリ古川附近鳴瀨川河谷ニ退却シ爾後ノ作戦ヲ準備セントス
- 三 其支隊ハ當面ノ狀況之ヲ要スレハ一時決戦ヲ避クル

ヲ要ス

第二問題 (席上)

午前十時三十分ニ於ケルA支隊長ノ決心

第二問題答解上ノ著眼

支隊前面ニ於ケル二敵ノ近接ニ伴フ危険ト軍ノ退却及銀山峠道ヲ顧慮スルノ必要ナキニ至リタル關係上支隊ハ最早當面ノ敵ト強テ決戦ヲ求ムルノ必要ナキニ至レリ却テ一時決戦ヲ避ケ支隊ノ保全ヲ圖ルヲ以テ軍司令官ノ意圖ニ合スルモノト謂フヘシ之カ爲ニモ前面ノ敵ヲ擊退シテ然ル後ニ退却スルヲ可トスルカ如キモ已ニ時間ノ少キヲ如何セン而シテ又支隊ハ南方ニ退却スルヲ容易トスルカ如キモ此際南方へ退却スル爲ニハ軍ノ側背掩護ノ爲關山峠附近以南ノ各山頸ヲ扼止セサルヘカラス然ルニ此事タル支隊ノ兵力ヲ以テハ企圖シ得ヘキニアラサルカ故ニ寧ロ關山方向ニ退却シ直接軍ノ側面ヲ掩護スルヲ適當トセン

第二問題原案

決心

支隊ハ即刻ヨリ關山峠ニ向ヒ退却セントス

第三問題 (宿題)

退却ノ爲支隊ノ部署(要圖答解)

但シ各部隊收容隊ノ部署ヨリ後衛ヲ編組スル迄ノ行動ヲ圖示スルヲ要ス

第三問題答解ニ對スル總評

- 一 大行李輜重ノ退却
- 全員皆此等係累物ヲ速ニ後方ニ退却セシメント著意シタルハ頗ル同意ナルモ
- 支隊ノ關山峠ニ退却セントスルニ方リ之ヲ西道附近ノ隘路口ニ停滯セシメ又

退却指揮之研究

ハ關山ノ峠上ニ位置セシメタル如キハ不可ナリ

二 地區ノ配當

退却ノ爲適宜地區ノ配當特ニ道路網ノ關係ヲ顧慮シテ之ヲ決定セサルハ不可ナリ而シテ地區ノ配當ノ緊要ナルコトニ著意シテ作業シアルニ拘ラス大森山西北方西原附近ノ狹窄部ヲ兩分シテ兩聯隊ニ與ヘタルカ如キ作業アルハ甚遺憾ナリ

三 行進目標

行進目標ヲ明確ニ註記シアラサルハ不可ナリ殊ニ此行進目標ヲ第二次收容隊又ハ後衛陣地ノ前方ニ定メタルカ如キハ殆ント其意ヲ解スルニ苦シム又行進目標ト退却目標トヲ混同セル爲此等ノ區處適當ナラサルモノアリ(行進目標及退却目標ニ關シテハ後ニ更ニ示ス所アラントス)

四 第一線ノ退却開始時機及順序

退却開始ノ時機及退却順序ヲ註記シ置カサルハ不可ナリ又第一線ニ掩護隊ヲ殘置スルモノアルモ本狀況ニ於テ其必要ヲ認メス又第一線ヲ某一翼側ヨリ逐

次退却セシメタルモノアルモ之亦本狀況ニ合セス

五 全隊ノ爲ノ收容陣地及配當

諸官ノ大部ノ如ク第一次收容陣地ヲ宮崎附近第二次收容陣地ヲ大森山附近ト爲スハ予ノ同意スル所ナリ
第一次收容陣地ヲ東根附近ニ選定シタルハ適當ナラス是長瀨南方地區即チ支隊主力ノ退却ヲ收容シ得サルヲ以テナリ此收容隊ノ配當ニ於テ著シク正面ヲ擴張シ東根附近ヨリ宮崎ヲ經テ長瀨南方白水川ニ亘リ配置シタルモノアルモ如斯スルトキハ指揮全ク行ハレサルノミナラス退却部隊ヲ妨害スルニ至ルヘシ故ニ此附近ニ於テハ宮崎北端附近ニ主力ヲ配當スルヲ可トス又砲兵ノ全部ヲ常ニ收容隊ニ附シタルモノアルモ之ハ主客轉倒ナリ
第二次收容陣地ノ占領ニ方リ大森山西北方ノ隘路口ヲ閉塞シタルモノアルハ不同意ナリ宜シク西原西北方高地ト大森山トヲ占領シ中間ハ退却部隊ノ爲開放シ置カサルヘカラス尙大森山南方地區ニ於テ中島新田若木山又ハ大森山南方約三吉川原子附近ニ注意セサルハ不適當ナリ

六 各隊收容隊

各隊收容隊ヲ數次ニ設ケタルモノト之ヲ設ケサルモノトアリ此等ハ共ニ適當ナラス又右聯隊ノ收容隊タル第八中隊ト機關銃一小隊トヲ本道附近ニ配置シタルハ適當ナラス宜シク側方適當ノ地ニ配置スルコト操典ニ示ス如クナルヘシ左聯隊ニ在リテハ全ク其趣ヲ異ニシ之ヲ中央後ニ配置スルノ已ムナキモノアルヘシ

最左翼大隊ノ爲ニハ之ヲ設ケタルヤ否ヤ熟慮スルヲ要ス而シテ之ヲ設ケトセハ其位置ハ初ヨリ岡島附近ヲ適當トス

七 軍隊指揮官ノ先行及其區處

軍隊指揮官カ第一線ノ退却ヲ確認セル後適宜何地ニ先行シ何事ヲ區處スルヤヲ註記セサルハ不可ナリ此事ナケレハ退却部署ハ佛ヲ造リテ魂ヲ入レサルト等シク遺憾甚シ

八 最後ノ收容隊ト後衛

最後ノ收容隊直ニ後衛トナルトキハ甚便ナリトハ操典ノ示ス所ニシテ爲シ得

ヘクンハ之ニ努力スルヲ要ス故ニ最後ノ收容隊ハ通常後衛トナルモノナリ然レトモ收容隊ト後衛トハ任務ヲ異ニシ從テ兵力編組ヲ異ニスルヲ以テ最後ノ收容隊ニ適宜取捨ヲ加ヘ之ヲ編成スルモノナルコトヲ忘ルヘカラス

九 行軍縱隊ノ編成

最後ノ收容隊ニ掩護セラレツツ逐次行軍縱隊ヲ編成シ眞ノ退却目標ニ向ヒ退却行ヲナス要領ヲ全ク解セサルヤノ觀アルハ頗ル遺憾ナリ又縱隊ヲ編成スルニハ必ス一地ニ全部ヲ集合セシムル如ク考フルハ不可ナリ

第三問題答解上ノ著眼

(一) 後方地區ノ開放

戰場ノ後方ニハ戰列部隊以外ノ諸機關アリテ退路ヲ閉塞スルノ虞アルヲ以テ第一ニ後方係累物ヲ退却セシメ退却地區ヲ開放スルモノトス之カ爲左ノ如ク區處スルヲ要ス

(1) 輜重ハ熊ヶ根仙臺西方約三里半ニ向ヒ退却

但衛生隊ハ患者ノ處置ヲ終リ輜重ニ合ス

(2) 大行李ハ作並(仙臺西方約五里)ニ向ヒ退却

(附言) 一 輜重特ニ衛生機關ノ運用及戰場掃除等ノ件ハ後日之ヲ研究スル機會アルヘシ

二 先進輜重ニ關スル單簡ナル説明

戦闘ヲ開始セントスルトキハ直接戦闘ニ必要ナル若干ノ輜重ヲ前方ニ招致ス之ヲ先進輜重ト稱ス(要務令第三一五)ルコトハ諸官ノ熟知スル所ナリ而シテ直接戦闘ニ必要ナルトハ戦闘開始ヨリ若干時ノ後必要ヲ生スルモノニシテ之ヲ後方輜重第一梯隊ノ位置ヨリ招致シテハ時機ニ合セサルモノニシテ通常野戰病院、歩砲兵彈藥ノ各一部ナリ衛生隊ハ尙之ヨリモ早ク必要ナルヲ以テ諸官ノ知ル如ク尙前方ニ行進セシム
先進輜重ハ戦闘ヲ豫期スル當日ノ出發時ヨリ之ヲ設クルコトアリ然ラサレハ戦闘開始ニ決シ輜重ヲ停止セシムルトキ之ヲ招致

スルコトアリ

先進輜重ハ先任縦列長ノ指揮ニ屬シ師團長ニ直屬ス故ニ其必要ナキニ到レハ師團長ノ命令單位ヲ減スル爲之ヲ輜重兵大隊長ノ指揮下ニ復セシムルヲ可トス
師團現在ノ狀況ニ於テハ最早先進輜重ヲ必要トセサルカ故ニ此區分ヲ廢止スルヲ可トス

(二)

數縱隊トナリ併進スヘキ處置(區分及地區ノ配當)

支隊目下ノ狀況ハ概ネ三區分ヲ以テ交戰中ナリ故ニ此區分ニ基キ地區ヲ配當シ併進退却セシムルヲ可トス
之カ爲ニハ目下ノ戰況、地形並支隊本來ノ退却方向及退却路ヲ顧慮シ左ノ如ク地區ヲ配當スルヲ可トス

(1) 歩兵第一聯隊半部欠

現在ノ左翼、宮崎附近泉川ノ鐵橋、大森山西南端及大森山以東ノ野川ヲ連ヌル線以東(北)ノ地區

(2) 歩兵第二聯隊

前記ノ線以西南ト現在ノ左翼蟹澤東端若木
山北端ヲ連ヌル線以東北ノ地區

(3) 歩兵第一聯隊第二大隊(半部欠)

前述ノ線以西南ノ地區但シ此部隊ハ小ナル
爲強テ地區ヲ示ス必要ナク歩兵第二聯隊ニ
連繫シテ退却セシムルモ不可ナリト認メス
本道

(4) 砲兵大隊

(三) 行進目標

A 支隊退却ノ爲指示スヘキ行進目標ハ戰場離脱後諸隊ヲ整理スル爲ノ地點ヲ
適當トスルハ退路ノ關係上異議ナカルヘシ

此目標ヲ一地ニ示スヘキヤ數地ニ示スヘキヤハ支隊長ノ企圖スル部隊集結ノ
腹案ニ關スト雖速ニ行軍縱隊ヲ編組シ得ル如クスルヲ適當トス而シテ大森山
附近ノ地形及敵ノ追撃状態ヲ顧慮シ予ハ左ノ如ク定メントス

(1) 歩兵第一聯隊(半部欠)

西道附近

(2) 砲兵

野砲ハ野川(村)山砲ハ西道附近

(3) 歩兵第二聯隊

太田新田附近

(4) 歩兵第一聯隊第二大隊(半部欠)

若木山附近

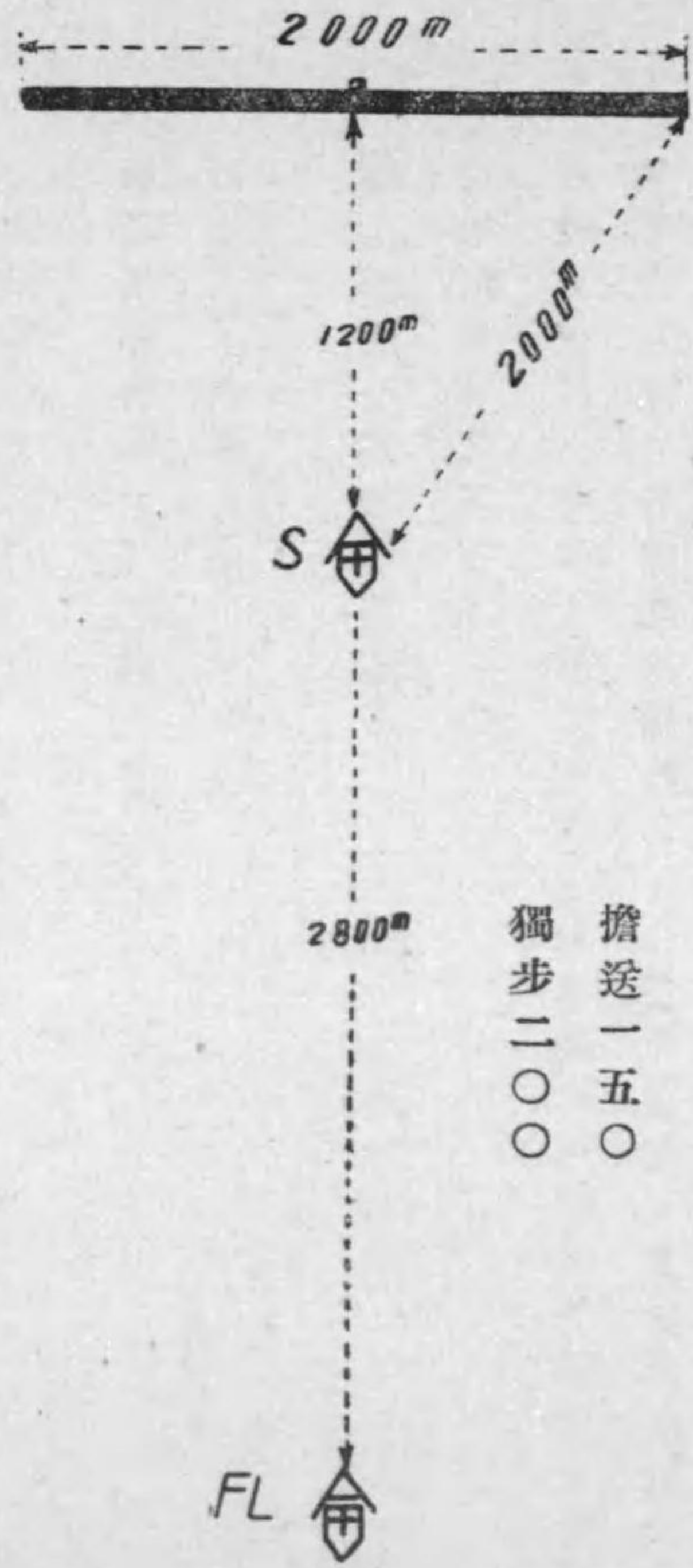
(四) 退却開始ノ時機及順序

支隊ノ退却ハ直接當面ノ敵ノ爲ニ餘儀ナクセラレタルニアラスシテ敵ノ増加
隊ノ接近ト本軍トノ關係ニ因ルモノナリ故ニ比較的時間ノ餘裕ヲ有ス然レト
モ敵ノ増加隊ノ先行砲兵ノ到着等ヲモ豫期シ此等ノ部隊カ戰場ニ到着セサル
以前ニ第一線ヲ撤退スルヲ要ス此間後方機關ノ退却状態ヲモ顧慮シ予ハ收容
隊確實ニ其陣地ヲ占領シ終リタル頃ヲ以テ第一線ヲ退却セシムルヲ適當ト認
ム

狀況斯ノ如クナルヲ以テ第一線諸隊ハ同時ニ退却セシムルヲ可トス東根及大
森山附近ニ於テ支隊ハ多少旋回運動ヲ要スルモ東方山地ノ掩護ヲ有シ且部隊
小ナルヲ以テ收容隊ニ信賴シ得ルモノト信ス

(附言)

一 平時演習ニ於ケル衛生隊執務時間ノ一例 近衛師團衛生隊
演習記事ニ據ル



擔送一五〇
獨步二〇〇

二 退却ニ於ケル行動ノ一例(同前)

偵察	三〇乃至六〇分
開設	三〇乃至六〇分 <small>多少ノ破壊等ヲ設備例ムハ</small>
後送	一〇〇乃至一五〇分 <small>左記ノ状態ニ對シテ</small>
戰鬥正面	二〇〇〇米
戰線ト綑帶所トノ距離	一〇〇〇米
綑帶所ト野戰病院トノ距離	一〇〇〇米
傷者數	二五〇—三〇〇
擔送者	一五〇—二〇〇
獨步者	一〇〇
所要時間	一〇〇—一五〇分
閉鎖	一分弱
閉鎖	約三〇分

退却命令受領 午前九時〇分
 第一半部閉鎖 同 九時十五分
 全部收容後送結了 同 十一時〇分
 第二半部閉鎖 同 十一時二十分
 野戰病院ノ傷者ヲ補助シ發進シ得タル時刻 午後零時三十分

運搬材料ハ全部ヲ使用シ午前十時三十分迄各半部ヲ以テ前後送チナシ其後ハ全部ヲ以テ後送ス

重傷七〇名ヲ補助乘車セシム

衛生機關全部戰場發進迄 二一〇(三時間半)

三 衛生隊演習負傷計畫ノ一例

最近戰役ノ統計ト將來ノ戰況ニ鑑ミ最悲惨ナル戰況ヲ假想シ其數ハ一時間遭遇戰約一五〇名陣地攻撃約二〇〇名ヲ選定シ其創別、部位別ノ比例ハ明治三十七八年戰役陸軍衛生史第三卷(第二冊)射創統計ヲ參考トシ別表ノ如ク計畫シ比較的實戰ニ近カラシメンコトヲ期セリ但シ演習ノ關係上獨歩者ト護送者トノ比例ハ特ニ一對一乃至二對一トナセリ

衛生隊演習負傷計畫%表

部位別	創別			計
	銃創	彈子創	破片創	
頭部	四、七	〇、七	四、三	九、七
顔面	三、九	〇、九	二、二	七、〇
頸部	一、六	〇、三	〇、二	二、一
胸部	二、三	一、七	一、二	一四、二
腹部及骨盤	七、八	一、二	〇、九	九、九
上肢	二〇、五	三、五	三、七	二七、七
下肢	二一、一	四、六	三、七	二九、四
計	七〇、九	一二、九	一六、二	一〇〇、〇

考 備
 一 演習上第一線ニ於テ即死者ナク全部ヲ收容シタルモノト假定シ死者ハ多ク所内ニ於テ之ヲ作レリ
 二 外ニ白兵創一、〇%爆創〇、四%ヲ作レリ

(五) 全隊ノ爲ノ收容陣地

全隊ノ爲ノ收容陣地ヲ選定スルニ方リ支隊長ハ退却開始ノ頃ニハ敵新銳ノ部隊到著シ其追撃ハ極メテ猛烈ナルヘク又支隊ノ退却ハ東根及大森山附近ニ於テ旋回運動ヲ要スルト戰線直後ノ地形開濶ニシテ速ニ收容ニ著手セサレハ敵火ニ擾亂セラルルノ虞アルコトヲ顧慮スルヲ要ス而シテ支隊ノ爲收容陣地トシテ選フヘキモノハ地形上宮崎附近大森山附近ノ二線アリ支隊ハ此際一個ノ收容陣地ヲ占領シ其部隊ヲ以テ直ニ後衛トナシ得レハ最モ妙ナルモ狀況ハ恐ラクハ之ヲ許ササルヘシ前方ノ線ハ戰線ニ近キモ開濶地ノ通過ヲ容易ナラシムル爲是非之ヲ占領スルヲ要スヘク後方ノ線ハ關山ノ隘路ニ退却スル爲行軍縱隊ノ整理上是非占領ヲ要スル地點ナリ故ニ予ハ此際支隊ノ爲ニハ二個ノ收容陣地ヲ占領スルノ已ムナキモノアリト信ス

第一次收容陣地

宮崎北端附近

第二次收容陣地

大森山附近

但シ第二次收容部隊ハ之ヲ後衛トナスヘキ希望ヲ有ス果シテ後衛トナシ得

(六)

ルヤ否ヤハ敵ノ追撃狀態ニ依ルヲ以テ之一ノ腹案タルニ過キス
全隊ノ爲ノ收容隊

第一次收容隊ハ先支隊長ノ豫備隊タル歩兵第一聯隊第三大隊同機關銃一小隊、工兵第一中隊(一小隊欠)ヲ派遣シ後野砲一中隊ヲ之ニ屬スルヲ適當トス是砲兵ハ一方ニ於テハ第一線ノ退却マテハ陣地ヲ撤退セシムルヲ希望セサルト(段刻ノ如キハ別物ナリ)他方ニ於テハ陣地撤退後迅速ニ收容隊ノ位置ニ到リ得ルヲ以テナリ又工兵中隊ノ主力ハ第一次收容陣地ノ占領ニ所要ナキニ到レハ直ニ先行退却セシムルモノトス

第二次收容部隊ハ退却地區ノ關係上歩兵第一聯隊長ノ指揮スル部隊ノ内ヨリ之ヲ任命シ且地形ノ關係上山砲兵中隊ヲ屬スルヲ可トス又最初ヨリ退却シ得ヘキ工兵中隊ノ内一小隊ヲ屬ス此工兵中隊ハ取敢ス大森山ニ向ヒ先行セシメ現地ニ於テ收容隊長ノ指揮ニ入ラシム尙此小隊ハ將來後衛ノ編組ニ際シ之ニ入ラシムル豫定

第二次收容ニ於テ尙注意ヲ要スルハ歩兵第一聯隊第二大隊長ノ指揮スル部隊

ヲ如何ニスルヤニ在リ此部隊ハ先若木山ニ向ヒ退却シ來ルヲ以テ同山ノ地形ニ鑑ミ一部隊ヲ以テ之ヲ占領セシムルトキハ我收容上頗ル便ナリ然レトモ此地點ハ著シク突出シアルヲ以テ或ハ長ク維持シ難キヤモ測ラレス最上川左岸谷地方面ヨリ敵ノ一縱隊前進スヘキ狀況ニ於テ殊ニ然リ故ニ此地點ト關聯シ同聯隊内ノ他ノ一部隊ヲ以テ横内附近ヲ占領セシメ大森山ト相待テ若木山部隊ノ收容準備ヲ爲サシムルヲ適當トス

以上ノ如クナルヲ以テ支隊ノ收容隊ハ左ノ如クナルヘシ
第一次收容隊 長歩兵少佐某、歩兵第一聯隊第三大隊、同機關銃一小隊、野砲兵第一中隊、工兵第一中隊（一小隊欠）、但シ工兵ハ作業終レハ速ニ退却セシム

第二次收容隊 右收容隊 長歩兵大佐某、歩兵第一聯隊第一大隊、同機關銃二小隊、山砲兵第三中隊、工兵一小隊
左收容隊 長歩兵少佐某、歩兵第一聯隊第二大隊（第七、第八中隊欠）

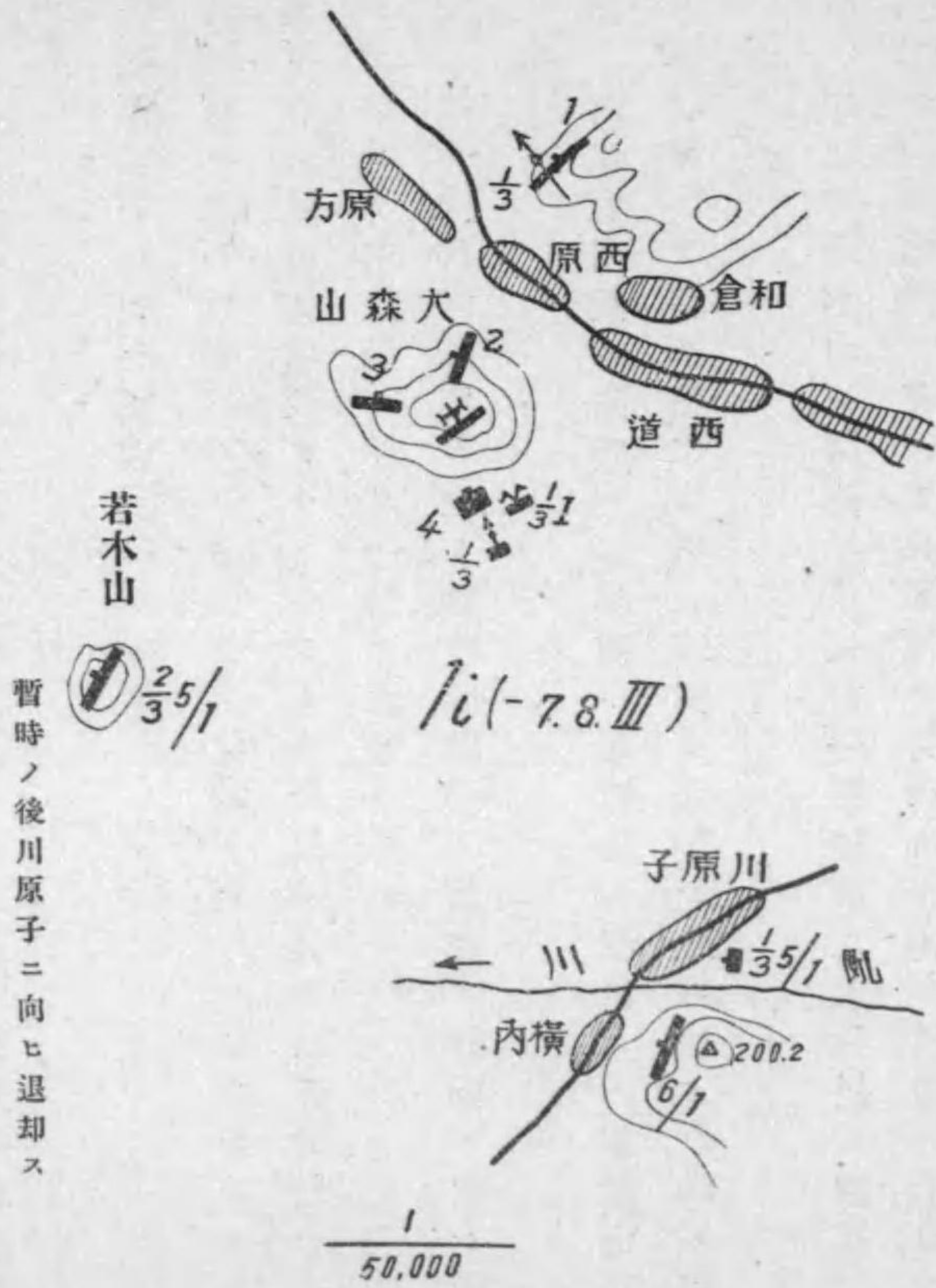
各收容隊ニ傳騎若干ヲ附屬シアルハ勿論ナリトス騎兵中隊ノ主力ハ漸次退却シ來ラハ終ニ後衛司令官ノ指揮ニ屬セラルヘシ

(七)

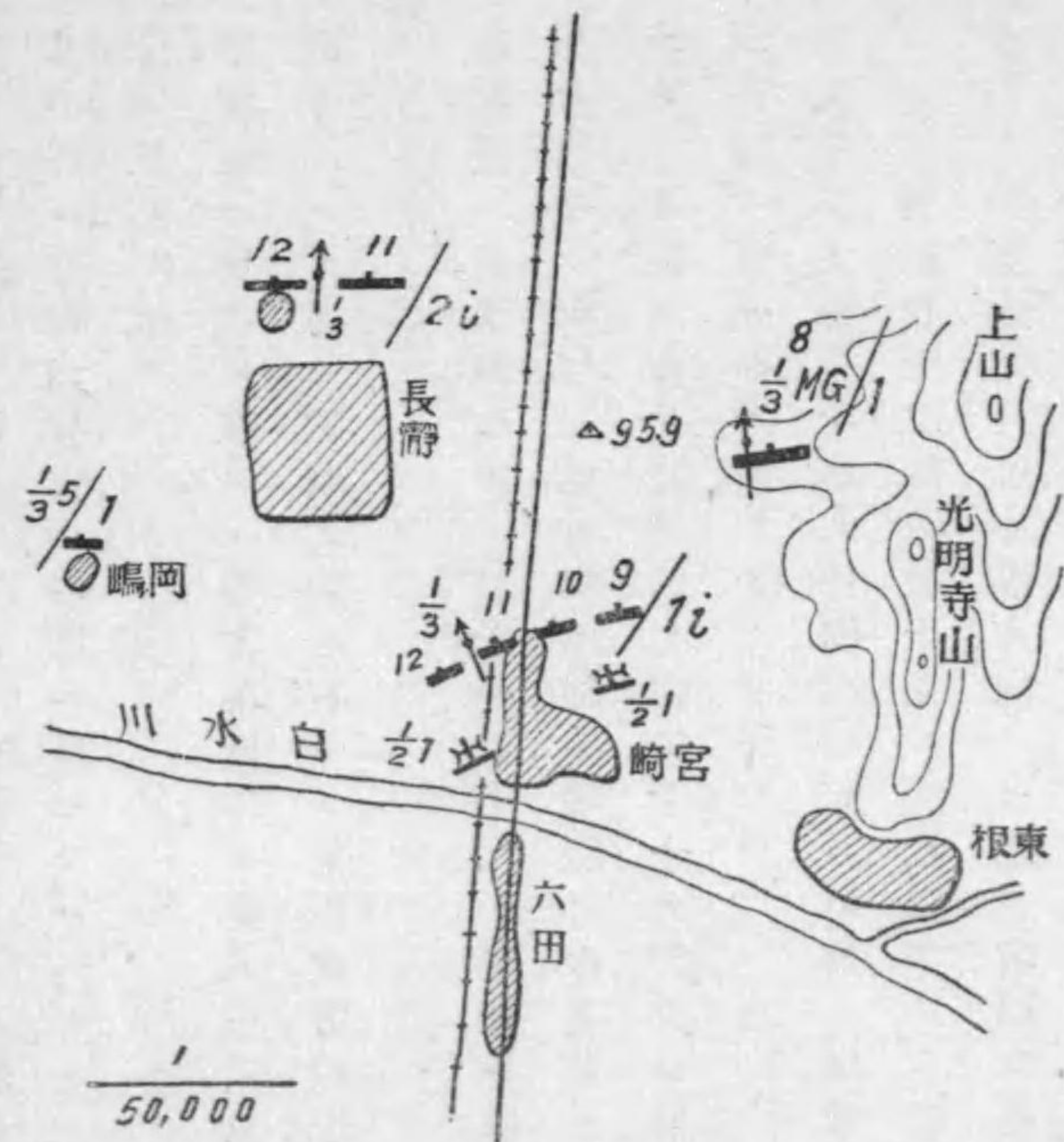
各隊收容隊及其陣地

歩兵第一聯隊長ハ自己ノ有スル後方部隊即チ第八中隊及機關銃一小隊ヲ以テ退却路ノ側方ニシテ而モ瞰制ノ利ヲ有スル東根北方約千五百米高地ノ西端附近ヲ占領セシムヘシ
歩兵第二聯隊長ハ其豫備隊タル第十一、第十二中隊及機關銃一小隊ヲ以テ長瀨北端附近ヲ占領セシムヘシ此收容陣地ハ戰線ノ中央後ナリト雖地形上實ニ已ヲ得サル次第ナリ故ニ歩兵操典第二部第七十九ニ「成シ得レハ退却路ノ側方」ヲ選フヲ可トスル旨ヲ教示スル所以ナリ
歩兵第一聯隊第二大隊（第七、第八中隊欠）ノ爲ニハ特ニ部隊收容隊ヲ要セサルヤモ測ラレス之歩兵操典第二部第七十九ニ於テ「要スレハ」云々トアル所以ナリ故ニ戰況ニ應シテハ横方向ニモ亦縱方向ニモ之ヲ省略シ得ルコトアリト知ルヘシ然レトモ最上川左岸部隊ノ河島附近ニ進出スル場合ヲ顧慮シ大隊長ハ第五

圖要備配隊容收次第二第



圖要備配 隊容收隊部 隊容收次第一第



中隊ノ一小隊ヲ以テ岡島附近ヲ占領セシムルモ可ナリ要ハ速ニ離脱ヲ企圖スヘキナリ

(八) 軍隊指揮官先行シテ區處スヘキ事項

軍隊指揮官ハ退却ニ關スル部署ヲ終リ退却ノ實行ニ就テ認メタル後ハ適宜ノ地ニ先行シテ爾後ノ處置ヲナスヘシトハ歩兵操典第二部第七十八ノ示ス所ナリ果シテ然ラハ本狀況ニ於テハ何ヲナスヘキヤ

(1) 第一次收容陣地ニ至リ該收容隊長ニ爾後ノ行動ニ關シ所要ノ指示ヲ與フ

(2) 大森山附近ニ先行シ歩兵第一聯隊長ノ指揮スル部隊、山砲兵及工兵小隊ノ來ルヲ待チ第二次右收容隊ヲ任命シ且爾後ノ行動ニ關スル意圖ヲ示ス

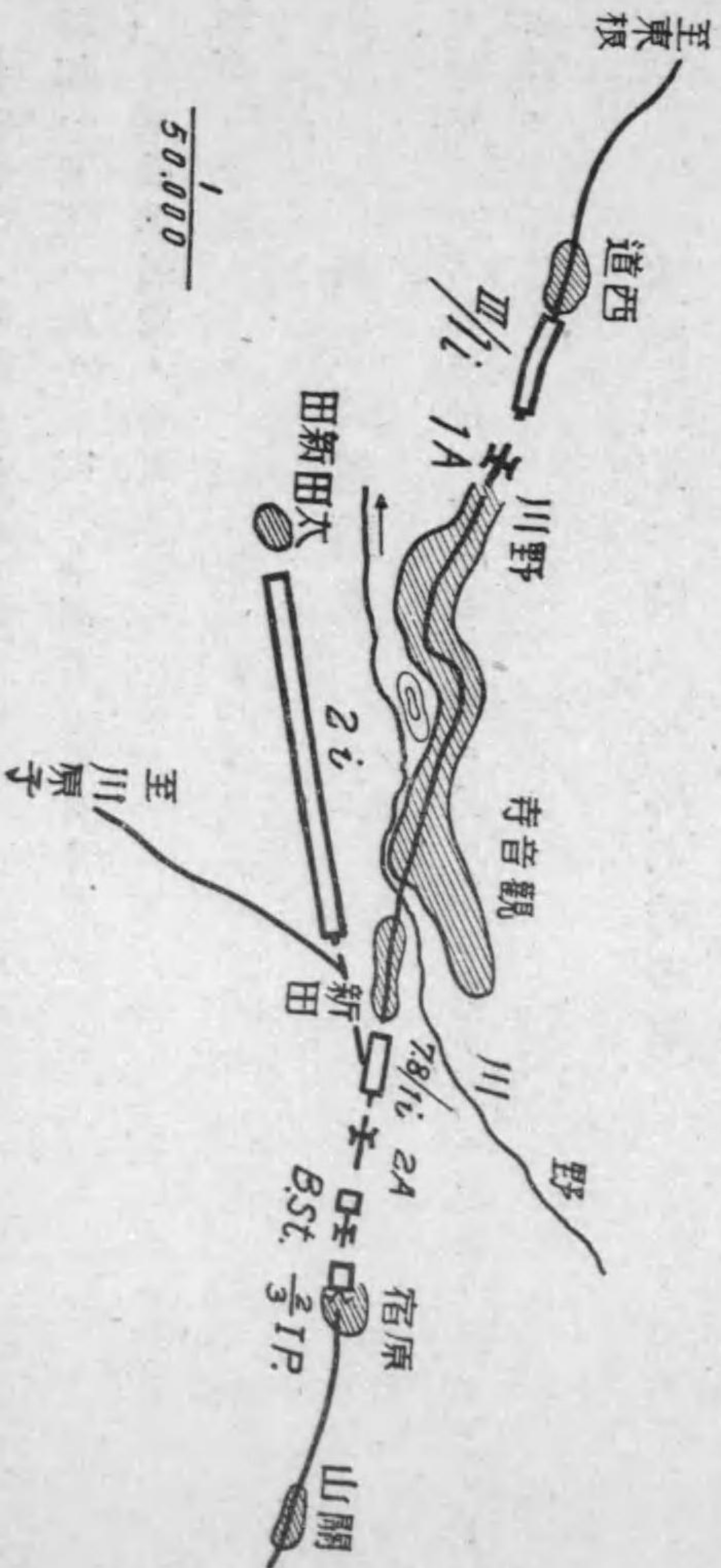
(3) 副官ヲ若木山ニ派遣シ歩兵第一聯隊長ノ指揮スル部隊第二大隊長ノ指揮スル部隊ニ第二次左收容隊ヲ任命シ且爾後ノ行動ニ關スル意圖ヲ示サシム

(4) 退却シ來ル諸隊ヲ遲滯ナク行軍縱隊ニ編成シ逐次關山方向ニ退却セ

シム

(5) 後チ歩兵第一聯隊長ニ第二次左右兩收容隊ヲ合セ指揮シ後衛タラシム

圖 要 成 編 隊 縱 軍 行



- (九) 各收容隊ノ配備及行動
詳細ハ圖上ニ就キ説明ス其概要ハ要圖參看
- (十) 行軍縱隊編成ノ要領
同右

第三問題原案

既ニ答解上ノ著眼ニ於テ述ヘシ事項ニ悉セルヲ以テ別ニ原案ヲ述フルコトハ之ヲ省略ス

晝間退却ニ關スル原則的説明

- (一) 退却指揮ノ要訣
退却指揮ノ要訣ハ交戰部隊ヲシテ損害ヲ被ムルコト少ナク速ニ戰場ヲ離脱シ行軍縱隊ヲ編組シ容易ニ敵ト離隔シ以テ爾後ノ作戰ヲ準備シ得セシムルニ在リ(步二ノ七八)

敵ト離隔シ爾後ノ作戰ヲ準備センニハ第一、我行動ヲ敵ニ秘匿スルコト第二、敵ノ前進ヲ阻止シ或ハ我退却ヲ收容スルコト第三、我行動ヲ掩護スルコト第四、兵力ヲ集結スルコト第五、退却目標ニ向テ安全ニ行進スルコトヲ必要トスルモノナリ非常ノ場合ニ際シテハ第二、阻止又ハ收容ニ代フルニ逆襲ヲ以テスルノ已ムナキコトアリ(步二ノ八一)

(二) 戰場離脱ノ爲願慮スヘキ事項

戰場ヲ離脱スル爲特ニ願慮スヘク事項ヲ示セハ左ノ如シ

(イ) 狀況

狀況ハ萬事ヲ決ストモ稱スヘク千變萬化ニシテ一々之ヲ解説シ難シト雖今二三ヲ例示シテ參考ニ資スレハ次ノ如シ

- (1) 戰鬪ノ種類即チ防禦ニ於テ敵ノ壓迫ニ堪ヘスシテ退却ヲ要スルヤ、攻撃ニ於テ敵ノ攻勢移轉ニ會シ其壓迫ニ堪ヘスシテ退却セントスルヤ、將又攻撃中他ノ關係ニ因リ戰鬪ヲ中止シテ退却スルモノナリヤヲ願慮スルヲ要ス又時トシテハ交戰ニ至ラスシテ退却スル場合モ之アリ此等ノ狀況ハ退

却實施ノ方法手段ノ選擇ニ關係ヲ有スルヤ勿論ナリトス

(2) 交戦兵種及交戦距離ノ戦闘離脱ニ關係ヲ及ホスハ特ニ解説ヲ要セサル
ヘシ

(3) 敵ノ壓迫状態詳言スレハ敵ノ壓迫ノ程度及其方向竝我退却方向ヲ考察
シ退却ノ時機順序方法ノ選擇ニ違算ナキヲ要ス

(4) 我後方部隊ノ有無ノ退却指揮ニ關係スルハ操典ノ明示スル所ナリ

(5) 敵軍ノ性情素質志氣ノ程度慣用戦法ニ應シ適宜區處スルヲ要ス
(ロ) 地形時刻天候

地形ハ陰匿抵抗壓迫ニ彼此利害ノ關係ヲ有シ時刻天候等ハ主トシテ明暗ノ度
ヲ異ニシ彼我ノ行動ニ難易ヲ生スルヲ以テナリ

(三) 退却指揮一般ノ要領

一般ノ要領ニ就テハ步兵操典第二部第七十八乃至第八十一ニ指示シアリテ之
カ解説ヲ要セサルカ如シト雖同條記載事項中諸官ノ迷ヒ易キモノニ就テ若干
ノ説明ヲ與ヘントス

高級指揮官退却指揮ノ爲考定スヘキ主ナル件左ノ如シ

- (1) 通路ノ開放 (衛生機關、大行李、諸輜重ノ退却)
- (2) 收容掩護 (收容隊又ハ掩護隊、收容陣地及其占領ノ時機)
- (3) 各隊ノ撤退 (行進目標、縱隊ノ併進部署、退却地區、道路及順序)
- (4) 部隊ノ集結 (集合地又ハ占領地、第二次行進目標、掩護方法)
- (5) 行進 (後衛ノ編組及要スレハ任務達成上特ニ指示スヘキ事項、縱隊行軍
序列、出發及行進)

以上ハ一般ニ考定スヘキ事項ヲ順序ニ列記シタルモノニシテ其内諸官ノ往々
誤解ヲ生シ易キモノハ行進目標ナリ

行進目標トハ嚴密ニ云ヘハ指揮官ノ企圖スル次期作戰ノ爲ノ退却目標換言ス
レハ退却ノ爲ノ終極ノ目標ト此退却目標ニ向ヒ行進セントスルニ方リ途中ニ
於テ適宜部隊ヲ集結スル爲ノ目標換言スレハ中間目標トノ二個ヲ含ムモノナ
リ而シテ狀況ニ依リ此兩目標ノ一致スルコトアリ即チ始ヨリ諸隊ヲ退却目標
ニ向ヒ退却セシメ此處ニ諸隊ヲ集結スルヲ適當トスルコトアリ例ヘハ退却後

近ク後方ニ陣地ヲ占領セントスルカ如キ場合之ナリ

今二個ノ目標相異ナル場合ニ就キ之ヲ考フルニ戰場離脱ノ當初ヨリ何レノ目標ヲ示スヲ適當トスルヤハ全ク狀況ニ關スト雖直ニ退却目標ニ向ヒ行進シ得ルヤ否ヤハ通常部隊ヲ集結シタル後ニアラサレハ確定シ難キヲ以テ多クハ部隊集結ノ爲ノ中間目標ヲ第一ノ行進目標トシテ指示スル場合多シ此行進目標モ必シモ一地ト限ルモノニアラス縱隊併行退却ノ特殊ニ然リ

縱隊併進退却ニ關シ步兵操典第二部第七十八第二項中「高級指揮官ハ成ルヘク數縱隊トナリテ併進スヘキ處置ヲ定メ云々」同條第二項ニハ「各縱隊ノ指揮官モ亦右ニ準シテ退却ヲ指揮スルモノトス」トアリ此件ニ關シ前述行進目標ノ解ト共ニ疑惑ヲ生スルモノ少ナカラサルヤニ聞クヲ以テ少シク説明スル處アラントス

抑退却ニハ種々ノ場合アリ操典ニ記スルカ如キ指揮法ニ依リ部署スヘキ退却ニモ様々ノ場合アリ之ヲ能ク翫味研究スレハ此等ノ解モ亦自ラ釋然タルモノアラン

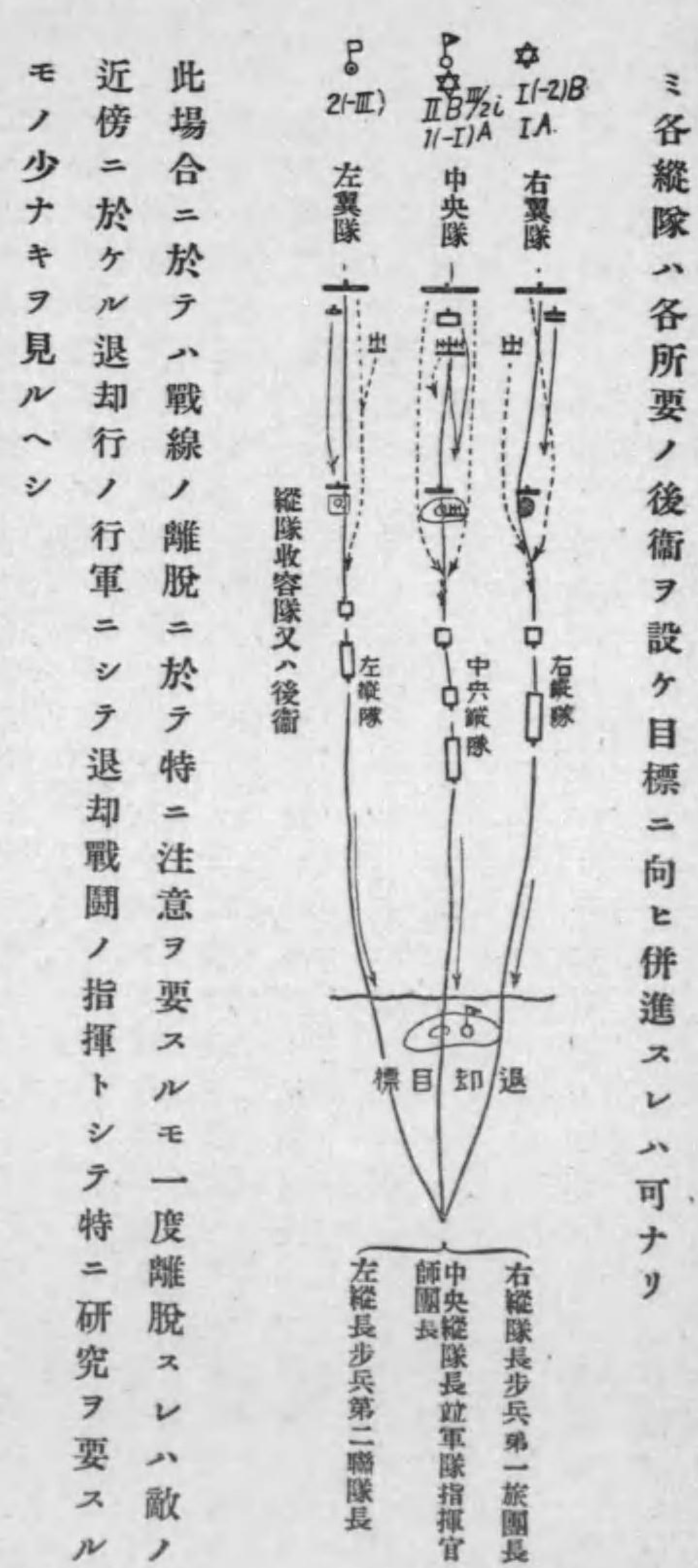
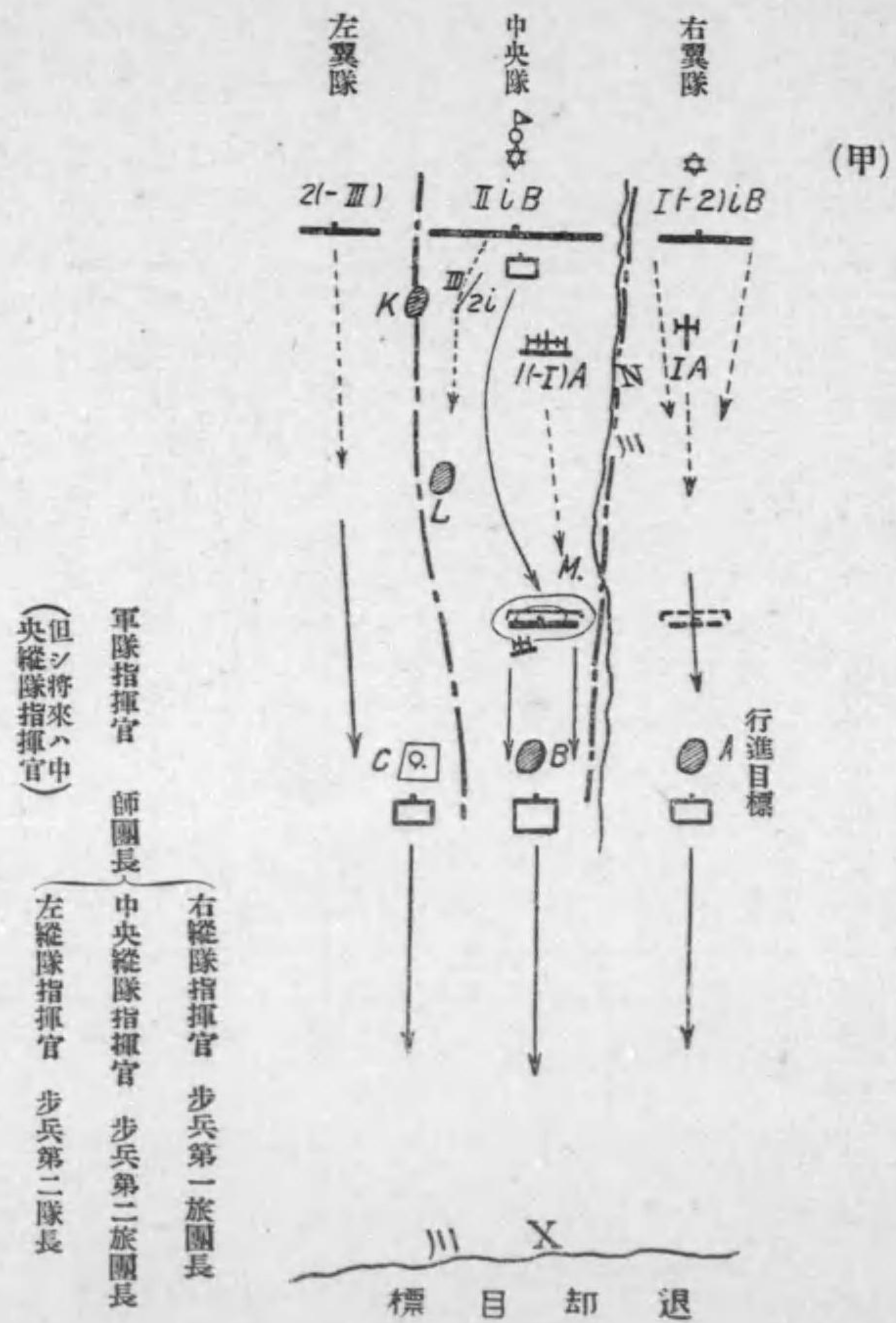
附記

退却目標ト退却行ノ行進目標トヲ平易ニ解釋スレハ次ノ如クナルヘシ
退却目標トハ從來敵ヨリ受ケタル拘束ヨリ脱逸シテ所望ノ新企圖ヲ採ラ
ンカ爲ニ到ラントスル地點ニシテ行進目標トハ其名稱ノ如ク單ニ行進ノ
爲ニ設ケタル目標ニシテ通常退却目標ニ到ル途中ニ於テ指揮ノ便宜上與
ヘラルル中間目標ニ適キス

故ニ軍隊指揮官ノ豫想不適當ナラサル限リ退却目標ニ到著スレハ茲ニ作
戰上一新生面ニ到達スルモノナレトモ行進目標ニ到著シタリトテ何等積
極的變化ヲ見ルコトナク單ニ消極的ニ戰術上ノ狀態ヲ改善シ得ルニ過キ
サルモノトス

(1) 軍隊既ニ戰鬪展開ヲナスモ未タ敵ト離隔シアリテ全ク隨意ニ退却シ得ル
場合

此場合ニ於テハ戰線ヲ離脱スル當初ヨリ狀況ニ應シ所要ノ縱隊ヲ區分シ退
却目標ヲ指示シ整々ト退却シ得ヘク縱令收容隊ヲ設クルモ萬一ニ備フルノ



ミ各縦隊ハ各所要ノ後衛ヲ設ケ目標ニ向ヒ併進スレハ可ナリ

(2) 中間地區ニ於テ各隊ヲ整理スル必要アル場合

此場合ニ於テハ戰線ノ離脱ニ於テ特ニ注意ヲ要スルモ一度離脱スレハ敵ノ近傍ニ於ケル退却行ノ行軍ニシテ退却戰團ノ指揮トシテ特ニ研究ヲ要スルモノ少ナキヲ見ルヘシ

(a) 收容ヲ可トスル場合

此場合ハ歩兵操典第二部第八十二指示スル如シト雖仔細ニ之ヲ研究スレハ更ニ二個ノ場合ヲ生スヘシ

(ロ) 後方部隊ヲ有セサル場合

此場合ハ前述ノ要領ヲ歩兵操典第二部第七十八及第七十九ノ教示ニ基キ實施スレハ可ナリ

(イ) 後方部隊ヲ有スル場合

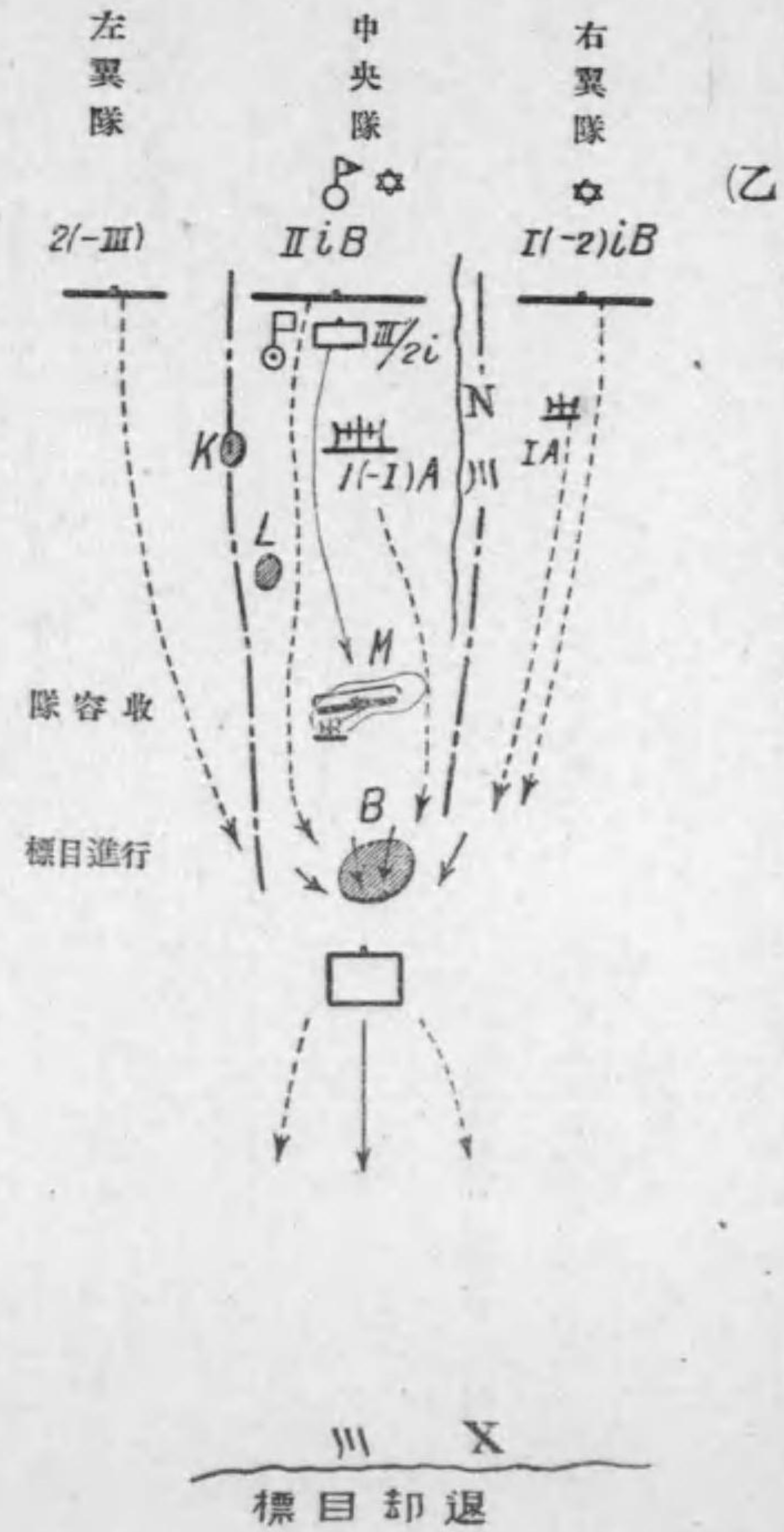
此場合ハ前述ノ要領ヲ歩兵操典第二部第七十八及第七十九ノ教示ニ基キ實施スレハ可ナリ

以上ハ一般ノ要領ヲ解説シタルモ其實施ニ當リテハ左ニ示ス如キ場合ニ於テハ著シク差異ヲ生スルヲ以テ若干其特點ヲ説明セントス

歩兵操典ハ主トシテ(2)ノ場合ニ就テ述フルモノナルコトハ操典ノ性質上之ヲ推知シ得ヘシ

右ノ外狀況及地形竝敵ノ壓迫狀態ノ如何ニ依リテハ種々様々ニシテ或者ハ作戰上ノ退却目標ニ向ヒ直行シ或者ハ中間目標ニ於テ整理ヲ要シ或者ハ先行シテ要地ヲ占ムル等枚擧スルニ暇ナキモノナリ

以上ハ一般ノ要領ヲ解説シタルモ其實施ニ當リテハ左ニ示ス如キ場合ニ於テハ著シク差異ヲ生スルヲ以テ若干其特點ヲ説明セントス



軍隊指揮官 師團長
 (但シ將來ノ縱隊指揮官)
 右地區指揮官 步兵第一旅團長
 中央地區指揮官 步兵第二旅團長
 左地區指揮官 步兵第二聯隊長

將來縱隊區分アラバ縱隊長トナルモノトス

後方部隊ヲ有セスシテ而モ當初ヨリ某部隊ヲ以テ收容セシムルヲ希望スルハ理論上無理ナル注文ナリ從テ此方法ハ敵ノ壓迫狀態地形及天候等ニ依リ特別ノ掩護ヲ受クルニアラサレハ實行困難ナリトス而シテ之ヲ實行センニハ收容隊ハ第一線中ヨリ抽出セサルヘカラス此際特ニ注意ヲ要スルハ收容部隊抽出ノ爲第一線ノ動搖瓦解ヲ生シ敵ニ乘セラルルコトナカラシメント是ナリ

(b) 第一線部隊ノ一部ヲシテ掩護ヲナサシムル場合

全隊已ニ敵ノ壓迫ニ堪ヘスシテ退却セントスルニ方リ第一線ニ一部ヲ殘置シテ退却ヲ掩護セシメントスルハ晝間頗ル困難ナリ然レトモ之無キニ優ルルコトアリ但シ此等ノ部隊ハ動モスレハ全ク犠牲トナルモノナルコトヲ覺悟セサルヘカラス從テ此場合モ亦地形其他特別ノ掩護ヲ有スル場合ニ適當スルモノナリ

(c) 全線同時ニ退却スル場合

敵ト適宜離隔スル迄歩兵ハ現在ノ隊形ヲ以テ正面ト直角ニ退却シ時機ヲ見テ指揮官ハ退却中ノ部隊ヲ以テ收容又ハ掩護ニ任シ其他ヲ集結スルモノナリ而シテ何レノ時機ニ之ヲ爲シ得ルヤハ敵ノ追擊狀態友軍又ハ地形ノ援助等ニ依

ルモノニシテ之ヲ一定シ難シ

(ハ) 敵ニ擊退セラレタル場合

(ロ)ニ於テ述ヘタル(c)ノ場合ノ更ニ悲惨ナルモノニテ敵兵追擊ヲ緩フスルカ或ハ友軍ニ依リ援助セラルルニ非レハ軍隊ノ集結頗ル困難ナルモノニシテ將校ノ努力ヲ要スルコト之ヨリ大ナルハナシ

以上ノ外次ニ述フルカ如キ特別ノ場合アリ

(ニ) 攻撃ヲ以テ退却ヲ容易ナラシムル場合

此場合ヲ仔細ニ見ルトキハ更ニ次ノ如キ二様ノ場合アリ

(a) 當面ノ敵ヲ擊退シ又大打撃ヲ與ヘタル後退却セントスル場合

此場合ニ於ケル退却ハ其原因當面ノ敵情ニ因ルニアラスシテ他方面ノ關係ニ因リ餘儀ナクセラレタルモノニシテ「將來退却ヲ要ス」トノ軍隊指揮官ノ意志ハ存在スルモ其退却時機ハ當面ノ敵ヲ擊退スルカ又ハ之ニ大打撃ヲ與ヘタル後ト決定シタルモノニシテ實ハ攻撃ト退却トハ別物ナリ換言スレハ軍隊指揮官ハ將來ノ退却ヲ豫期スルモ尙攻撃ヲ敢行スト云フニ過キス而シテ如斯當面ノ

敵ニ打撃ヲ加ヘタル後退却ヲ爲スヲ得ハ極メテ上策ニテ敵ヲ撃退シ得タル時殊ニ然リ但シ攻撃ト退却トノ轉換ニハ特ニ統帥ノ巧妙ヲ要スルコトヲ知ラサルヘカラス

(b)

一部ヲ以テ逆襲ヲ爲サシメ他部ノ退却ヲ容易ナラシムル場合一部隊ノ逆襲ヲ以テ敵全體ヲ阻止スルノ困難ナルハ何人モ首肯ス然レトモ一部隊ト雖決死敵軍ニ反噬ヲ加ヘンカ少クモ一時混亂ヲ惹起シ當面ノ部隊ヲ停止シ比隣部隊ハ之ニ協力シ後方部隊ハ何故ノ混亂ナルヤヲ知ラスシテ恐怖ノ念ヲ生スル等一時其敵軍ノ氣勢ヲ挫キ得ルハ事實ナリ逆襲ノ行動猛烈果敢ナルトキハ一層然リ然レトモ此逆襲ニ任シタル部隊ハ全滅ヲ豫期セサルヘカラス從テ此方法ハ非常ノ場合ニ於テ行フヘキモノナリトス

縦隊指揮官即チ多クハ戰場ニ於ケル地區指揮官及各部隊指揮官ノ退却戰鬥指導法ニモ概ネ前述ノ如キ要領アルヘキコトハ操典ノ示ス所ナリ(歩、二ノ七八ノ二、七九)

(四)

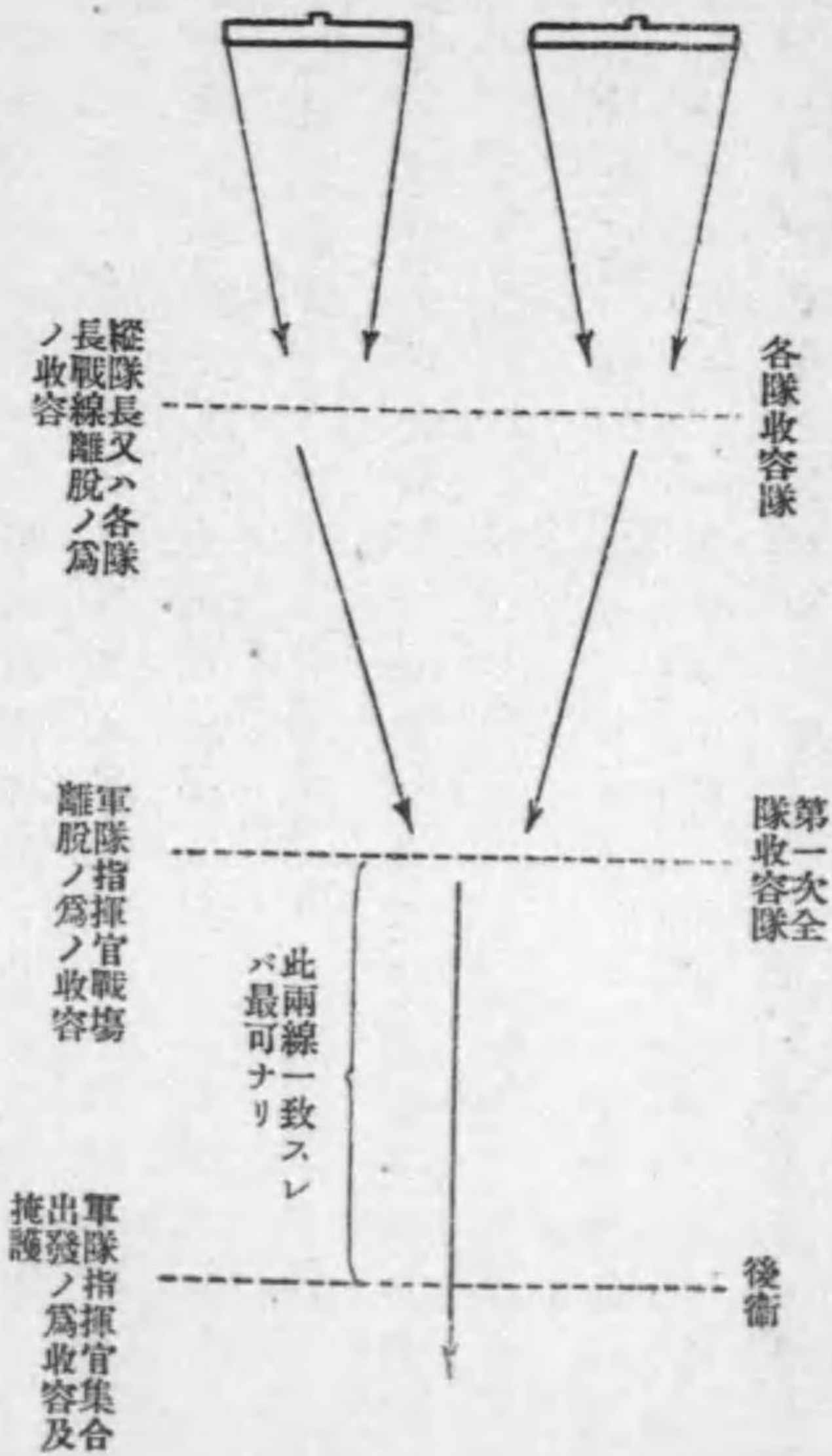
各隊收容ト全隊收容トノ關係

各隊收容トハ戰線ノ離脱ヲ容易ナラシムル爲縦隊指揮官及各部隊長ノ行フ收容ニシテ全隊收容トハ戰場ヲ離脱シ集合出發ヲ容易ナラシムル爲軍隊指揮官ノ行フモノナリ而シテ全隊收容ニ於テ戰場離脱ト集合出發ト一地ニ於テ之ヲ爲シ得レハ至極便ナリ步兵操典第二部第七十八末項ニ「此收容隊直ニ後衛トナルコトヲ得ハ大ニ有利ナリ」トアルハ此種ノ最有利ナル場合ナリ然レトモ狀況如斯ナル能ハサルトキハ勢ヒ前述目的ノ達成上之ヲ各別ニ行ハサルヘカラス是數次ノ收容ノ已ムナキ場合アル所以ナリ
今普通ノ場合ヲ圖示スレハ次ノ如シ

(五)

各隊收容ノ要領
各隊收容ノ要領ヲ研究スルニハ先ツ步兵操典第一部ノ戰鬥法ヲ熟讀スルヲ要ス

(歩一ノ一六五) 退却ヲ命セラレタルトキハ全隊同時ニ退却スルヲ有利トス時トシテハ散兵ノ一部ヲシテ敵ヲ拒止セシメ以テ他部ノ退却ヲ掩護スルコトアリ尙援隊ヲ有スルトキハ成ルヘク側方後ノ地點ヲ占領シ射撃ヲ以



テ前線ノ退却ヲ收容セシムルヲ利トスルコトアリ (中隊)

(歩一ノ一九二) 退却ヲ行フニ方リ尙豫備隊ヲ有スルトキハ先ツ之ヲ以テ收容陣地ヲ占領セシメ次テ第一線ヲ退却セシムルヲ可トス

既ニ豫備隊ヲ有セサルトキハ交戦最モ激烈ナル部隊ヲ殘シテ抵抗セシメ他ノ部分ヨリ退却セシムルヲ要ス敵ノ追撃ヲ受ケサルニ至レハ各部隊ハ

直ニ集合シ大隊長ノ許ニ到ルヘシ (大隊)

(歩一ノ二〇六) 退却ニ在リテハ敵ノ急追ヲ受ケサルニ至リタルトキハ速ニ聯隊ヲ集結スヘシ (聯隊)

(歩一ノ二一四) 旅團ノ戦闘ハ本章ニ示ス外専ラ第二部ニ掲クル戦闘ノ原則ニ基キ旅團長ノ運用ノ力ニ待ツヘキモノ多シ (旅團)

又歩兵操典第二部第七十九ニ曰ク

(歩二ノ七九) 戦線ニ在ル各部隊モ亦要スレハ縦長ニ於ケル自己ノ兵力ヲ以テ前線ヲ收容スヘシ其陣地ハ成シ得レハ退路ノ側方ニ選ヒ其火力ニ依リ敵ノ急迫ヲ妨ケ以テ前線ヲシテ潰亂ニ陥ラシメサルヲ要ス

以上ノ諸原則ヲ通覽スレハ退却ニ於テモ其他ノ場合ト同シク戦術單位ノ長タル大隊長ノ手腕ニ待ツノ多キヲ知り得ヘシ又戰場ニ於ケル各部隊ノ收容ハ必要ノ度ト縦長ニ於ケル兵力ノ有無ニ關スルモノナルコトヲ知り得ヘク而シテ如何ナル程度ニ之ヲ設クヘキヤハ全ク狀況ニ關スルモノナリト雖區分ノ多數ナルニ從ヒ動作ノ煩雜ト混雜トヲ生シ益々戦闘離脱ノ困難ヲ來スヘキハ注意ス

ヘキコトナリトス

各隊ノ收容陣地選定ノ要旨ハ戰線ニ於テ橫廣ニ排列シアル諸隊ヲシテ側方移動ノ危險ト混雜ヲ避ケシメ且此等ノ部隊ノ退却ニ伴ヒ收容隊ノ射撃ヲ妨害セラルルコトナキニ在リ又成シ得レハ追撃スル敵ヲシテ我射撃ノ爲企圖セサル正面ヲ取ラシメ之ヲ我ニ吸引セントスルニ在リ而シテ如何ナル位置ヲ適當トスルヤハ狀況特ニ地形ニ關係ス成シ得レハ側方又ハ中央後ニ於ケル高地等ヲ可トス又第一線トノ距離ハ敵ノ急迫ニ因リ前線ヲ潰亂セシメサルト前線ト共ニ我收容陣地ヲ一舉ニ突破セラレサルコトヲ願慮シテ定ムヘキモノナリ要ハ戰線ヲ奪取シ破竹ノ勢ヲ以テ急追スル敵ヲシテ更ニ一ノ新戰線ニ出會セシムル如クナスヲ要ス而シテ此際用ヒラルル兵種ハ歩兵(機關銃ヲ含ム)ナルヲ以テ小銃射程ト地形トノ關係ヲ熟慮スルヲ要ス

(六)

全隊收容ノ要領

收容陣地並收容隊ノ編成

收容陣地ハ退却スル軍隊ヲ其掩護下ニ集合出發シ得セシムル爲一般ノ狀況ヲ

願慮シテ決定ス可キモノナリ(歩二ノ七八)之カ爲ニハ少ナクモ左ノ諸件ヲ願慮スルヲ要ス

- 一 退却軍隊ノ最モ苦痛ヲ感スル地區ノ通過ヲ容易ナラシムル如ク位置ヲ選定ス
- 二 退却軍隊ヲ收容シ之ヲ整理スルノ餘地ヲ有セシム
- 三 退却軍隊ノ動作ヲ掣肘セス而モ速ニ射撃ヲ開始シ敵ノ前進ヲ阻止シ得ルヲ要ス

四 此陣地ハ各隊ノ集合及出發ヲ掩護シ得且收容隊自己ノ將來ノ退却ニモ便ナル地形ヲ可トス

元來退却ハ多ク全隊ノ形勢非ニシテ戰線ヲ撤退スルモノナルヲ以テ其内ノ一小部隊タル收容隊ヲ以テ敵全部ノ前進ヲ完全ニ拒止スル如キハ不可能ノ事ナリ故ニ此陣地選定ハ特ニ我主力ノ最モ困難ヲ感スル時機ト位置トニ於テ之ヲ救助スルコトヲ最大ノ著眼ト爲ササルヘカラス而シテ此陣地ハ一陣地ナルコトアリ又要スレハ橫方向ニモ縱方向ニモ數陣地ト爲スノ已ムナキコトアリ

小部隊ニ在リテハ戰面狹ク一翼ヨリ他翼ニ亘リ砲兵火ハ勿論時トシテ小銃火ト雖有効ニ之ヲ及シ得ルカ故ニ全隊ノ收容陣地特ニ第一次ノ收容陣地直ニ後衛トナスノ見込ナキモノハ之ヲ側方ニ設クルコトアリ否側方ニ設クルヲ有利トスルコトアリ然レトモ此收容隊ヲ直ニ後衛トナス見込ナルトキハ將來ノ便ヲ願慮シ中央後ニ設ケラルルヲ一般トス又部隊小ナレハ收容陣地モ亦戰線ニ比較的近接シアルヲ一般トス部隊大ナルトキハ到底之ヲ一側後ニ設ケ全隊ヲ收容スルコト困難ナルヲ以テ多クハ中央後ニシテ其位置ハ比較的遠隔スルモノナリ

要スルニ此收容隊ノ任務ハ最前線ヲ直接收容スルニアラスシテ各隊自ラ若干整理シツツ退却シ來ル諸軍隊ヲ收容シ之ヲ整理スルニ在リ
此種收容ノ爲ノ第一次陣地ノ部隊ヲ以テ直ニ後衛ト爲シ得ルトキハ頗ル便ナリトハ步兵操典第二部第七十八第四項ニ示ス所ナルモ果シテ之ヲ後衛トナシ得ルヤ否ヤハ一ニ敵ノ追躡状態ニ關係ス敵ノ追撃急ナレハ數次ノ收容ヲ要スルハ實ニ已ムヲ得サルナリ

收容隊ノ編組ニ就テハ步兵操典第二部第七十八第四項ニ示シアルモ特ニ諸官ノ注意ヲ促サントスルハ通常完全ナル編組ニ集結シテ後之ヲ收容ニ任スル如キハ狀況之ヲ許ササルヲ以テ逐次使用シ得ヘキ兵種兵力ヲ派遣シテ所要ヲ充タスニ至ルモノナルコト是ナリ

收容隊ト後衛トハ任務ヲ異ニスルカ故ニ收容隊ヲ直ニ後衛ト爲ス場合ニハ時ノ形勢ニ應シ適宜修正シテ完全ナル後衛トナスヘキモノナリ

(附言) 收容トハ自己ノ占領線ヨリ前方ニアルモノヲ自己ノ勢力範圍ニ包擁スルノ意ニシテ掩護トハ敵ト被掩護物トノ中間ニ在リテ自己ノ後方ニア
ルモノヲ掩ヒ護ルノ意ナリ此意義ヲ翫味スルトキハ收容隊ト後衛本然
ノ任務ノ差異ハ明瞭ニ知り得ヘシ

(七) 收容隊ノ戰鬪法

收容隊ノ戰鬪法ハ短時間ノ餘裕ヲ得ント欲スル持久防禦ナリ從テ第一線ニ殆ト全力ヲ展開スルコト多シ其詳細ハ後日持久戰ノ研究ニ於テ述フル所アラン
トス